

## 第2章

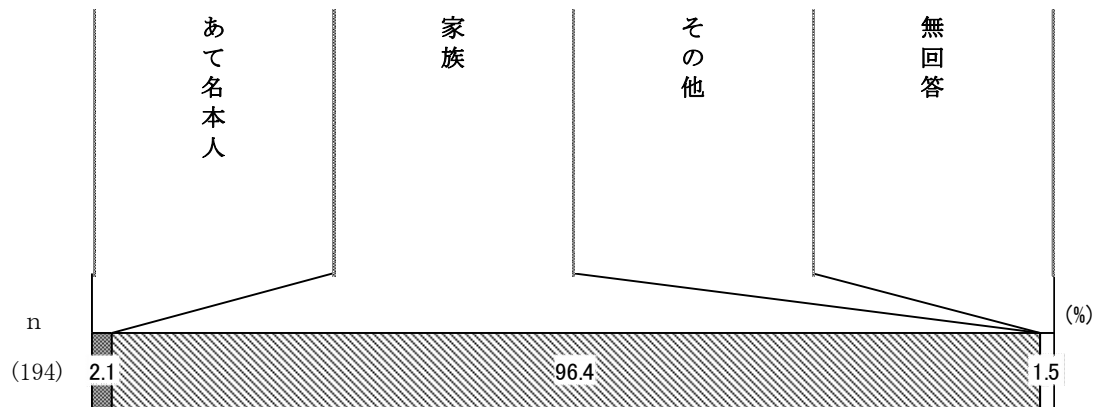
# 障害児の方を対象にした調査



## 1. 本人について

### (1) 調査票の回答者

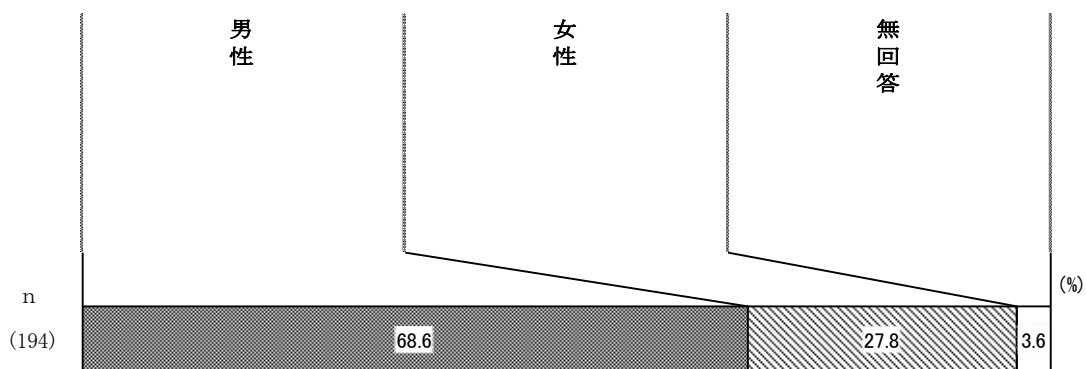
問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)



回答者のほとんどが「家族」となっています。

### (2) 性別

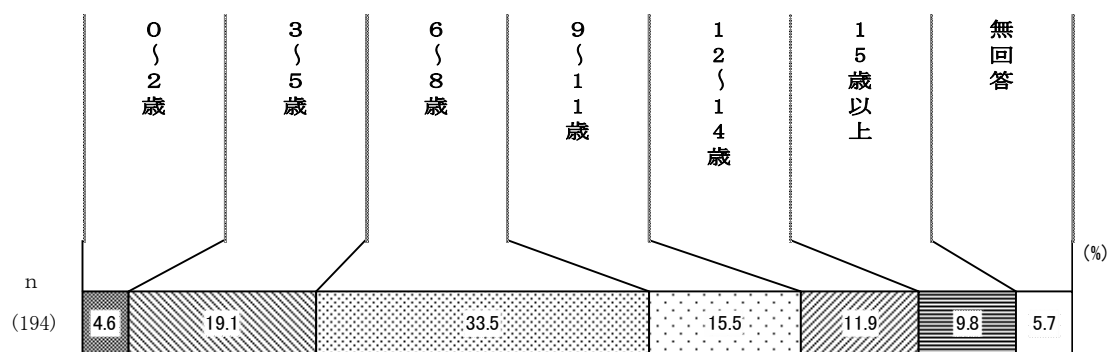
問2 あなたの性別をお聞きします。(〇はひとつ)



性別についてみると、男性が68.6%と、女性の2倍以上を占めています。

### (3) 年齢

問3 あなたの年齢をお聞きします。平成28年10月1日現在の満年齢をお書きください。



年齢についてみると、「6～8歳」が33.5%と、全体の3分の1を占めています。

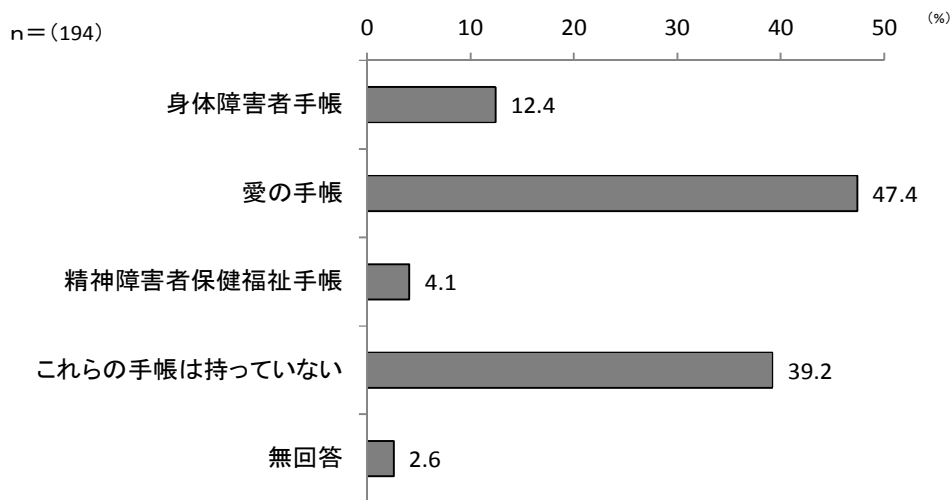
#### 《障害の種類別》

	調査数	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15歳以上	無回答
身体のみ	13	7.7	23.1	15.4	7.7	23.1	7.7	15.4
知的のみ	81	2.5	13.6	22.2	16.0	22.2	18.5	4.9
精神のみ	8	-	12.5	37.5	37.5	-	-	12.5
身体+知的	11	-	-	45.5	18.2	18.2	18.2	-
難病・特定疾患	12	25.0	33.3	16.7	8.3	-	8.3	8.3
発達障害	108	1.9	17.6	39.8	20.4	6.5	9.3	4.6

障害の種類別にみると、身体+知的、発達障害ではともに「6～8歳」が最も多くなっています。

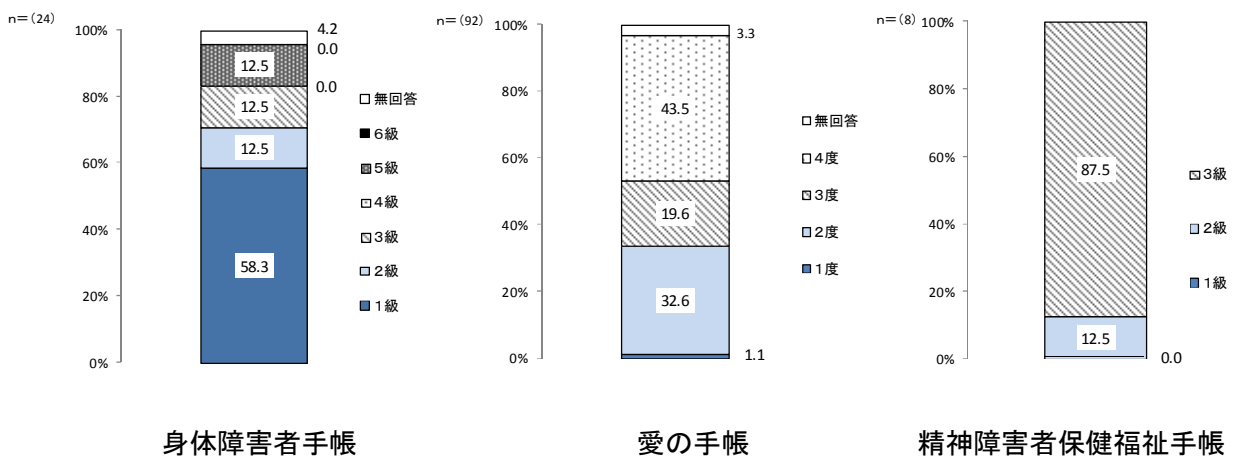
#### (4) 手帳の所持状況

問4 あなたが持っている手帳の種類をお聞きます。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(該当するものに○)



手帳の所持状況については、「愛の手帳」が47.4%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が12.4%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は39.2%となっています。

#### 《各等級別》

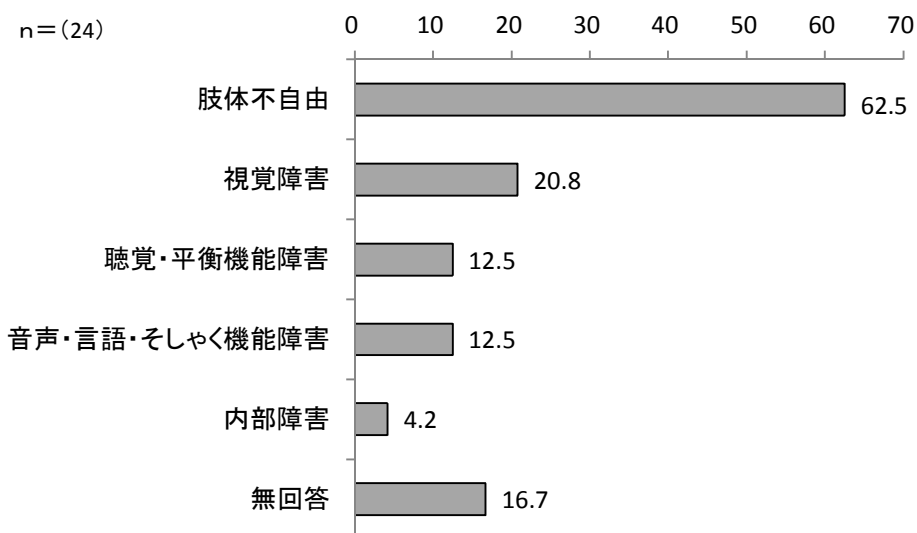


身体障害者手帳では、「1級」が58.3%を占めています。

愛の手帳では、「4度」が43.5%で最も多く、次いで「1級」の32.6%となっています。

精神障害者保健福祉手帳では、「3級」が87.5%と多くなっています。

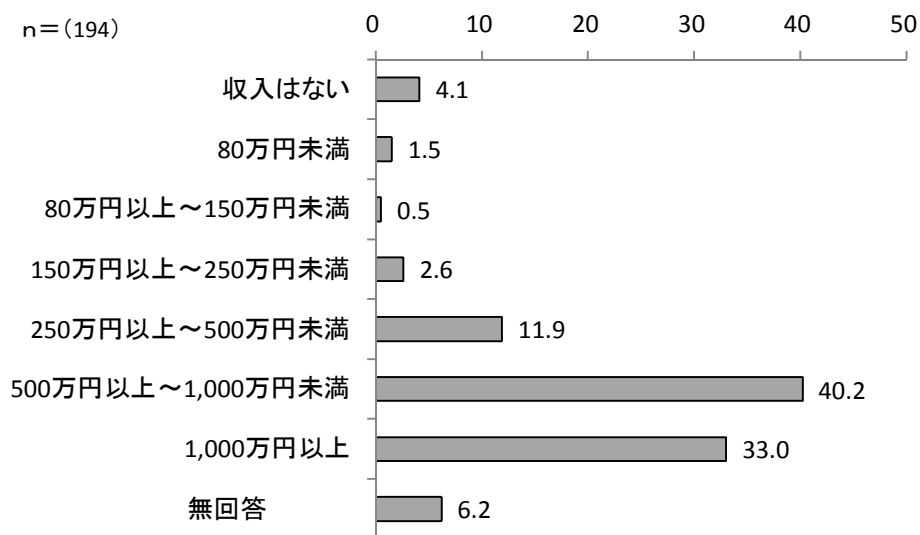
## 《身体障害者の種類》



障害の種類については、「肢体不自由」が62.5%と特に多く、次いで「視覚障害」が20.8%となっています。

## (5) 年収

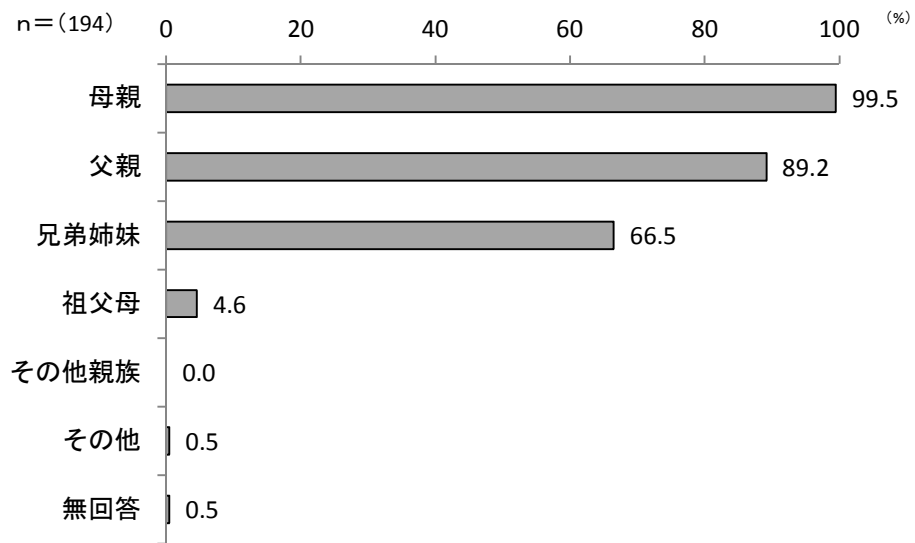
問5 保護者の方にお聞きします。世帯の年収額を税金等を差し引く前の額でお答えください。  
(○はひとつ)



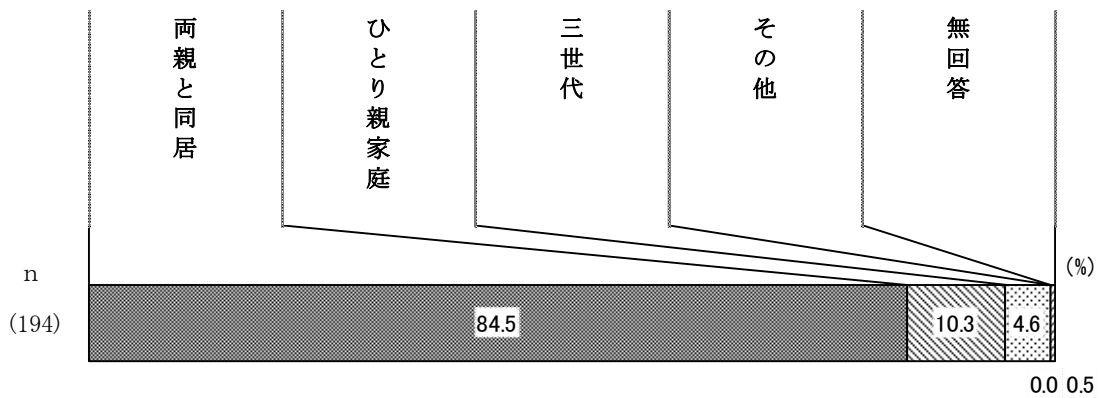
世帯の年収についてみると、500万円以上が全体の7割以上を占めています。

(6) 同居家族

問6 あなたの同居家族をお聞きます。(〇はいくつでも)



同居家族についてみると、「母親」が全数近く、「父親」が9割近くとなっています。

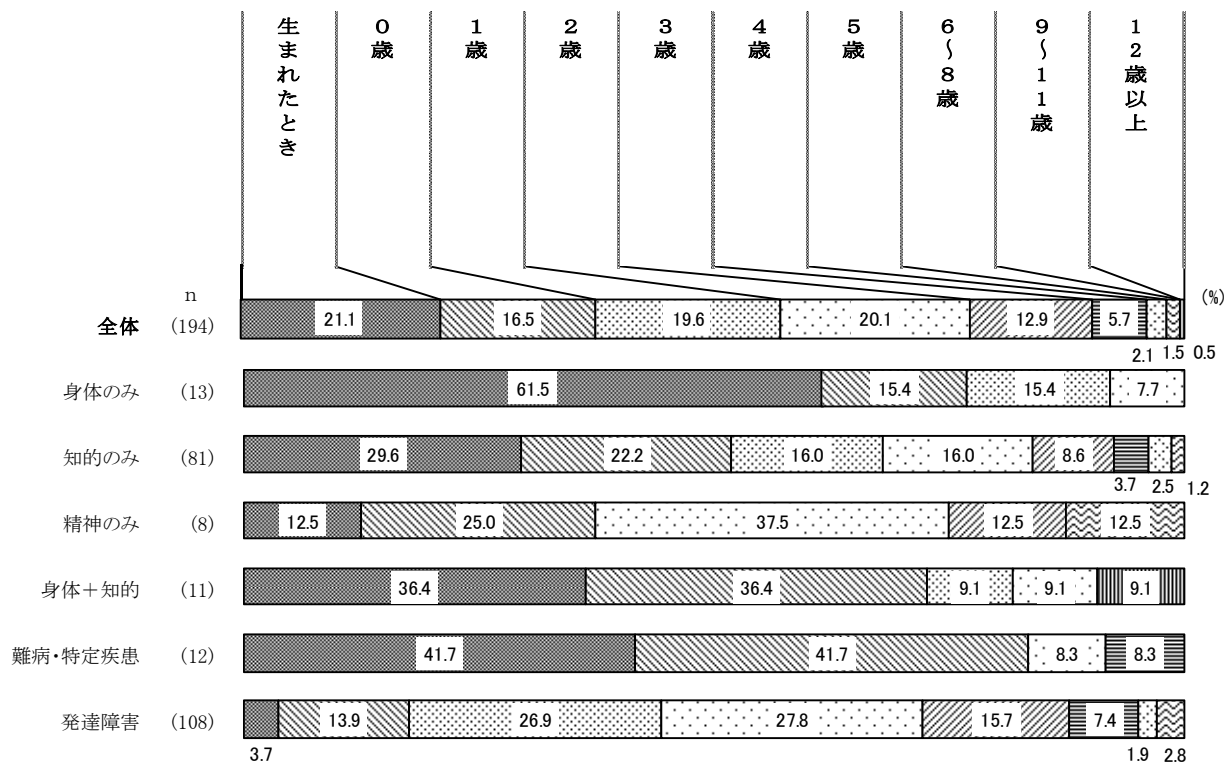


家族形態を別の分類で見ると、「両親と同居」が84.5%、「ひとり親家庭」が10.3%、「三世代」が4.6%となっています。

## 2. 障害と健康について

### (1) 障害に最初に気づいた時期

問7 保護者の方にお聞きします。お子さんの障害や心身の不調について、最初に気づいた時期はいつですか。(〇はひとつ)



家族等が障害に気がついた時期についてみると、「生まれたとき」、「1歳」、「2歳」がそれぞれ2割前後となっています。

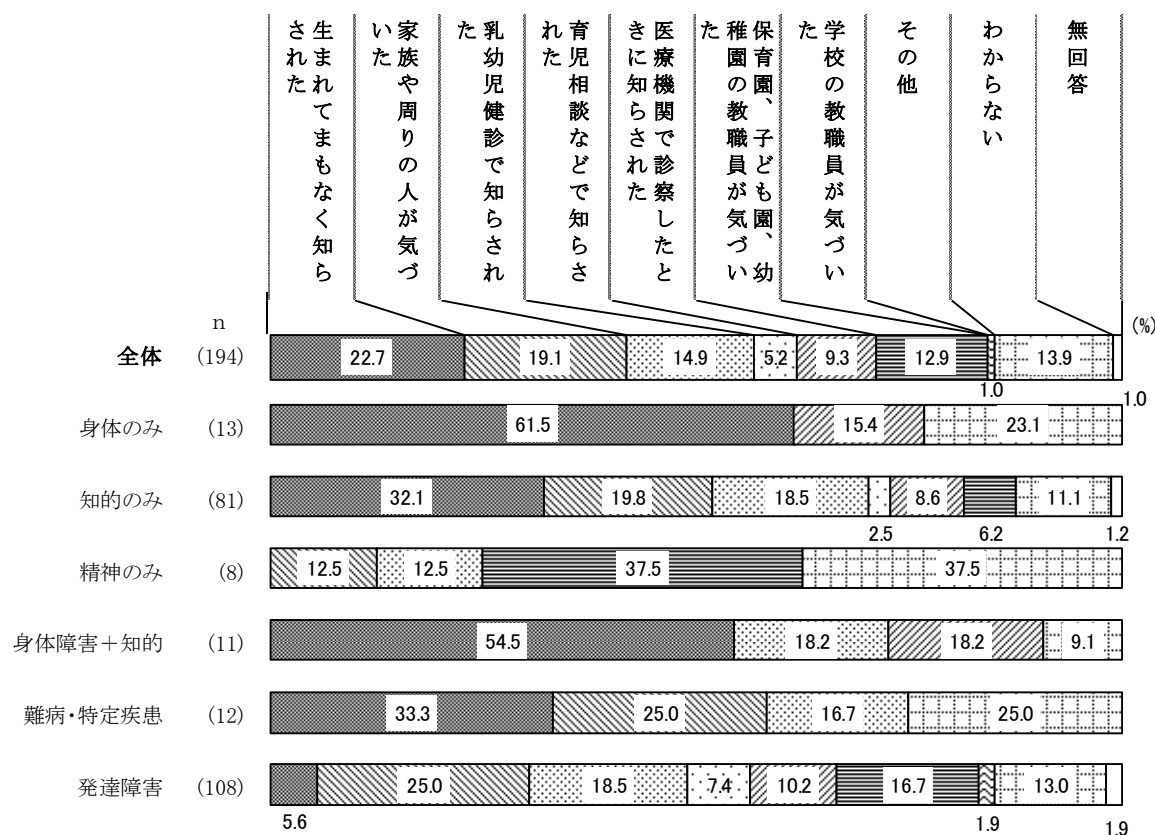
障害の種類別にみると、「身体のみ」では「生まれたとき」が61.5%と最も多く、「知的のみ」でも、「生まれたとき」が29.6%と最も多く、次いで「0歳」が22.2%となっています。

「身体と知的の重複障害」では、「生れたとき」と「0歳」で合わせて7割を超えています。一方、「発達障害」は「1歳」と「2歳」で合わせて半数以上を占めています。



## (2) 障害や不調がはじめてわかったとき

問 8 **保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったのは、どのようなときでしたか。(〇はひとつ)

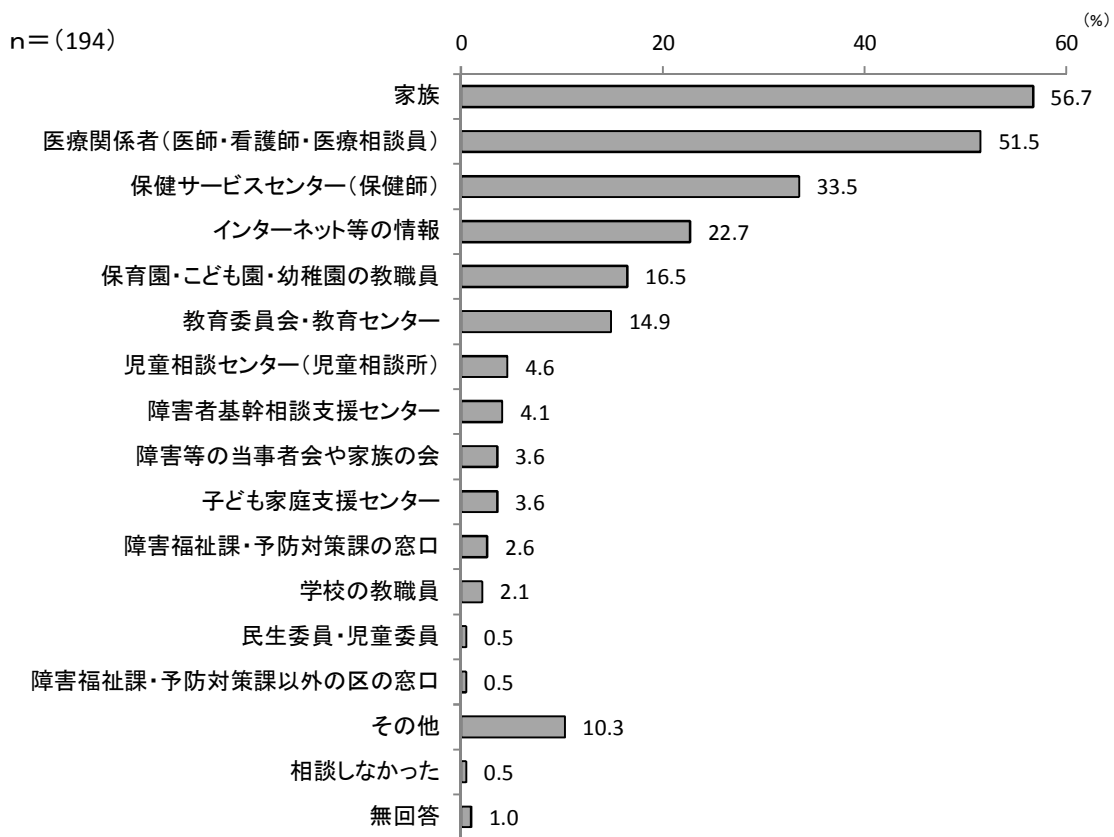


子どもの障害や心身の不調にはじめてわかったときをみると、「生まれてまもなく知らされた」と「家族や周りの人が気づいた」が2割前後となっています。

障害の種類別にみると、「身体のみ」や「知的のみ」では、「生まれてまもなく知らされた」がそれぞれ61.5%、32.1%と最も多く、「発達障害」では「家族や周りの人が気づいた」が25.0%で最も多くなっています。

### (3) 相談相手

問9 そのとき、誰に相談しましたか。(〇はいくつでも)



相談相手を見ると、「家族」56.7%と「医療関係者(医師・看護師・医療相談員)」51.5%が過半数を占めて多くなっています。

《障害の種類別》

	調査数	家族	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	医療関係者（医師・看護師・医療相談員）
身体のみ	13	46.2	7.7	-	-	7.7	69.2
知的のみ	81	59.3	1.2	6.2	-	4.9	55.6
精神のみ	8	50.0	12.5	25.0	-	-	62.5
身体+知的	11	72.7	-	-	-	9.1	72.7
難病・特定疾患	12	50.0	-	8.3	-	-	75.0
発達障害	108	51.9	2.8	25.0	0.9	1.9	47.2

	調査数	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター（保健師）	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター
身体のみ	13	-	-	15.4	15.4	7.7	7.7
知的のみ	81	2.5	1.2	29.6	-	-	7.4
精神のみ	8	-	-	62.5	-	12.5	37.5
身体+知的	11	-	-	63.6	-	9.1	-
難病・特定疾患	12	8.3	-	16.7	-	8.3	8.3
発達障害	108	1.9	0.9	35.2	2.8	5.6	20.4

	調査数	児童相談センター（児童相談所）	インターネット等の情報	相談しなかった	その他	無回答
身体のみ	13	7.7	38.5	-	15.4	-
知的のみ	81	6.2	21	-	9.9	1.2
精神のみ	8	-	50	-	12.5	-
身体+知的	11	-	18.2	-	-	-
難病・特定疾患	12	8.3	33.3	-	-	-
発達障害	108	6.5	19.4	0.9	12.0	1.9

障害の種類別にみると、「身体のみ」では「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が69.2%と最も多く、次いで「家族」が46.2%となっています。

一方、「知的のみ」では、「家族」が59.3%と最も多く、次いで「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が55.6%となっています。

「身体と知的の重複障害」では、「家族」と「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が7割以上となっています。

《年代別》

	調査数	家族	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)
0～2歳	9	66.7	-	-	-	-	44.4
3～5歳	37	51.4	2.7	13.5	-	2.7	54.1
6～8歳	65	55.4	1.5	20.0	1.5	3.1	46.2
9～11歳	30	66.7	3.3	30.0	-	3.3	53.3
12～14歳	23	56.5	-	4.3	-	4.3	52.2
15歳以上	19	68.4	5.3	15.8	-	10.5	57.9

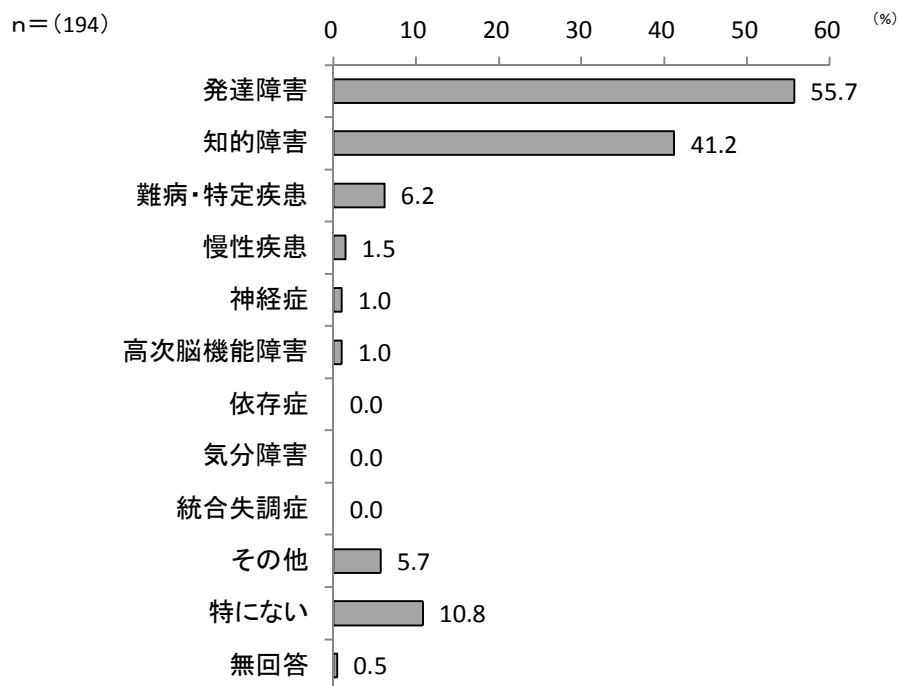
	調査数	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター (保健師)	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター
0～2歳	9	-	-	11.1	-	-	33.3
3～5歳	37	2.7	-	40.5	2.7	8.1	29.7
6～8歳	65	3.1	-	38.5	6.2	4.6	16.9
9～11歳	30	6.7	-	33.3	3.3	3.3	6.7
12～14歳	23	-	-	30.4	4.3	-	-
15歳以上	19	-	5.3	26.3	-	-	5.3

	調査数	児童相談センター(児童相談所)	インターネット等の情報	相談しなかった	その他	無回答
0～2歳	9	-	55.6	-	-	-
3～5歳	37	2.7	18.9	-	10.8	-
6～8歳	65	4.6	24.6	1.5	9.2	-
9～11歳	30	13.3	20.0	-	16.7	-
12～14歳	23	-	26.1	-	8.7	4.3
15歳以上	19	5.3	15.8	-	10.5	-

年代別にみると、いずれの年代も「家族」と「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が多くなっています。また、「保健サービスセンター（保健師）」や「教育委員会・教育センター」は幼少になるほど多く利用される傾向があります。

#### (4) 疾患・障害の有無

問 10 あなたには、次の疾患や障害がありますか。(該当するものに○)

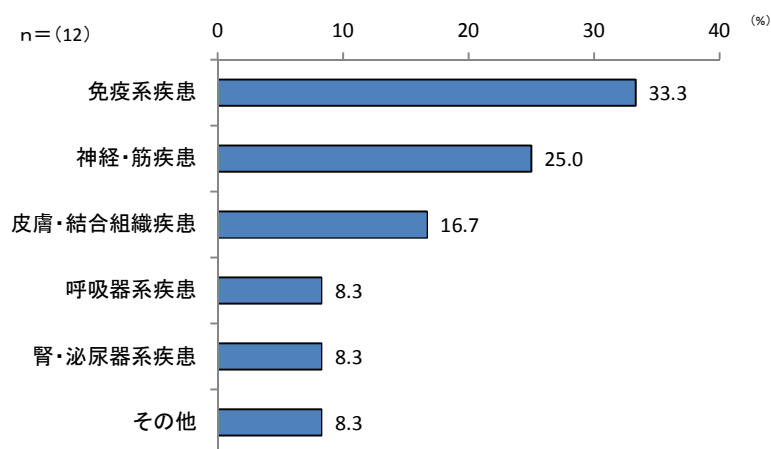


該当する疾患・障害をみると、「発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）」が55.7%で最も多く、次いで「知的障害」が41.2%となっています。

## (5) 難病・特定疾患の病名

問 11 問 10 で「1 難病・特定疾患」と回答された方にお聞きします。

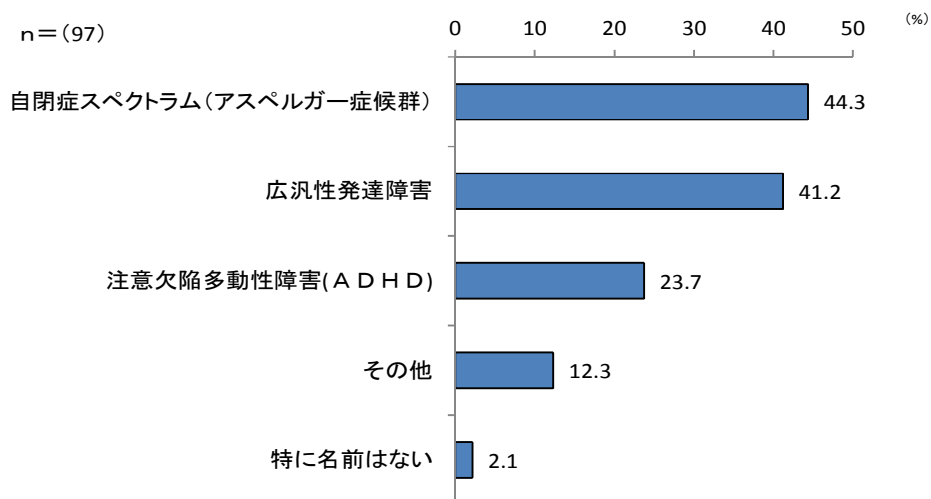
病名（東京都発行の小児慢性疾患医療費助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。



難病・特定疾患の病名をまとめたところ、「免疫系疾患」が他よりも多くなっています。

## (6) 発達障害の診断名

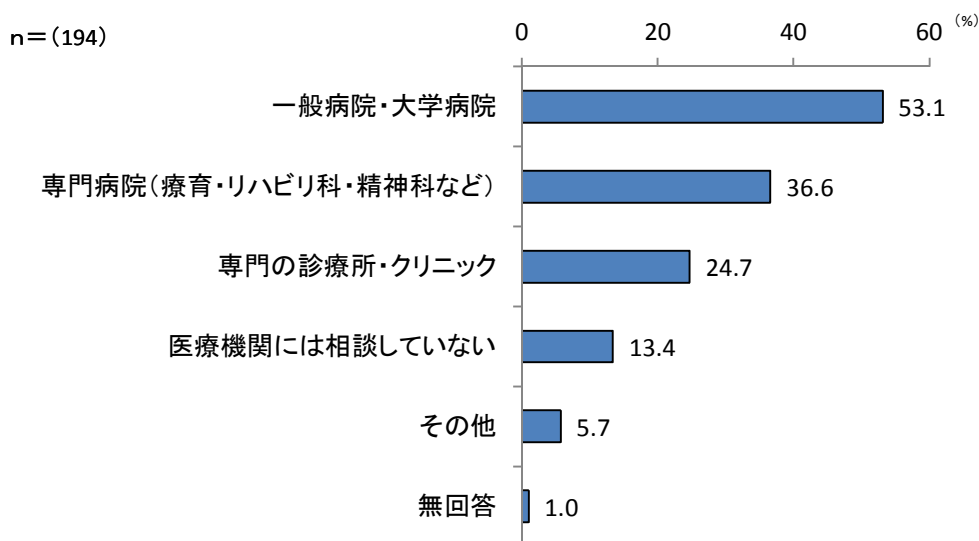
問 12 問 10 で「8 発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）」と回答された方にお聞きします。診断名をお答え下さい。



記入があった中では「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群）」の44.3%と「広汎性発達障害」の41.2%が多くなっています。

## (7) 障害について受診・相談先

問 13 あなたは、障害や心身の不調について、どのような医療機関で治療を受けたり、相談をしたりしていますか。(〇はいくつでも)



障害についての受診・相談先についてみると、「一般病院・大学病院」が53.1%で最も多くなっています。

	調査数	専門の診療所・クリニック	一般病院・大学病院	専門病院(療育・リハビリ科・精神科など)	医療機関には相談していない	その他	無回答
身体のみ	13	7.7	<b>92.3</b>	61.5	-	-	-
知的のみ	81	25.9	<b>65.4</b>	34.6	4.9	2.5	1.2
精神のみ	8	25.0	37.5	<b>87.5</b>	-	12.5	-
身体+知的	11	36.4	<b>81.8</b>	54.5	-	-	-
難病・特定疾患	12	25.0	<b>100.0</b>	58.3	-	-	-
発達障害	108	36.1	<b>39.8</b>	33.3	13.0	8.3	-

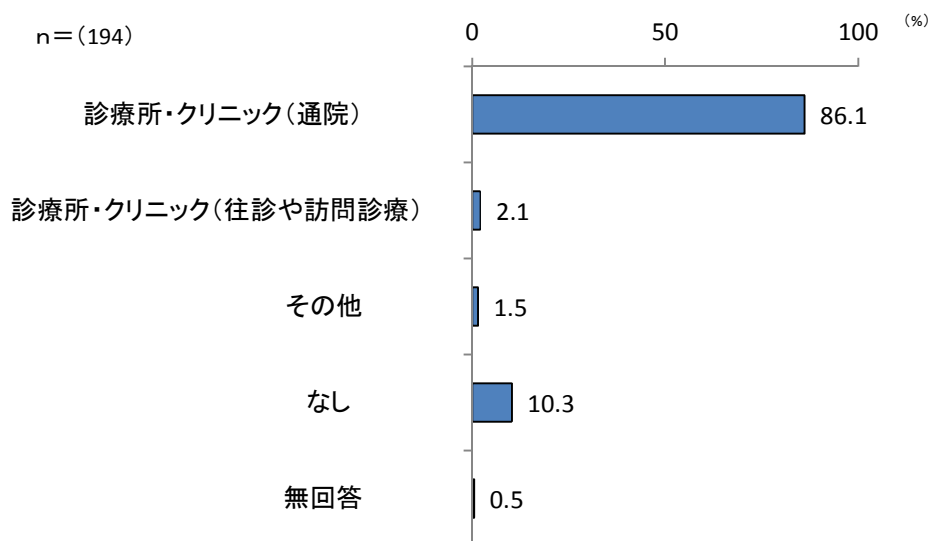
障害の種類別にみると、「身体のみ」では、「一般病院・大学病院」が92.3%で最も多く、次いで「専門病院(療育・リハビリ科・精神科など)」が61.5%となっています。

また、「知的のみ」でも、「一般病院・大学病院」が65.4%で最も多く、次いで「専門病院(療育・リハビリ科・精神科など)」が34.6%となっています。

一方で、「精神のみ」では、「専門病院(療育・リハビリ科・精神科など)」が87.5%と最も多くなっています。

## (8) かかりつけ医の有無

問 14 あなたは、問 13 の医療機関以外に、普段の健康や体調が悪い時（風邪など）に気軽に相談できる診療所の「かかりつけ医」がいますか。（〇はいくつでも）



かかりつけ医の有無をみると、「診療所・クリニック（通院）」が86.1%を占めています。

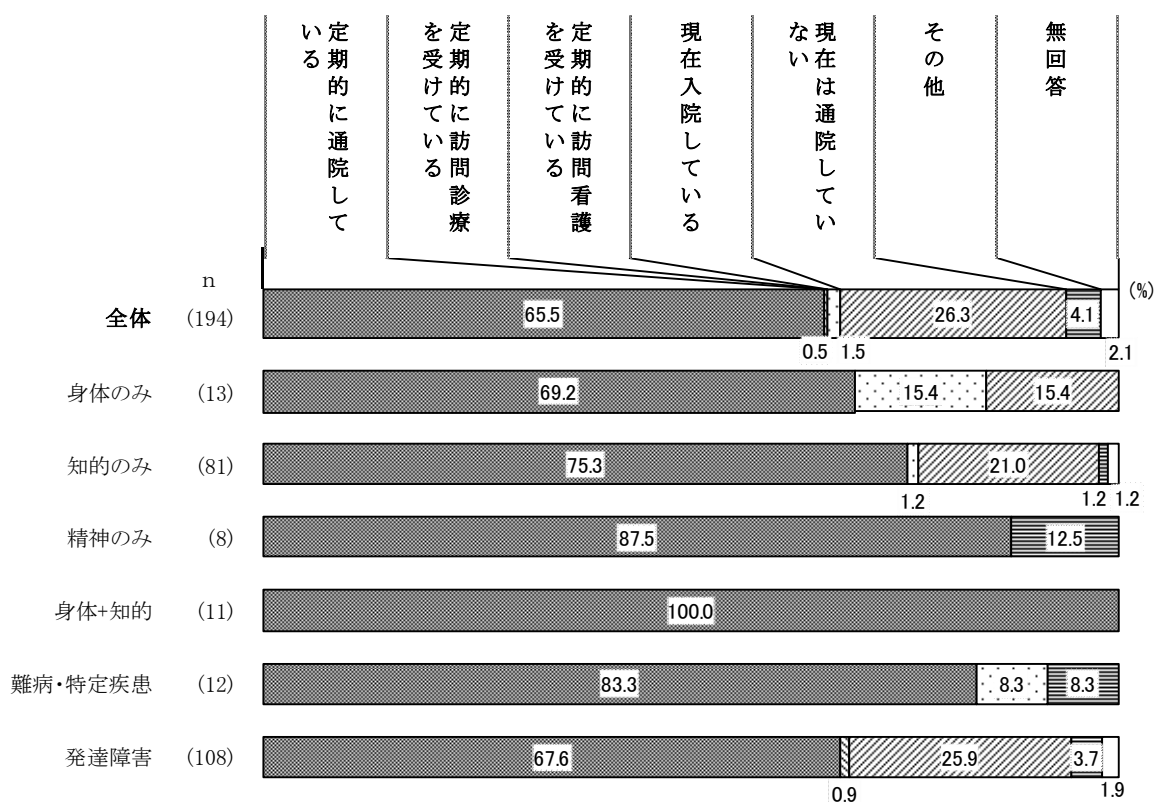
	調査数	診療所・クリニック(通院)	診療所・クリニック(往診や訪問診療)	なし	その他	無回答
身体のみ	13	61.5	7.7	30.8	-	-
知的のみ	81	85.2	1.2	12.3	2.5	-
精神のみ	8	100.0	-	-	-	-
身体+知的	11	72.7	9.1	9.1	9.1	-
難病・特定疾患	12	91.7	-	8.3	-	-
発達障害	108	90.7	0.9	6.5	1.9	-

障害の種類別にみると、「診療所・クリニック（通院）」が、「身体のみ」では61.5%、「知的のみ」では85.2%などと、いずれの障害でも最も多くなっています。



## (9) 受診状況

問 15 障害等について、受診状況等をお聞きます。(○はひとつ)

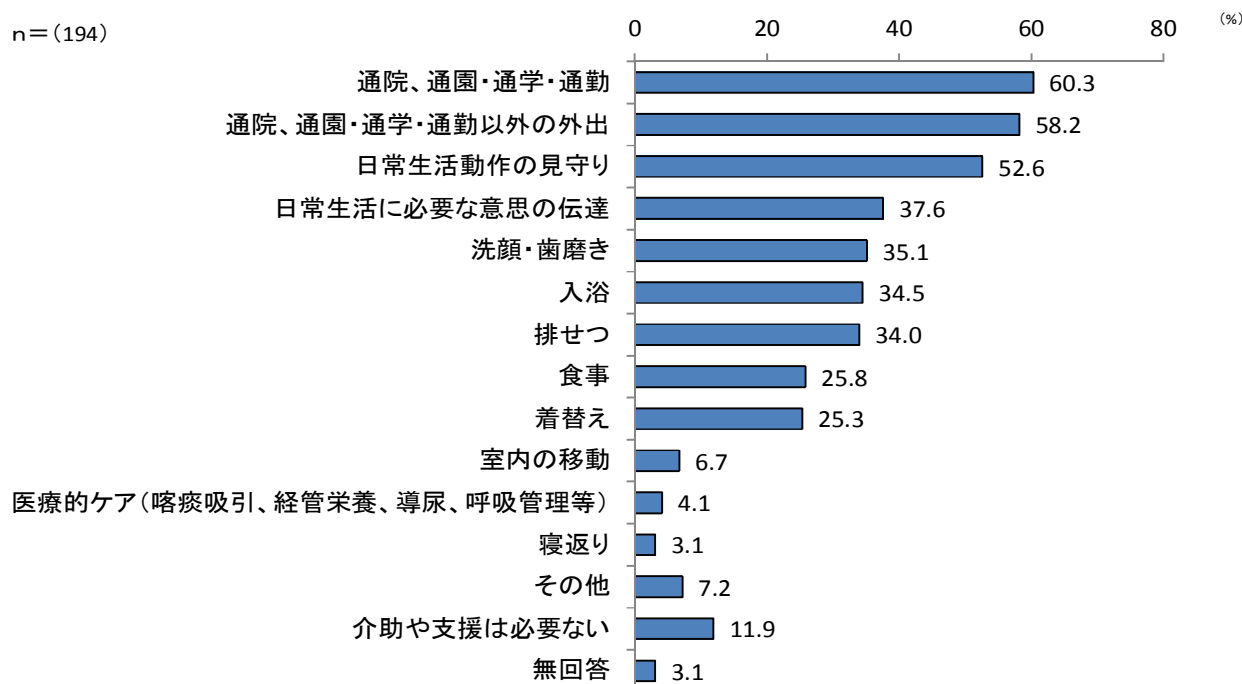


受診状況を見ると、「定期的に通院している」が65.5%、「現在は通院していない」が26.3%となっています。

障害の種類別にみると、「定期的に通院している」が、「身体のみ」では69.2%、「知的のみ」では75.3%、「身体と知的の重複障害」では100.0%などと、いずれの障害でも最も多くなっています。

## (10) 日常生活に必要な介助・支援

問 16 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。(〇はいくつでも)



日常生活での必要な介助・支援についてみると、「通院、通園・通学・通勤」(60.3%)と「通院、通園・通学・通勤以外の外出」(58.2%)が6割前後で多くなっています。

### 《障害の種類別》

	調査数	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	室内の移動	洗顔・歯磨き	通院、通園・通学・通勤
身体のみ	13	61.5	<b>76.9</b>	<b>76.9</b>	38.5	69.2	53.8	69.2	<b>84.6</b>
知的のみ	81	32.1	45.7	46.9	-	32.1	2.5	46.9	<b>82.7</b>
精神のみ	8	37.5	25.0	12.5	-	-	-	12.5	37.5
身体+知的	11	54.5	63.6	63.6	9.1	54.5	36.4	63.6	<b>90.9</b>
難病・特定疾患	12	75.0	<b>91.7</b>	83.3	8.3	83.3	25.0	83.3	<b>91.7</b>
発達障害	108	19.4	23.1	25.0	0.9	15.7	2.8	25.0	<b>54.6</b>

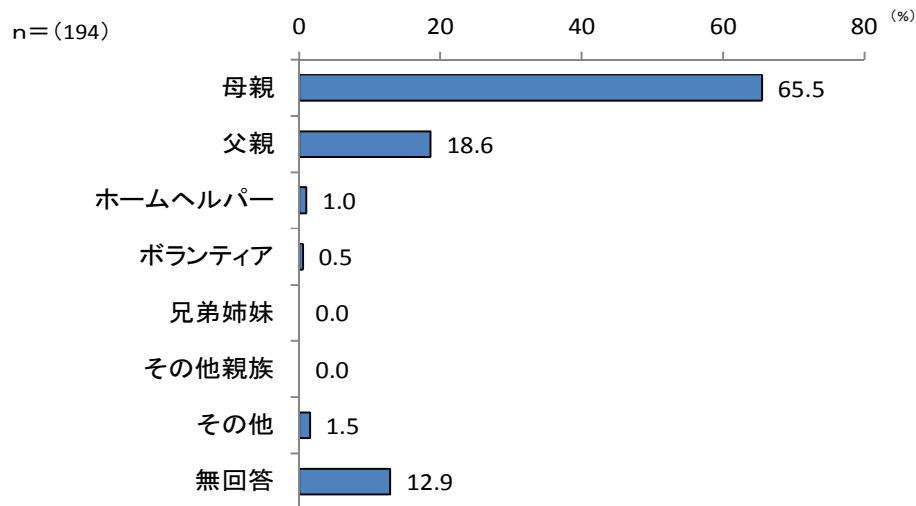
	調査数	通院、通園・通学・通勤以外の外出	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	介助や支援は必要ない	医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養、導尿、呼吸管理等)	その他	無回答
身体のみ	13	<b>76.9</b>	61.5	61.5	-	38.5	7.7	-
知的のみ	81	<b>80.2</b>	45.7	60.5	1.2	1.2	1.2	2.5
精神のみ	8	<b>62.5</b>	50	25	-	-	37.5	-
身体+知的	11	<b>100.0</b>	63.6	72.7	-	18.2	-	-
難病・特定疾患	12	<b>91.7</b>	83.3	91.7	-	25.0	8.3	-
発達障害	108	<b>52.8</b>	32.4	50.9	13.9	0.9	6.5	1.9

障害の種類別にみると、「身体のみ」、「知的のみ」で「通院、通園・通学・通勤」「通院、通園・通学・通勤以外の外出」が8割前後と多くなっています。

また、「身体のみ」では、「排せつ」と「入浴」が76.9%、「着替え」と「洗顔・歯磨き」が69.2%と多くなっています。

### (11) 主な介助・支援者

問 17 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(〇はひとつ)



主な介助・支援者をみると、「母親」が65.5%と特に多くなっています。

### 《障害の種類別》

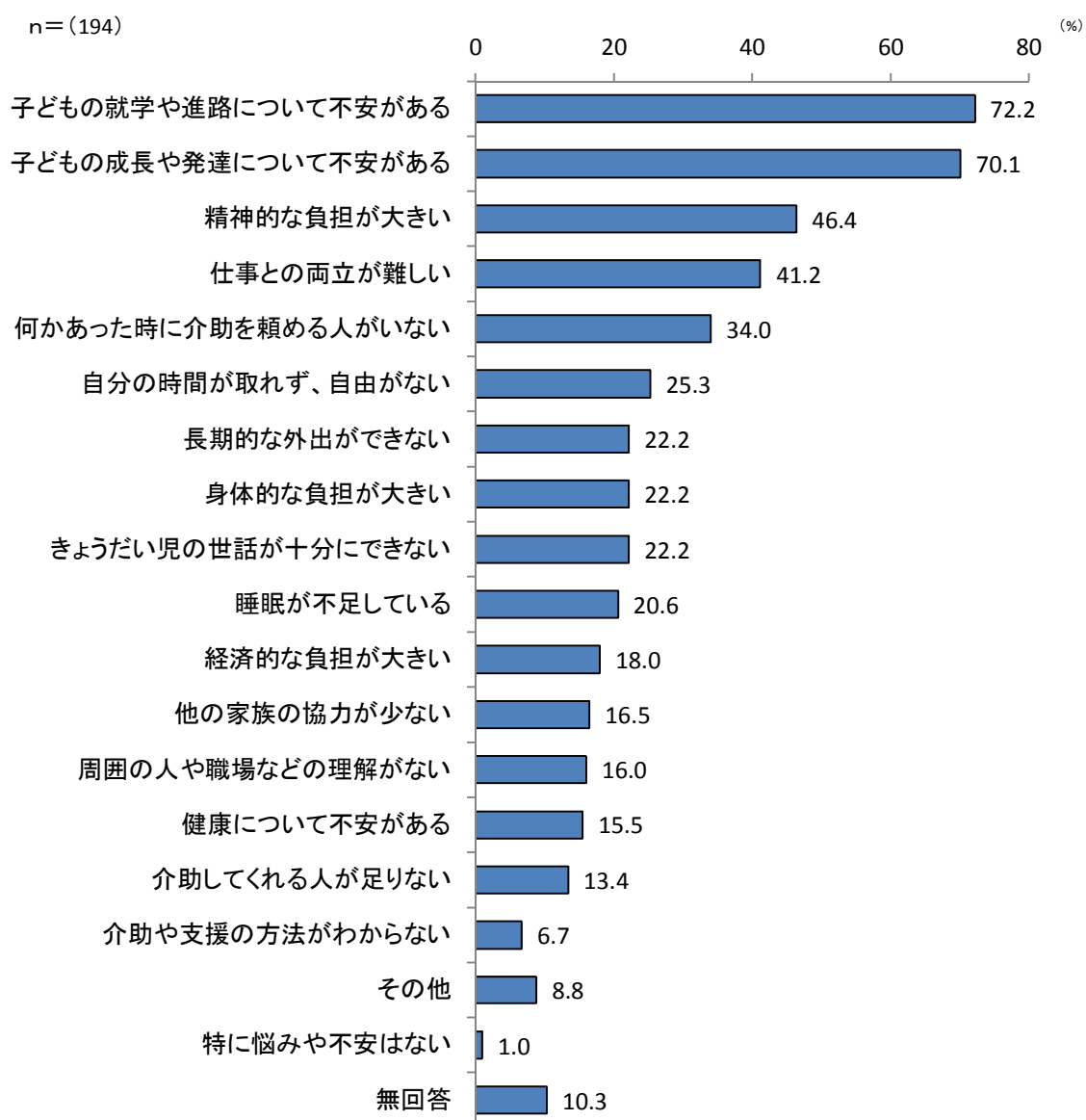
	調査数	父親	母親	兄弟姉妹	その他親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
身体のみ	13	38.5	<b>53.8</b>	-	-	-	-	7.7	-
知的のみ	81	19.8	<b>74.1</b>	-	-	1.2	-	1.2	3.7
精神のみ	8	-	<b>100.0</b>	-	-	-	-	-	-
身体+知的	11	-	<b>100.0</b>	-	-	-	-	-	-
難病・特定疾患	12	16.7	<b>75.0</b>	-	-	-	-	8.3	-
発達障害	108	22.2	<b>61.1</b>	-	-	0.9	0.9	0.9	13.9

障害の種類別にみると、「母親」が、「身体のみ」で53.8%、「知的のみ」で74.1%、「発達障害」で61.1%などと、いずれの障害でも多くなっています。

## (12) 保護者の悩み・不安

問 18 保護者の方にお聞きします。

どのような悩みや不安を抱えていますか。(〇はいくつでも)



保護者の悩み・不安をみると、「子どもの就学や進路について不安がある」(72.2%)と「子どもの成長や発達について不安がある」(70.1%)が7割を超えて多くなっています。

《障害の種類別》

	調査数	介助してくれる人が足りない	何かあった時に介助を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	仕事との両立が難しい	長期的な外出ができない	介助や支援の方法がわからない	自分の時間が取れず、自由がない
身体のみ	13	30.8	<b>69.2</b>	23.1	<b>53.8</b>	61.5	7.7	38.5
知的のみ	81	17.3	43.2	17.3	<b>45.7</b>	29.6	8.6	30.9
精神のみ	8	25.0	25.0	37.5	<b>87.5</b>	50.0	-	37.5
身体+知的	11	18.2	<b>63.6</b>	18.2	54.5	27.3	-	45.5
難病・特定疾患	12	8.3	<b>58.3</b>	25.0	<b>75.0</b>	25.0	16.7	58.3
発達障害	108	11.1	28.7	14.8	42.6	22.2	8.3	23.1

	調査数	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	睡眠が不足している	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない	きょうだい児の世話が十分にできない
身体のみ	13	46.2	30.8	23.1	<b>53.8</b>	38.5	7.7	23.1
知的のみ	81	22.2	19.8	27.2	<b>48.1</b>	19.8	19.8	23.5
精神のみ	8	62.5	37.5	37.5	<b>87.5</b>	37.5	37.5	62.5
身体+知的	11	54.5	18.2	45.5	45.5	27.3	9.1	36.4
難病・特定疾患	12	33.3	16.7	33.3	41.7	41.7	25.0	25.0
発達障害	108	21.3	15.7	22.2	<b>56.5</b>	15.7	19.4	26.9

	調査数	子どもの就学や進路について不安がある	子どもの成長や発達について不安がある	特に悩みや不安はない	その他	無回答
身体のみ	13	<b>61.5</b>	38.5	-	15.4	-
知的のみ	81	<b>84.0</b>	<b>75.3</b>	-	8.6	1.2
精神のみ	8	<b>100.0</b>	<b>87.5</b>	-	12.5	-
身体+知的	11	<b>63.6</b>	<b>72.7</b>	-	18.2	-
難病・特定疾患	12	<b>91.7</b>	<b>58.3</b>	-	25.0	-
発達障害	108	<b>75.9</b>	<b>75.9</b>	1.9	7.4	11.1

障害の種類別にみると、「身体のみ」では「何かあった時に介助を頼める人がいない」が69.2%と最も多く、次いで「子どもの就学や進路について不安がある」が61.5%となっています。

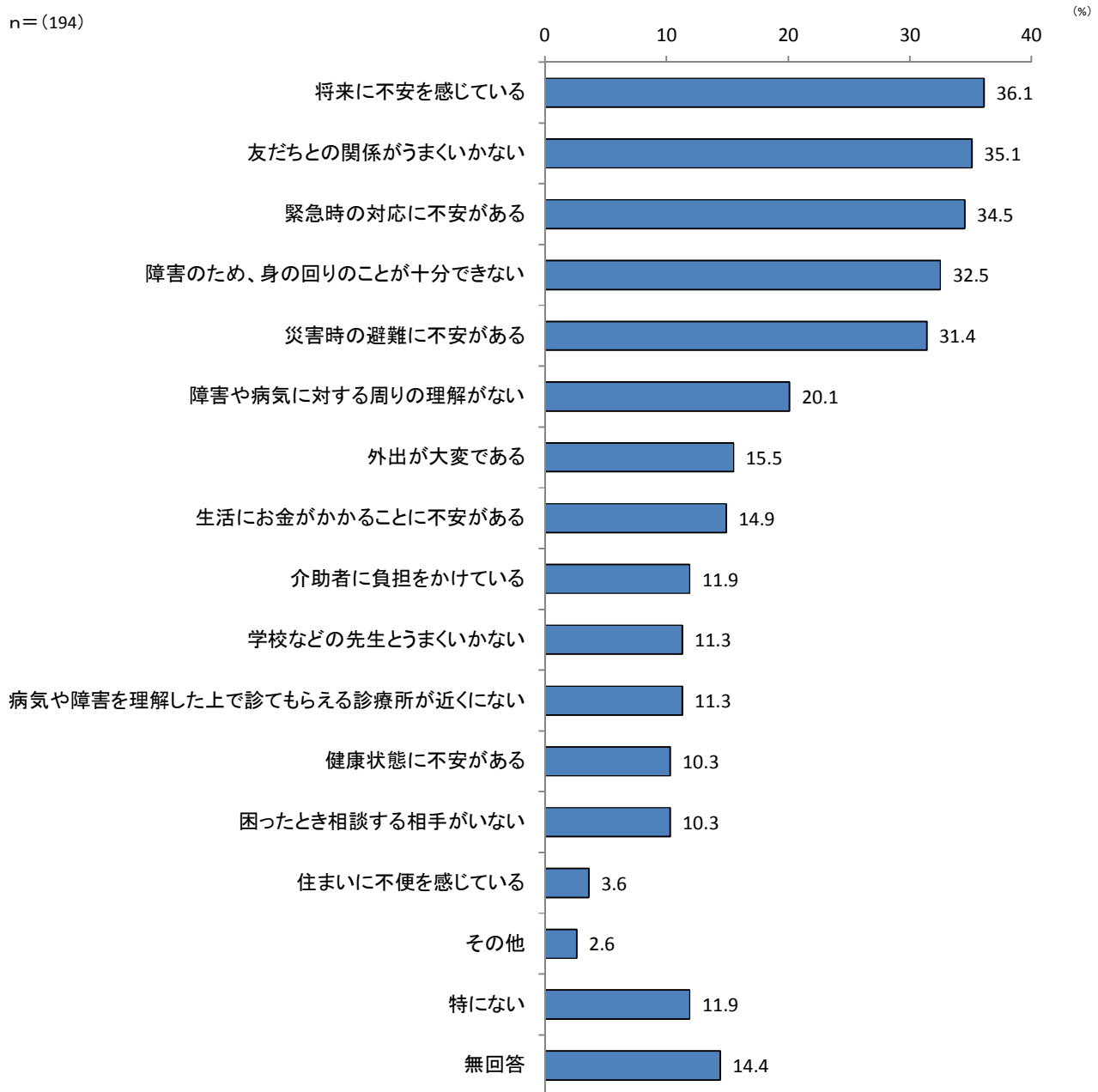
また、「知的のみ」では、「子どもの就学や進路について不安がある」が84.0%と最も多く、次いで「子どもの成長や発達について不安がある」が75.3%となっています。

「発達障害」では、「子どもの就学や進路について不安がある」と「子どもの成長や発達について不安がある」が、ともに75.9%となっています。

### 3. 相談や福祉の情報について

#### (1) 日常生活で困っていること

問 19 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。(〇はいくつでも)  
(ご家族や支援者が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください)



日常生活で困っていることをみると、「将来に不安を感じている」が36.1%で最も多く、以下「友だちとの関係がうまくいかない」が35.1%、「緊急時の対応に不安がある」が34.5%と続いています。

《障害の種類別》

	調査数	将来に不安を感じている	友だちとの関係がうまくいかない	緊急時の対応に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	災害時の避難に不安がある	障害や病気に対する周りの理解がない
身体のみ	13	30.8	-	53.8	61.5	53.8	23.1
知的のみ	81	40.7	30.9	49.4	39.5	42.0	19.8
精神のみ	8	75.0	87.5	62.5	25.0	62.5	62.5
身体+知的	11	18.2	72.7	27.3	18.2	-	72.7
難病・特定疾患	12	33.3	16.7	33.3	66.7	33.3	41.7
発達障害	108	36.1	47.2	34.3	25.9	30.6	23.1

	調査数	外出が大変である	生活にお金がかかることに不安がある	介助者に負担をかけている	学校などの先生とうまくいかない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない	健康状態に不安がある
身体のみ	13	46.2	23.1	30.8	7.7	23.1	38.5
知的のみ	81	18.5	13.6	16.0	8.6	11.1	8.6
精神のみ	8	12.5	50.0	-	12.5	12.5	12.5
身体+知的	11	54.5	9.1	-	27.3	18.2	18.2
難病・特定疾患	12	41.7	16.7	25.0	16.7	16.7	25.0
発達障害	108	12.0	16.7	12.0	13.0	11.1	5.6

	調査数	困ったとき相談する相手がいない	住まいに不便を感じている	その他	特にない	無回答
身体のみ	13	7.7	15.4	-	23.1	15.4
知的のみ	81	9.9	3.7	1.2	7.4	7.4
精神のみ	8	12.5	12.5	-	12.5	-
身体+知的	11	18.2	72.7	9.1	-	-
難病・特定疾患	12	25.0	8.3	0.0	16.7	0.0
発達障害	108	9.3	3.7	3.7	9.3	14.8

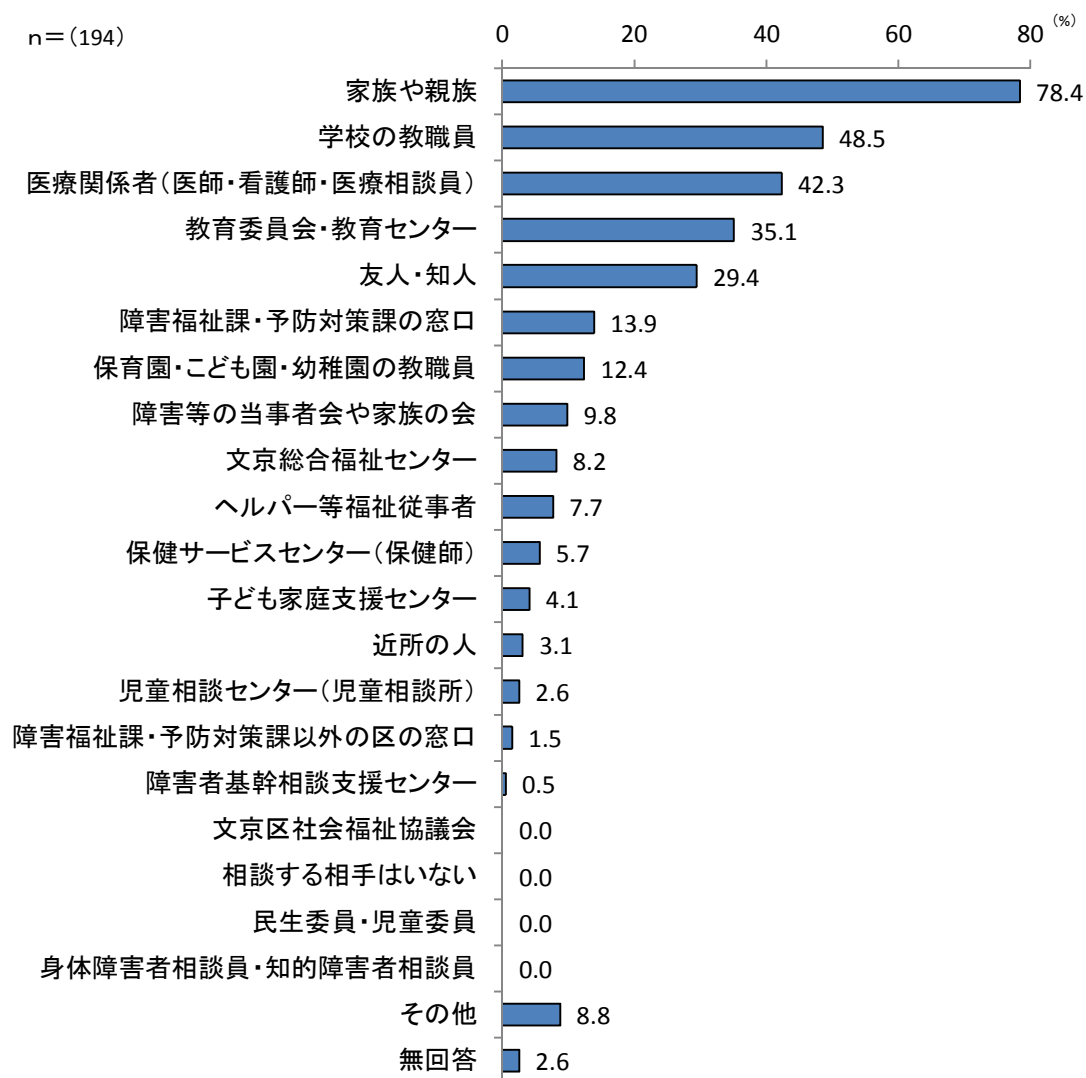
障害の種類別にみると、「身体のみ」では「障害のため、身の回りのことが十分できない」が6割を超えています。

「知的のみ」では、「緊急時の対応に不安がある」が49.4%で最も多く、「災害時の避難に不安がある」42.0%や「将来に不安を感じている」40.7%が4割台となっています。

「発達障害」では、「友だちとの関係がうまくいかない」が47.2%で最も多く、次いで「将来に不安を感じている」36.1%、「緊急時の対応に不安がある」34.3%となっています。

## (2) 困ったときの相談相手

問 20 あなたやご家族の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。  
(〇はいくつでも)



困った時の相談相手を見ると、「家族や親族」が78.4%と特に多く、次いで「学校の教職員」が48.5%、「医療関係者(医師・看護師・医療相談員)」が42.3%と続いています。



《障害の種類別》

	調査数	家族や親族	学校の教職員	医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)	教育委員会・ 教育センター	友人・知人	障害福祉課・ 予防対策課 の窓口
身体のみ	13	69.2	30.8	38.5	23.1	15.4	23.1
知的のみ	81	77.8	50.6	44.4	24.7	30.9	17.3
精神のみ	8	62.5	62.5	62.5	50.0	37.5	37.5
身体+知的	11	90.9	-	36.4	63.6	-	-
難病・特定疾患	12	100.0	8.3	66.7	41.7	16.7	16.7
発達障害	108	75.9	52.8	46.3	46.3	28.7	1.9

	調査数	保育園・こども園・幼稚園の教職員	障害等の当事者会や家族の会	文京総合福祉センター	ヘルパー等福祉従事者	保健サービスセンター(保健師)	子ども家庭支援センター
身体のみ	13	7.7	15.4	-	-	7.7	-
知的のみ	81	8.6	13.6	6.2	12.3	2.5	3.7
精神のみ	8	12.5	-	25.0	-	12.5	12.5
身体+知的	11	27.3	-	27.3	63.6	9.1	-
難病・特定疾患	12	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0
発達障害	108	16.7	4.6	12.0	7.4	6.5	6.5

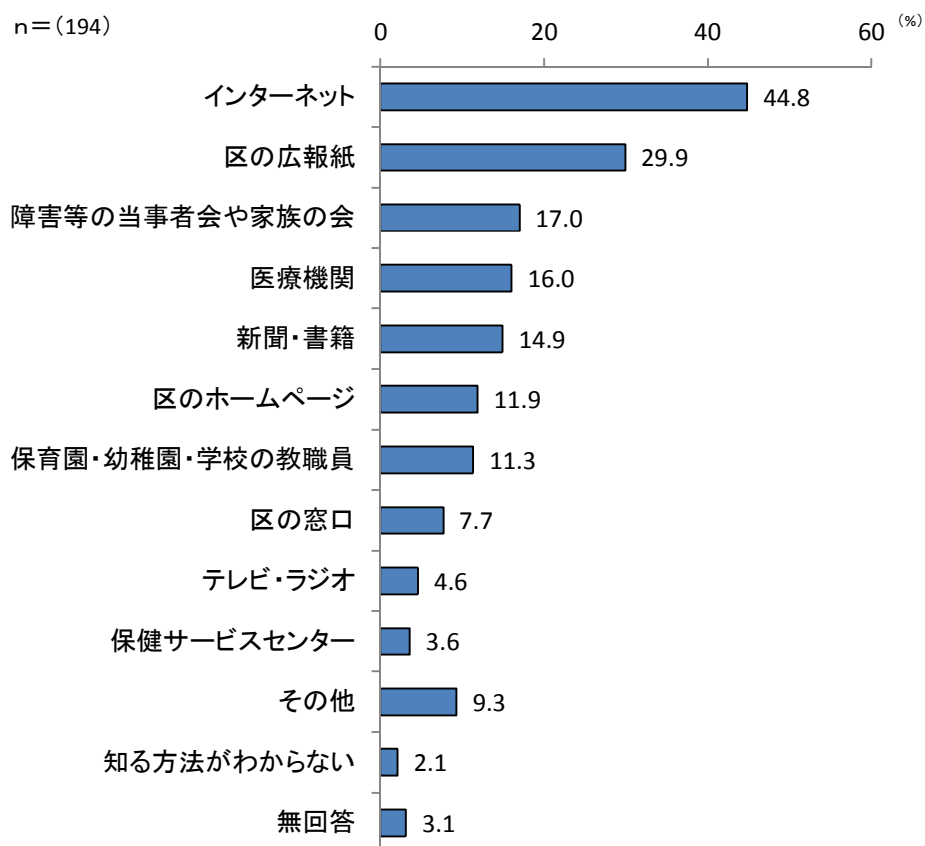
	調査数	近所の人	児童相談センター(児童相談所)	障害福祉課・ 予防対策課 以外の区の 窓口	障害者基幹 相談支援セ ンター	文京区社会 福祉協議会	相談する相手はいない
身体のみ	13	-	7.7	-	-	-	-
知的のみ	81	1.2	-	1.2	1.2	-	-
精神のみ	8	-	12.5	12.5	-	-	-
身体+知的	11	-	-	9.1	18.2	-	-
難病・特定疾患	12	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害	108	1.9	2.8	1.9	0.9	0.0	0.0

	調査数	民生委員・児童委員	身体障害者 相談員・知的 障害者相談 員	その他	無回答
身体のみ	13	-	-	15.4	7.7
知的のみ	81	-	-	12.3	3.7
精神のみ	8	-	-	37.5	-
身体+知的	11	9.1	-	-	-
難病・特定疾患	12	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害	108	0.0	0.0	10.2	1.9

障害の種類別にみると、いずれの障害でも「家族や親族」が最も多く、「学校の教職員」や「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」がこれに次いでいます。

### (3) 福祉情報の入手先

問 21 あなたやご家族の方は、障害に関する知識や福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。(〇は2つまで)



福祉の情報の入手先をみると、「インターネット」が44.8%を占めて最も多く、次いで「区の広報紙」が29.9%となっています。

《障害の種類別》

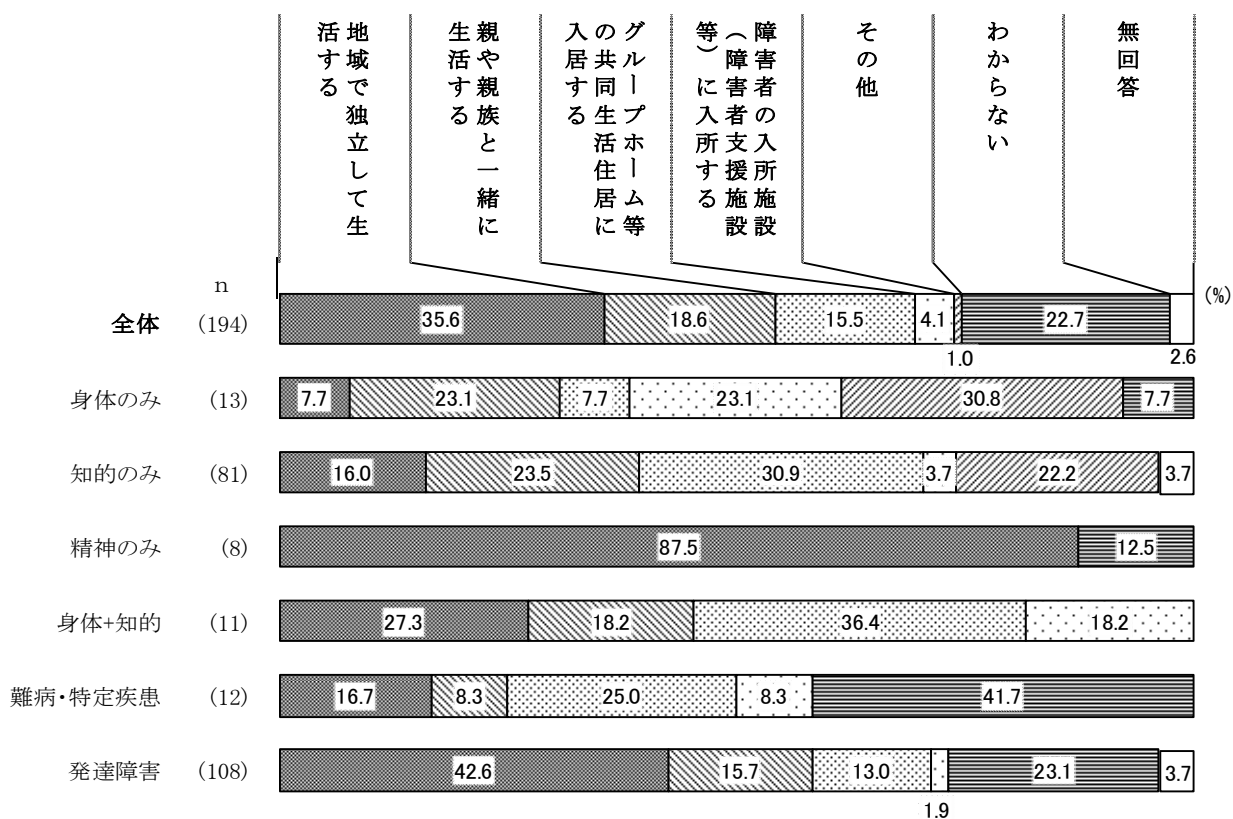
	調査数	インターネット	区の広報紙	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	新聞・書籍	区のホームページ	保育園・幼稚園・学校の教職員
身体のみ	13	38.5	15.4	30.8	15.4	-	7.7	7.7
知的のみ	81	39.5	32.1	29.6	9.9	9.9	11.1	14.8
精神のみ	8	62.5	37.5	-	12.5	50.0	12.5	-
身体+知的	11	45.5	27.3	-	-	-	27.3	18.2
難病・特定疾患	12	33.3	25.0	16.7	33.3	8.3	16.7	0.0
発達障害	108	48.1	34.3	8.3	16.7	18.5	13.9	12.0

	調査数	区の窓口	テレビ・ラジオ	保健サービスセンター	知る方法がわからない	その他	無回答
身体のみ	13	-	-	-	-	23.1	15.4
知的のみ	81	13.6	2.5	-	1.2	9.9	3.7
精神のみ	8	-	12.5	-	-	-	-
身体+知的	11	9.1	18.2	18.2	-	-	-
難病・特定疾患	12	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0

障害の種類別にみると、いずれの障害も「インターネット」が最も多く、「身体のみ」では「障害等の当事者会や家族の会」が、「知的のみ」や「発達障害」では「区の広報紙」がこれに次いでいます。

#### (4) 今後希望する生活

問 22 あなたは将来、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)



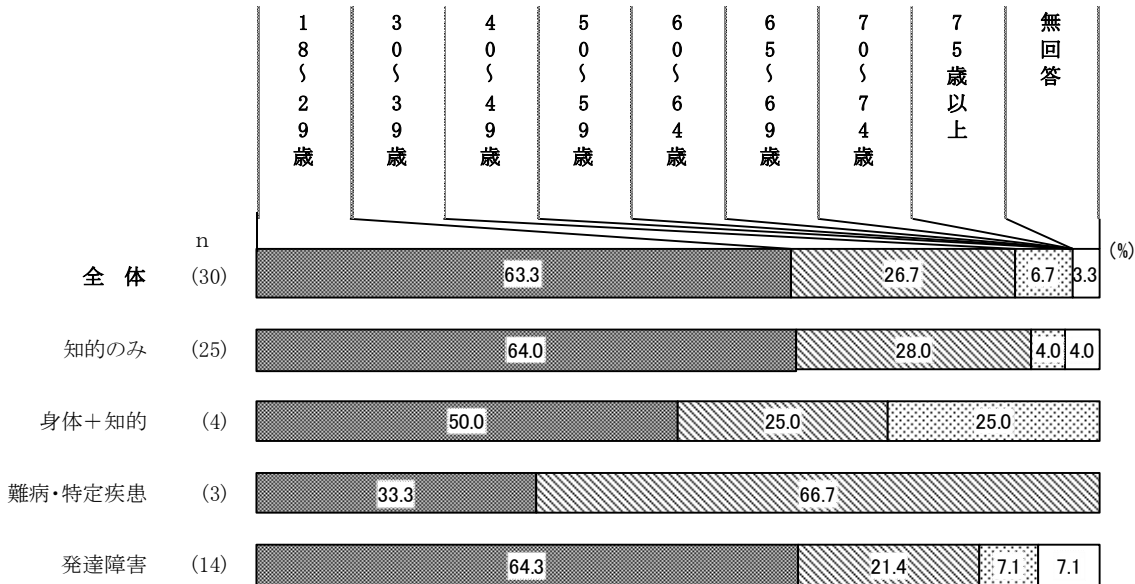
今後希望する生活についてみると、「地域で独立して生活する」が35.6%と多くなっています。

障害の種類別にみると、「発達障害」では「地域で独立して生活する」が42.6%と多くなっています。一方、「知的のみ」では、「地域で独立して生活する」(16.0%)よりも「親や親族と一緒に生活する」(23.5%)や「グループホーム等の共同生活住居に入居する」(30.9%)の方が多くなっています。

「身体と知的の重複障害」でも「グループホーム等の共同生活住居に入居する」が36.4%と最も多くなっています。

(5) 入居希望年齢

問 23 問 22 で「3 グループホーム等の共同生活住居に入居する」と回答された方にお聞きします。あなたは、グループホームへは何歳ぐらいで入居したいと思いますか。(〇はひとつ)



グループホームへの入居希望年齢をみると、「18～29歳」が63.3%を占めています。

障害の種類別にみると、「18～29歳」は「知的のみ」で64.0%、「発達障害」で64.3%と多くなっています。

《年代別》

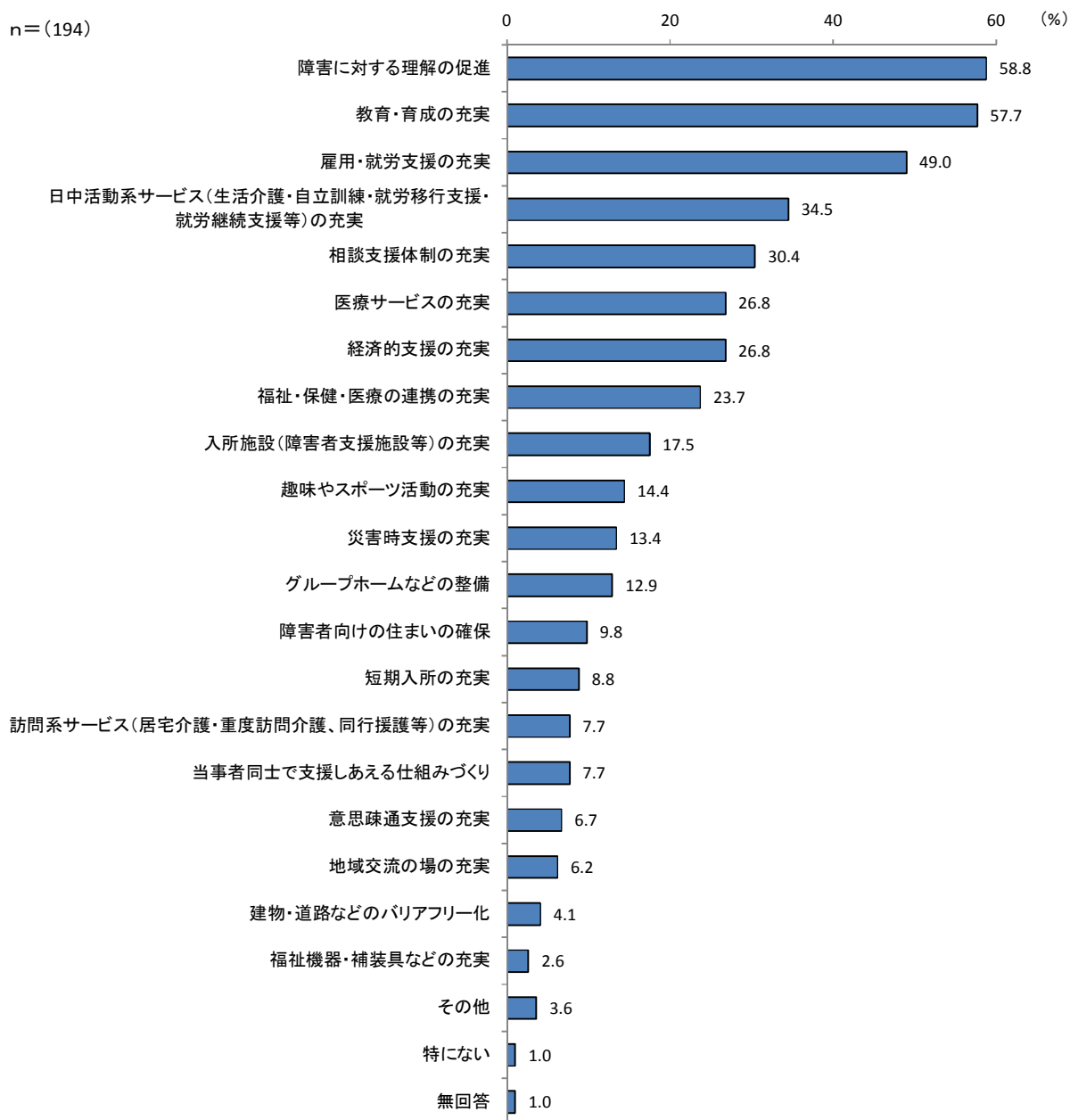
	調査数	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
6～8歳	8	50.0	37.5	12.5	-	-	-	-	-	-
9～11歳	5	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
12～14歳	5	60.0	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0
15歳以上	7	57.1	28.6	14.3	-	-	-	-	-	-

※0歳～5歳までの年代で、グループホーム等の共同生活住居に入居を希望する方が存在していますが、少数であり分析に適さないため表にはお示ししていません。

年代別にみると、いずれの年齢層でも「18～29歳」が最も多くなっています。

## (6) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 24 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。  
(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策をみると、「障害に対する理解の促進」が58.8%で最も多く、以下、「教育・育成の充実」が57.7%、「雇用・就労支援の充実」が49.0%と続いています。

《障害の種類別》

	調査数	障害に対する理解の促進	教育・育成の充実	雇用・就労支援の充実	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援等)の充実	相談支援体制の充実	医療サービスの充実
身体のみ	13	46.2	23.1	7.7	46.2	23.1	23.1
知的のみ	81	59.3	45.7	66.7	45.7	23.5	27.2
精神のみ	8	75.0	75.0	62.5	50.0	37.5	25.0
身体+知的	11	45.5	18.2	27.3	27.3	-	18.2
難病・特定疾患	12	58.3	41.7	41.7	50.0	25.0	25.0
発達障害	108	62.0	64.8	54.6	26.9	32.4	28.7

	調査数	経済的支援の充実	福祉・保健・医療の連携の充実	入所施設(障害者支援施設等)の充実	趣味やスポーツ活動の充実	災害時支援の充実	グループホームなどの整備
身体のみ	13	-	7.7	38.5	7.7	15.4	7.7
知的のみ	81	33.3	24.7	23.5	24.7	18.5	23.5
精神のみ	8	37.5	37.5	-	12.5	12.5	-
身体+知的	11	54.5	27.3	18.2	18.2	27.3	54.5
難病・特定疾患	12	25.0	33.3	50.0	0.0	16.7	8.3
発達障害	108	28.7	25.9	11.1	13.0	16.7	7.4

	調査数	障害者向けの住まいの確保	短期入所の充実	訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行支援等)の充実	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	意思疎通支援の充実	地域交流の場の充実
身体のみ	13	7.7	23.1	46.2	7.7	7.7	-
知的のみ	81	18.5	11.1	6.2	2.5	6.2	7.4
精神のみ	8	-	12.5	-	37.5	-	12.5
身体+知的	11	27.3	9.1	18.2	-	27.3	18.2
難病・特定疾患	12	8.3	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0
発達障害	108	10.2	3.7	2.8	11.1	6.5	5.6

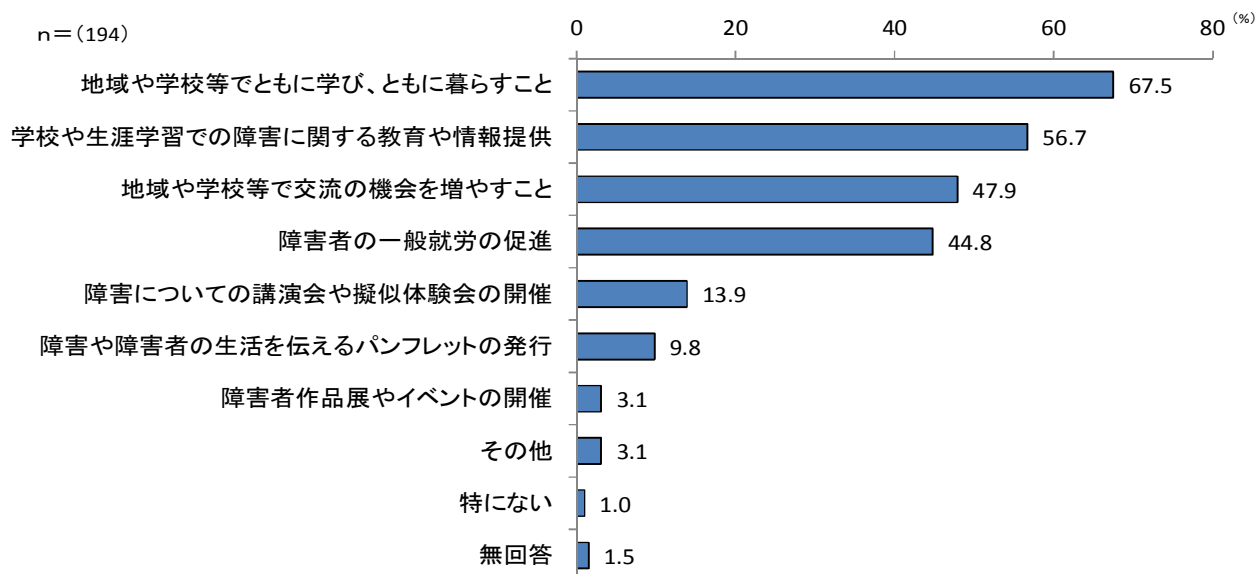
	調査数	建物・道路などのバリアフリー化	福祉機器・補装具などの充実	その他	特になし	無回答
身体のみ	13	30.8	7.7	15.4	-	-
知的のみ	81	1.2	-	1.2	-	1.2
精神のみ	8	-	-	-	-	-
身体+知的	11	-	18.2	18.2	-	-
難病・特定疾患	12	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
発達障害	108	1.9	25.9	2.8	1.9	0.9

障害の種類別にみると、「身体のみ」では「障害に対する理解の促進」と「日中活動系サービス(生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援等)の充実」が46.2%で最も多く、「知的のみ」では「雇用・就労支援の充実」が66.7%、「発達障害」では「教育・育成の充実」が64.8%で最も多くなっています。

また、「身体と知的の重複障害」では、「経済的支援の充実」と「グループホームの整備」が54.5%と最も多くなっています。

## (7) 「こころのバリアフリー」のために力を入れるべきこと

問 25 あなたは、区が「こころのバリアフリー」を進めていくためにどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)



「こころのバリアフリー」のために力を入れるべきこととしては、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が67.5%で最も多く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報提供」が56.7%となっています。

### 《障害の種類別》

	調査数	障害や障害者の生活を伝えるパンフレットの発行	障害者作品展やイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報提供	障害についての講演会や疑似体験会の開催
身体のみ	13	23.1	7.7	53.8	53.8	46.2	15.4
知的のみ	81	11.1	4.9	56.8	63.0	48.1	11.1
精神のみ	8	25.0	12.5	50.0	50.0	62.5	37.5
身体+知的	11	9.1	-	72.7	54.5	45.5	18.2
難病・特定疾患	12	-	-	58.3	58.3	41.7	25.0
発達障害	108	11.1	4.6	42.6	69.4	63.0	16.7

	調査数	障害者の一般就労の促進	特にない	その他	無回答
身体のみ	13	30.8	-	7.7	7.7
知的のみ	81	59.3	1.2	2.5	1.2
精神のみ	8	37.5	-	-	-
身体+知的	11	63.6	-	9.1	-
難病・特定疾患	12	41.7	-	8.3	8.3
発達障害	108	44.4	0.9	0.9	0.9

障害の種類別にみると、身体のみ、知的のみ、発達障害では「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が最も多くなっています。

また、身体と知的の重複障害では、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が最も多くなっています。



## 4. 福祉サービスについて

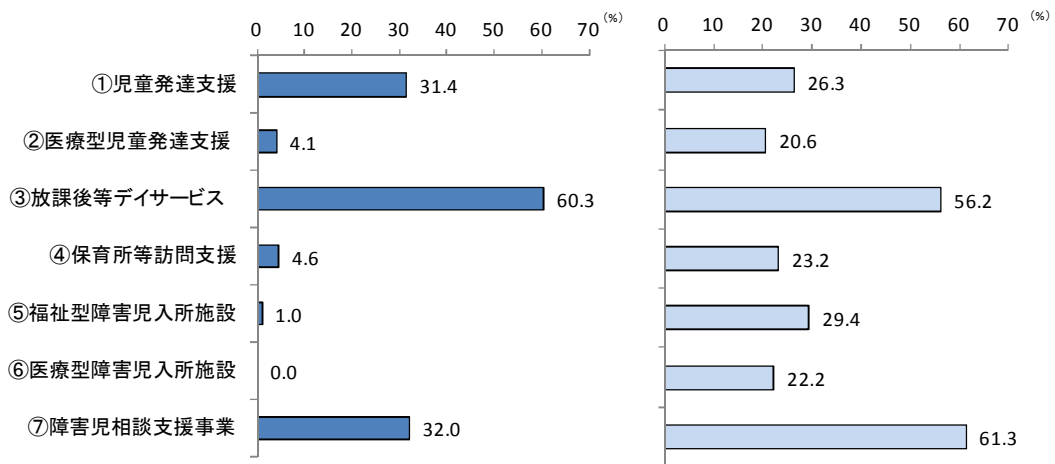
### (1) サービス利用状況・利用意向

問 26 あなたは、次のようなサービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。既に利用しており、今後も利用したい方は「1」、「2」両方に○をつけてください。現在利用していない方は、「2」、「3」、「4」から1つ○をつけてください。

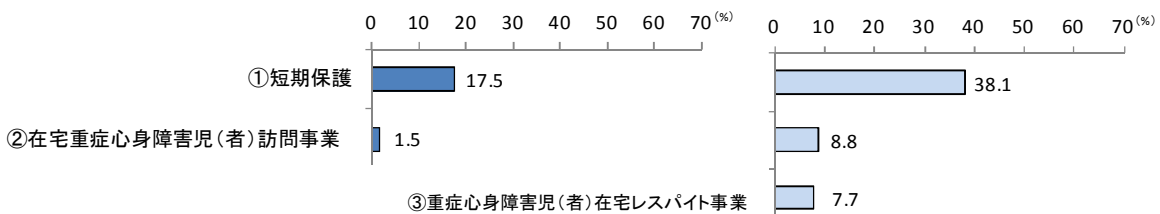
【現在利用している】

【今後利用したい】

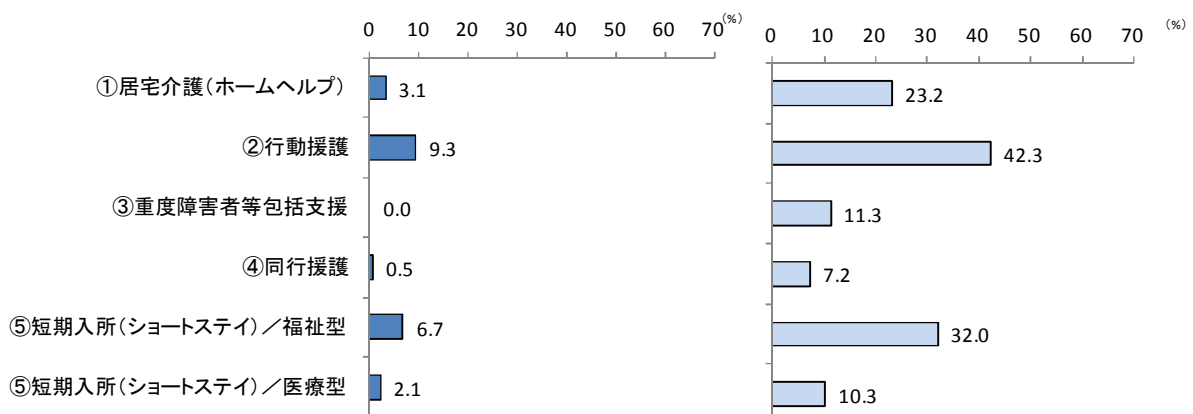
#### (1) 児童福祉法に基づく支援等



#### (2) その他の児童のための支援



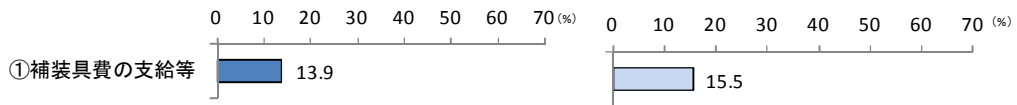
#### (3) 障害福祉サービス（訪問系）



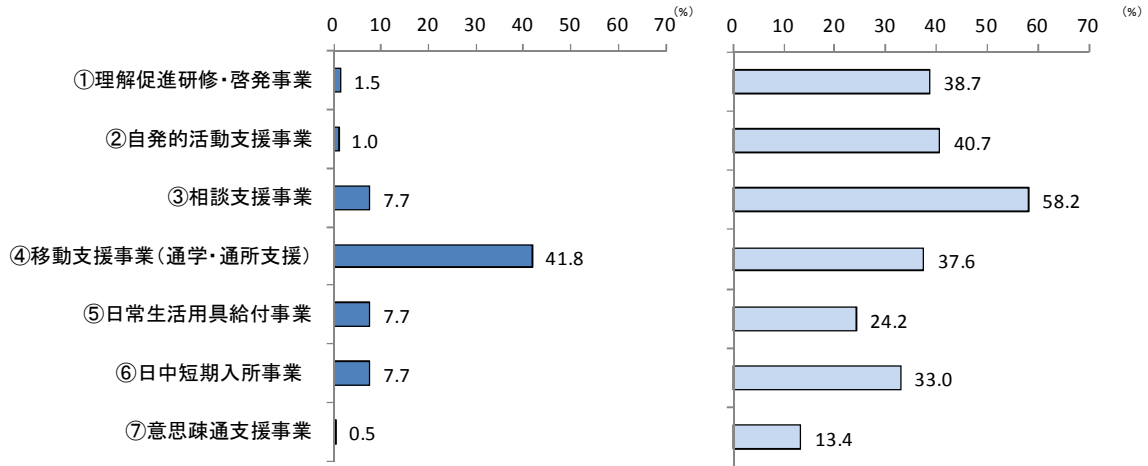
【現在利用している】

【今後利用したい】

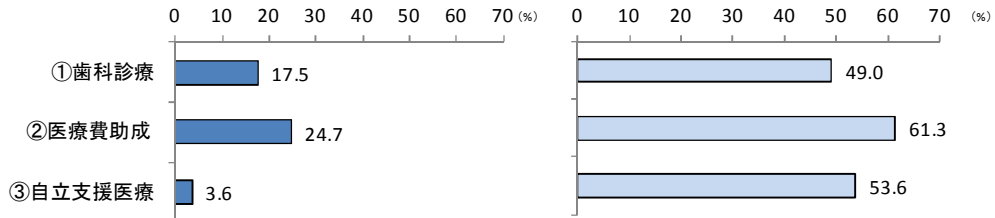
(4) 補装具等の支給等



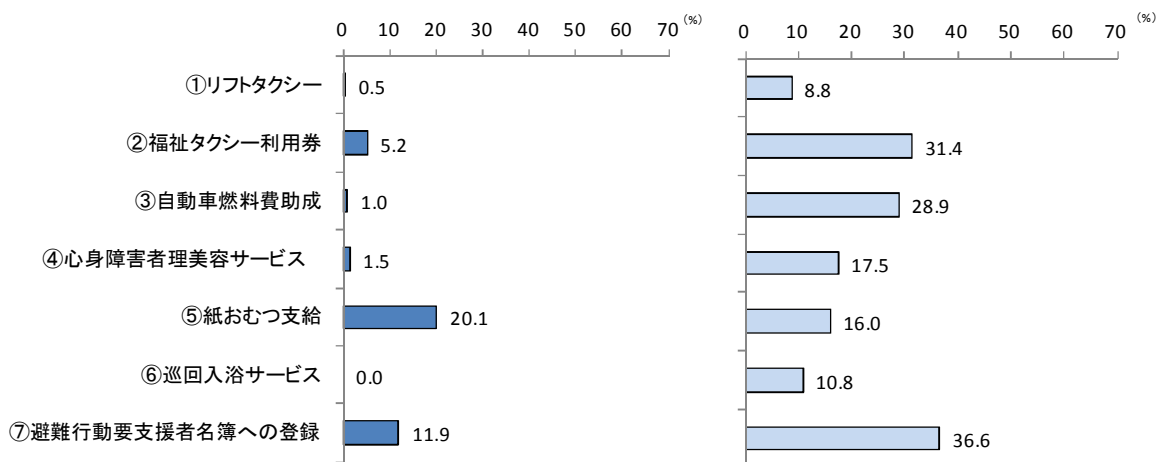
(5) 地域生活支援事業



(6) 医療に関する支援

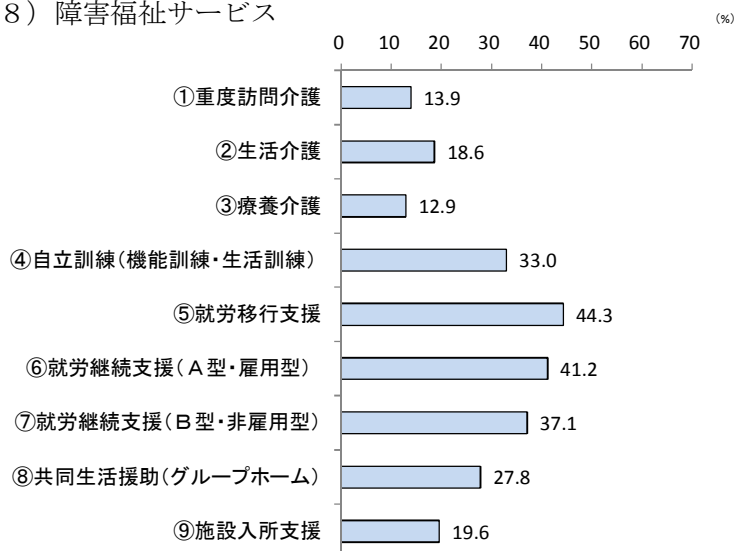


(7) 日常生活のサービス

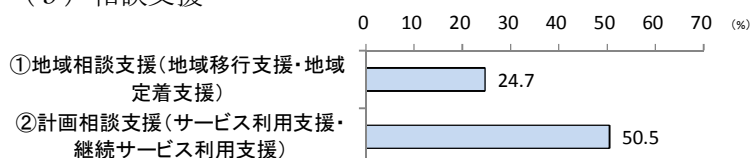


【今後利用したい】

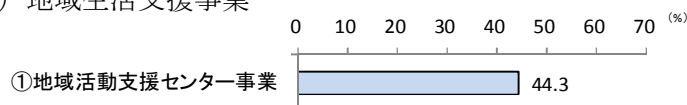
(8) 障害福祉サービス



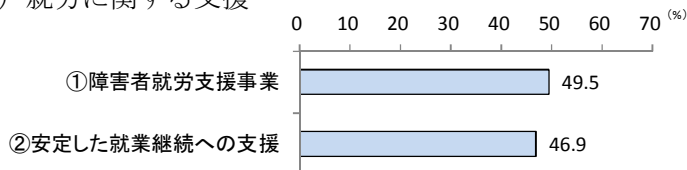
(9) 相談支援



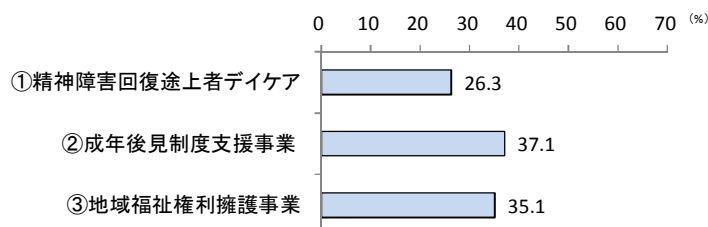
(10) 地域生活支援事業



(11) 就労に関する支援



(12) その他



利用率をみると、「放課後等デイサービス」が60.3%で最も多く、次いで「移動支援事業(通学・通所支援)」の41.8%、「障害児相談支援事業」32.0%となっています。

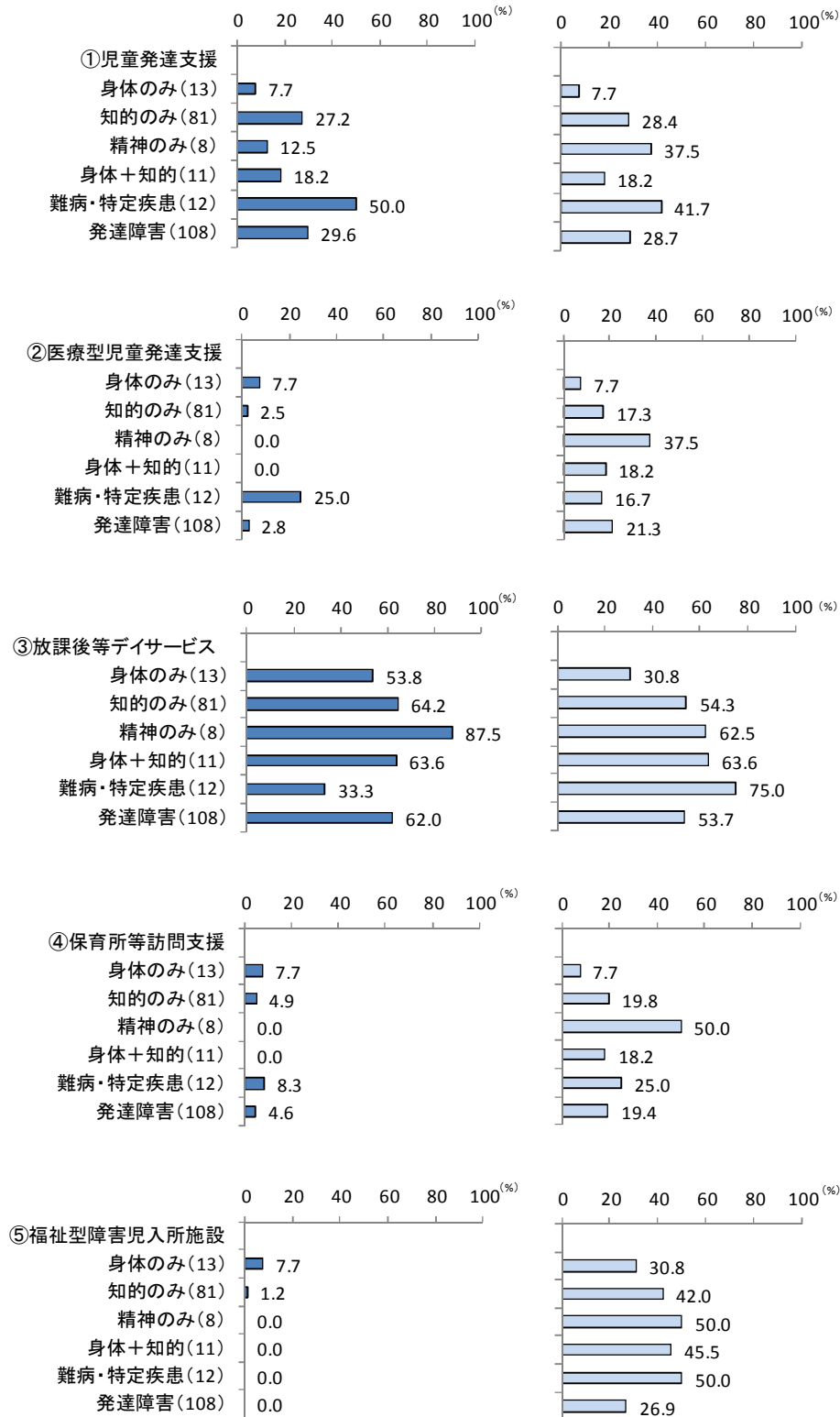
今後の利用意向は「障害児相談支援事業」と「医療費助成」が61.3%で最も多く、次いで「相談支援事業」58.2%となっています。また、「放課後等デイサービス」は56.2%で利用率よりも低くなっています。

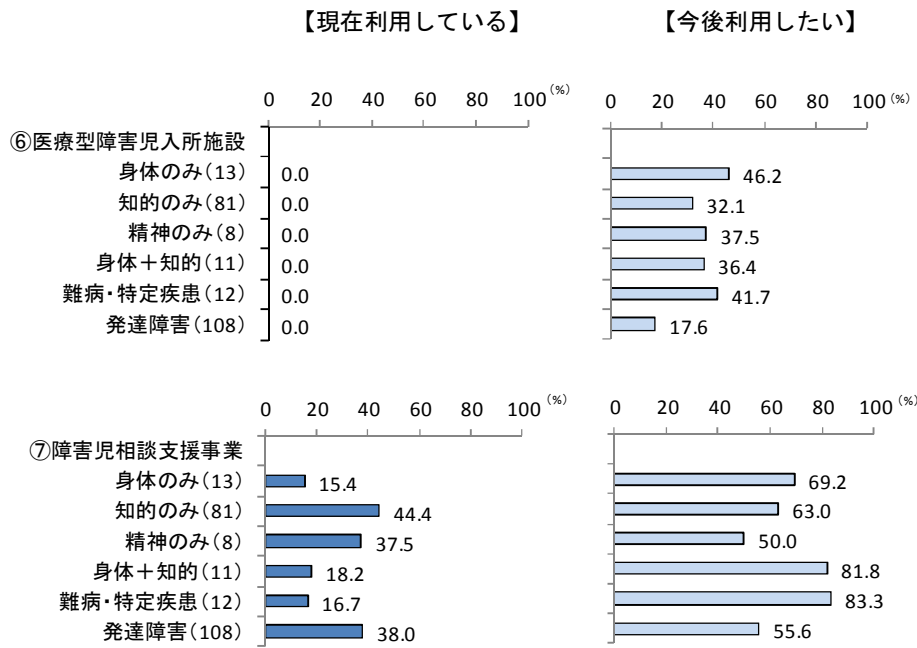
## 《障害の種類別》

【現在利用している】

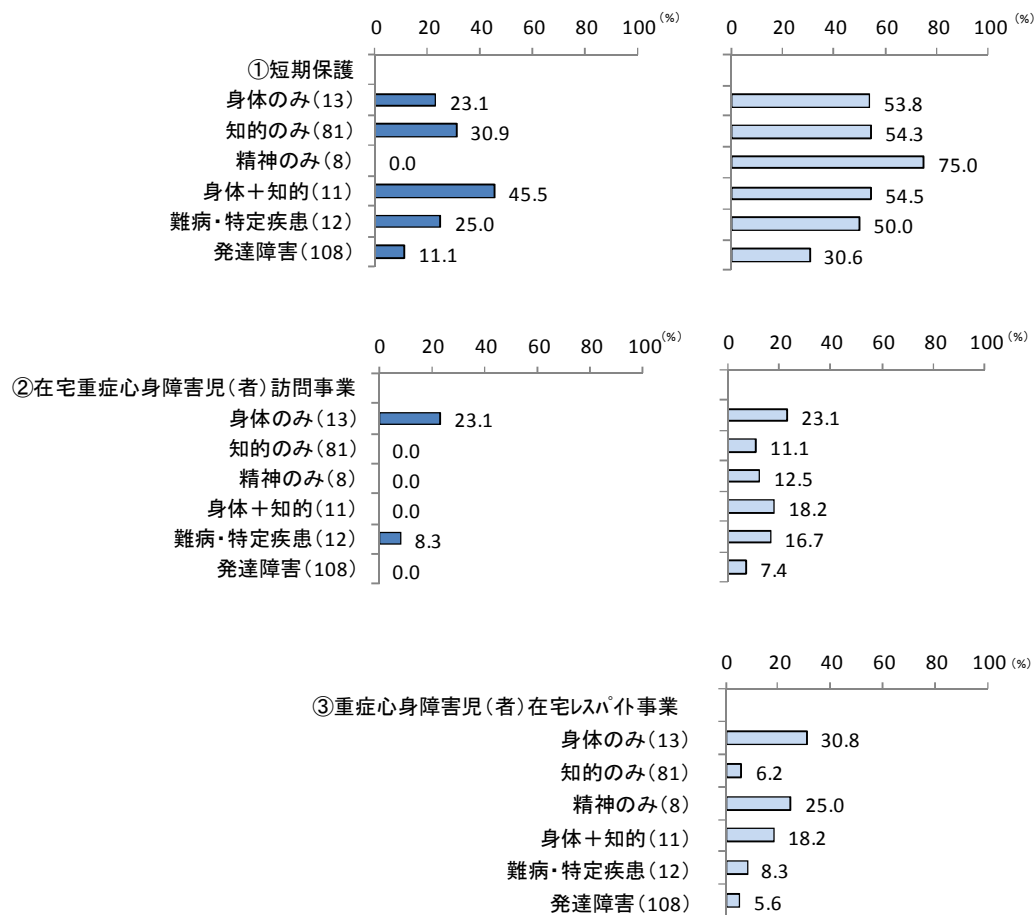
【今後利用したい】

### (1) 児童福祉法に基づく支援等





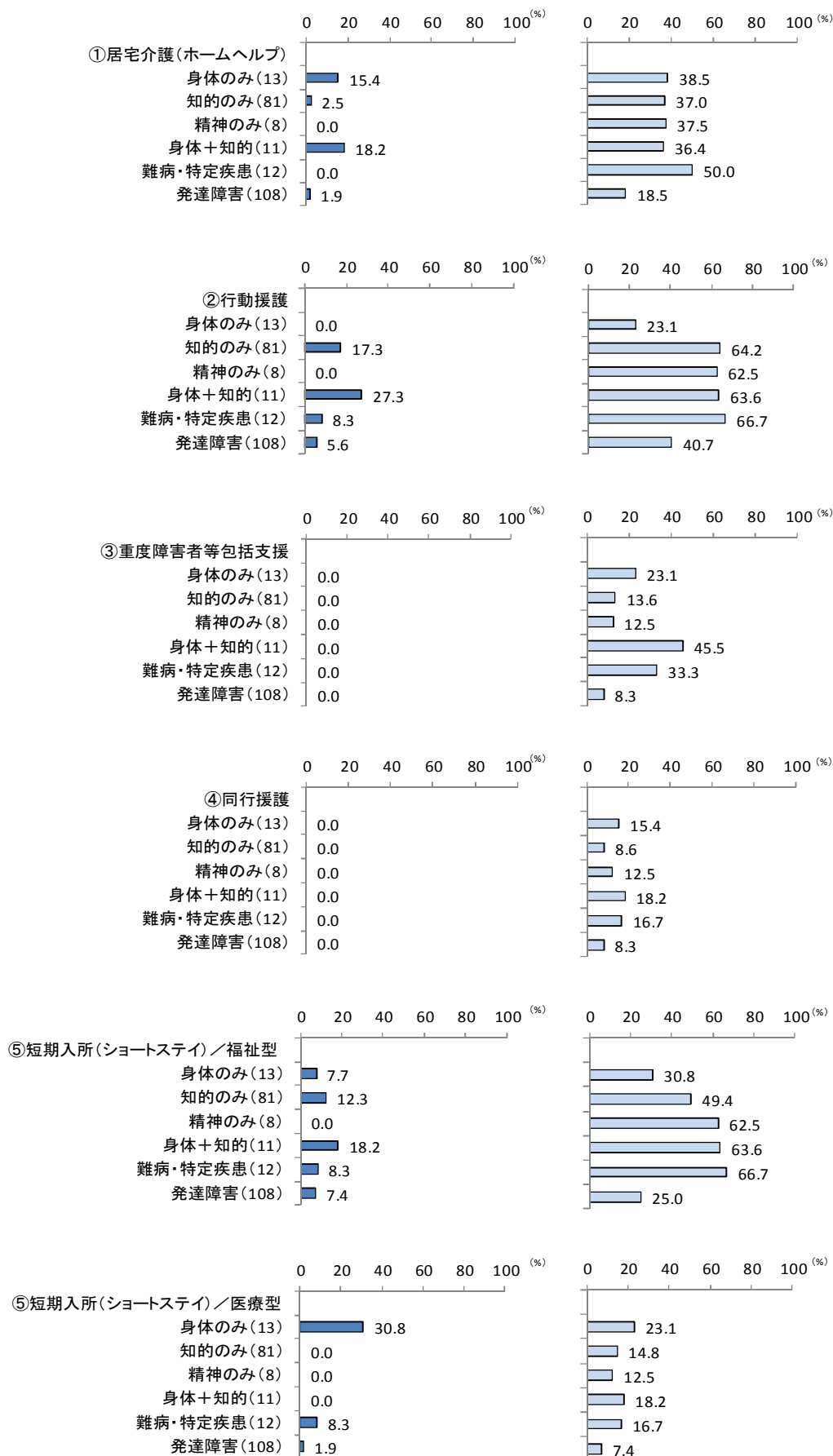
(2) その他の児童のための支援



【現在利用している】

【今後利用したい】

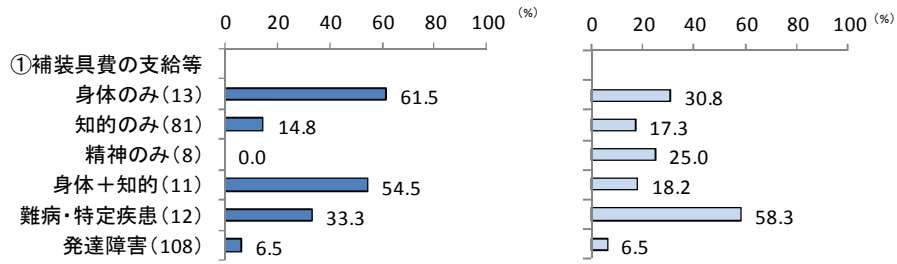
(3) 障害福祉サービス（訪問系）



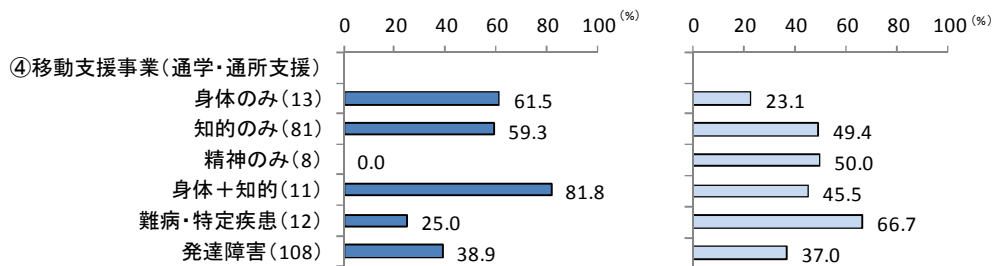
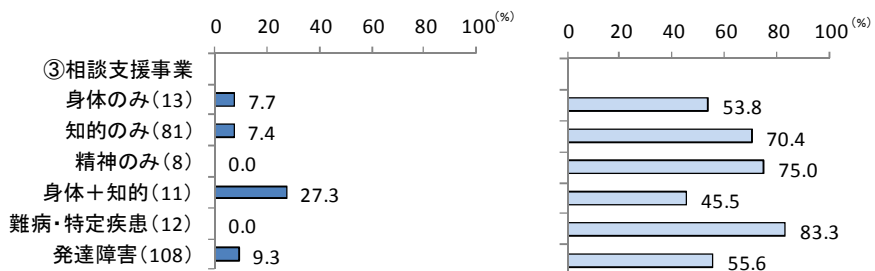
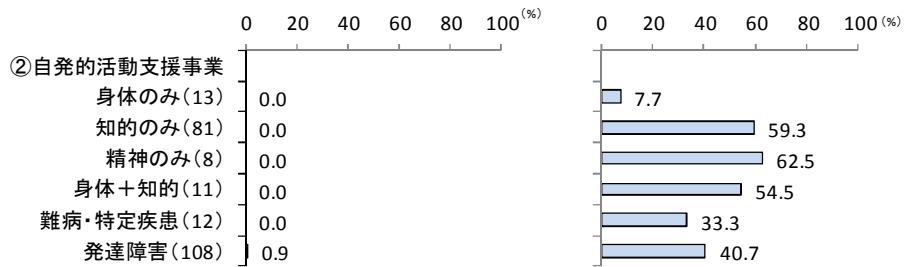
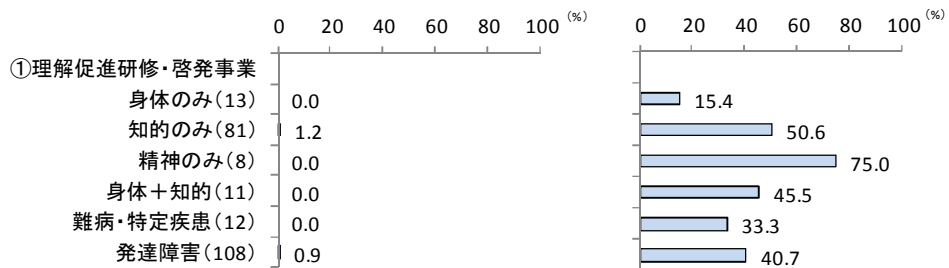
【現在利用している】

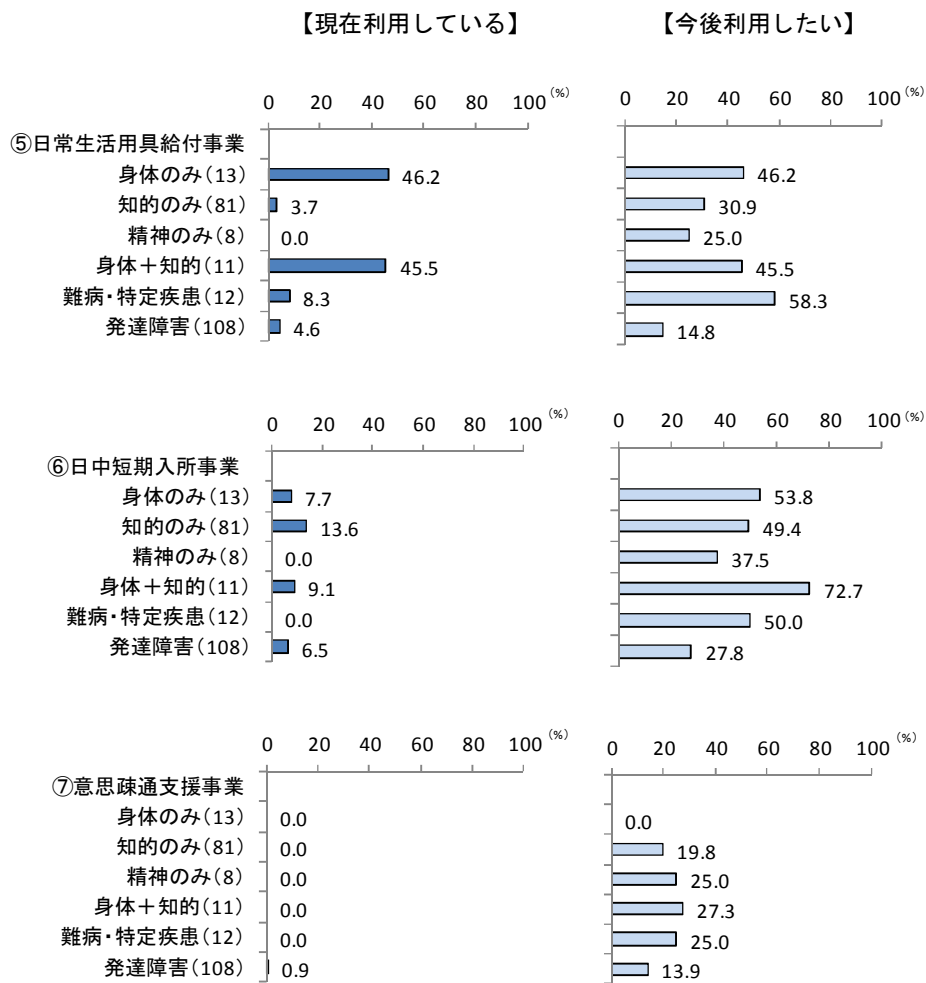
【今後利用したい】

(4) 補装具費の支給等

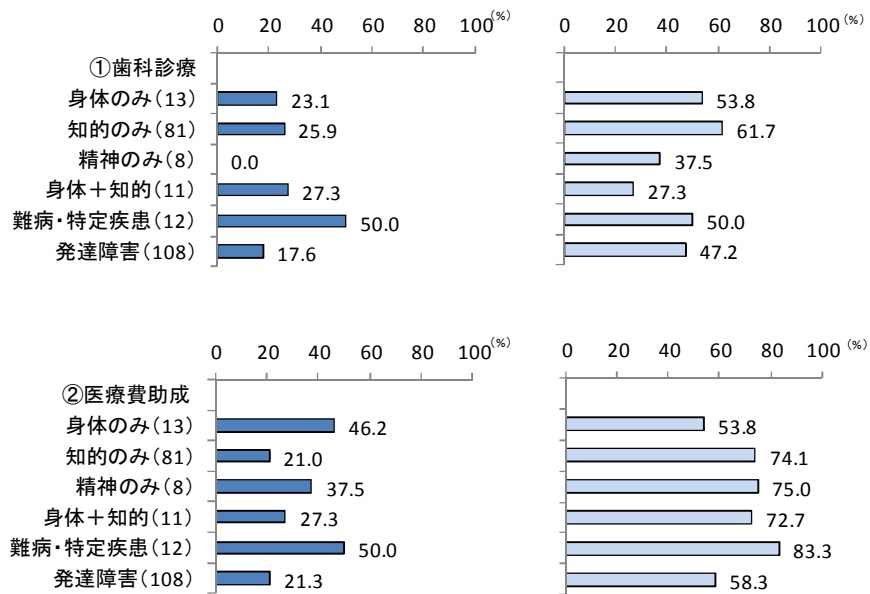


(5) 地域生活支援事業

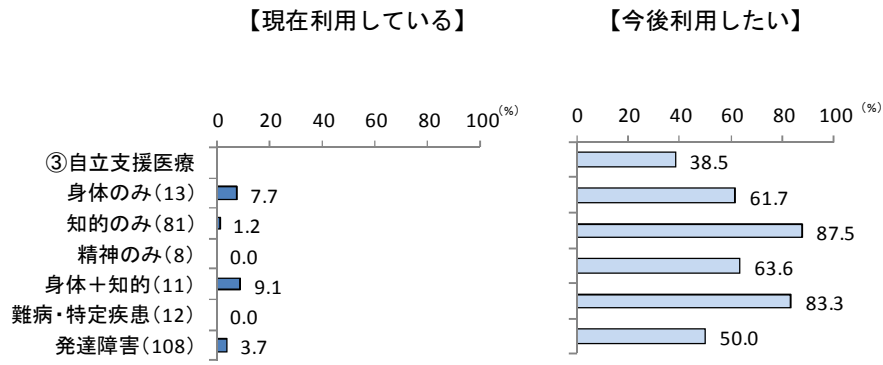




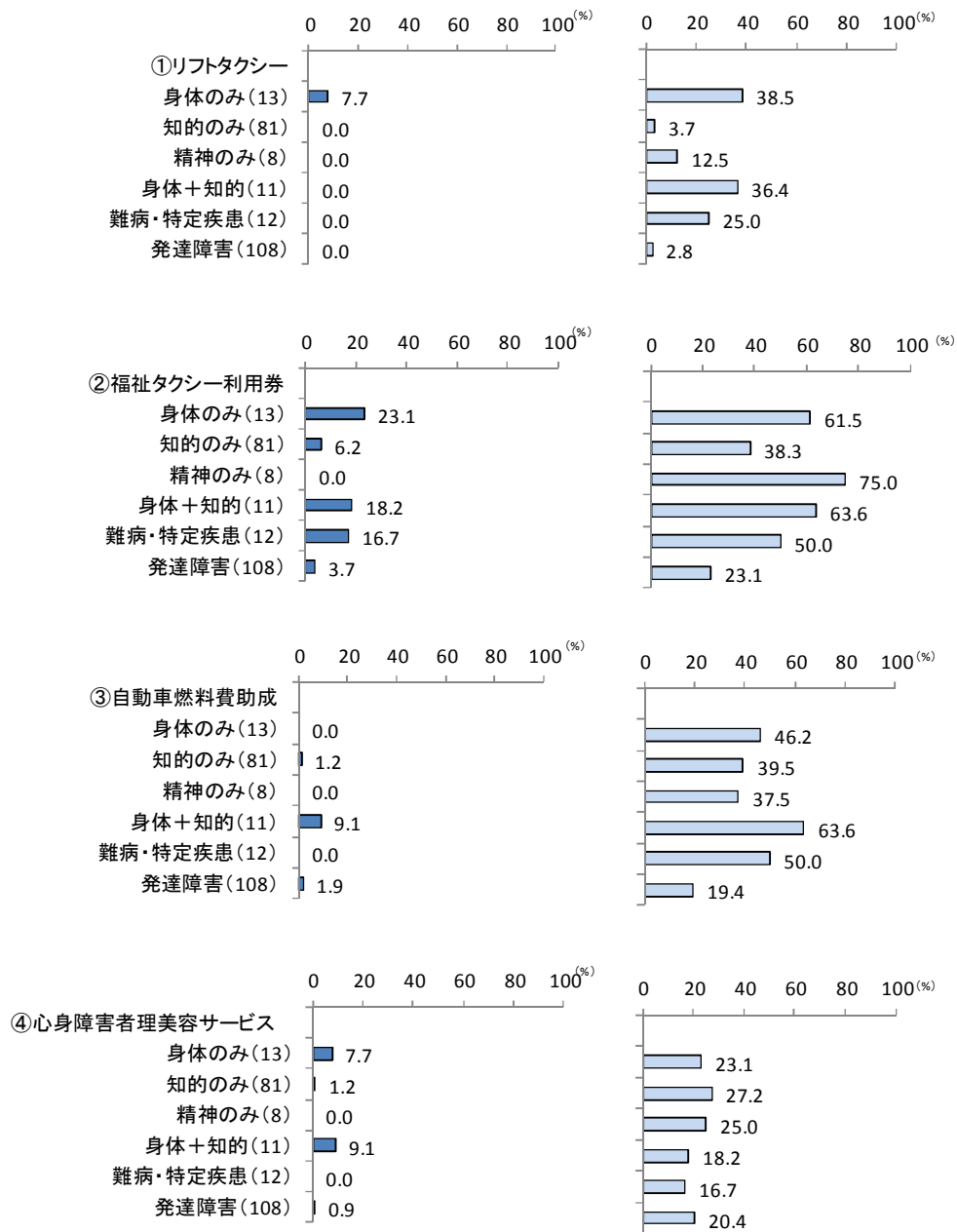
(6) 医療に関する支援





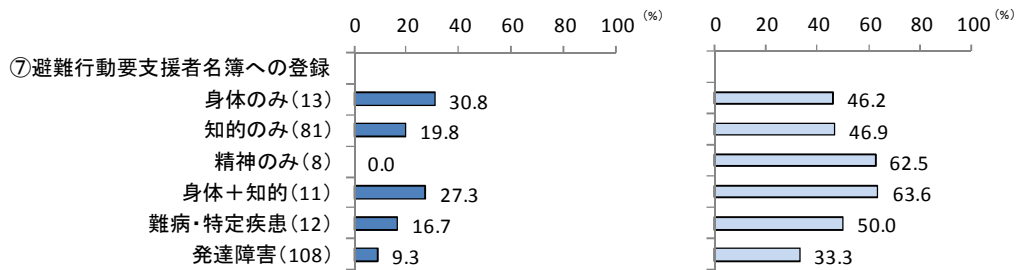
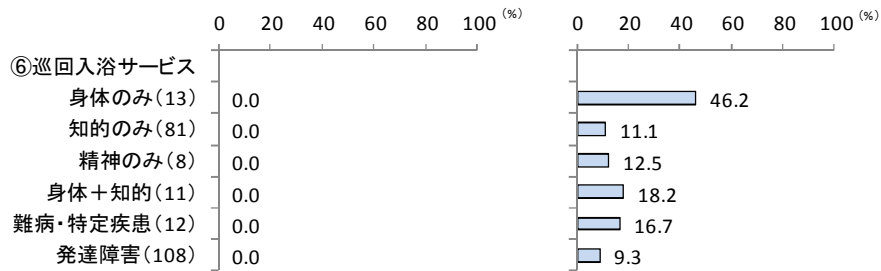
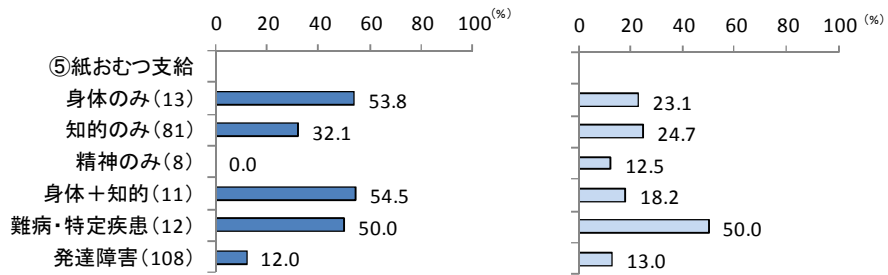


(7) 日常生活のサービス



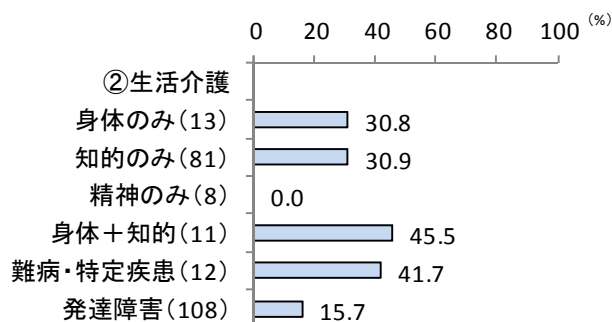
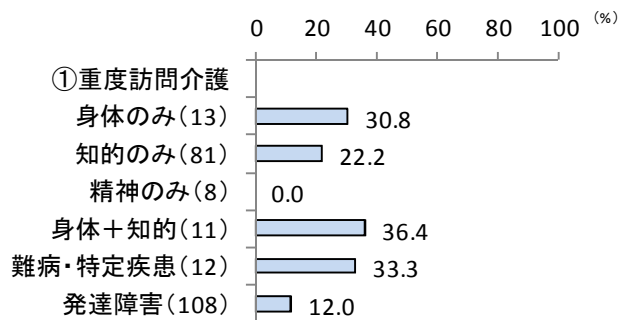
【現在利用している】

【今後利用したい】

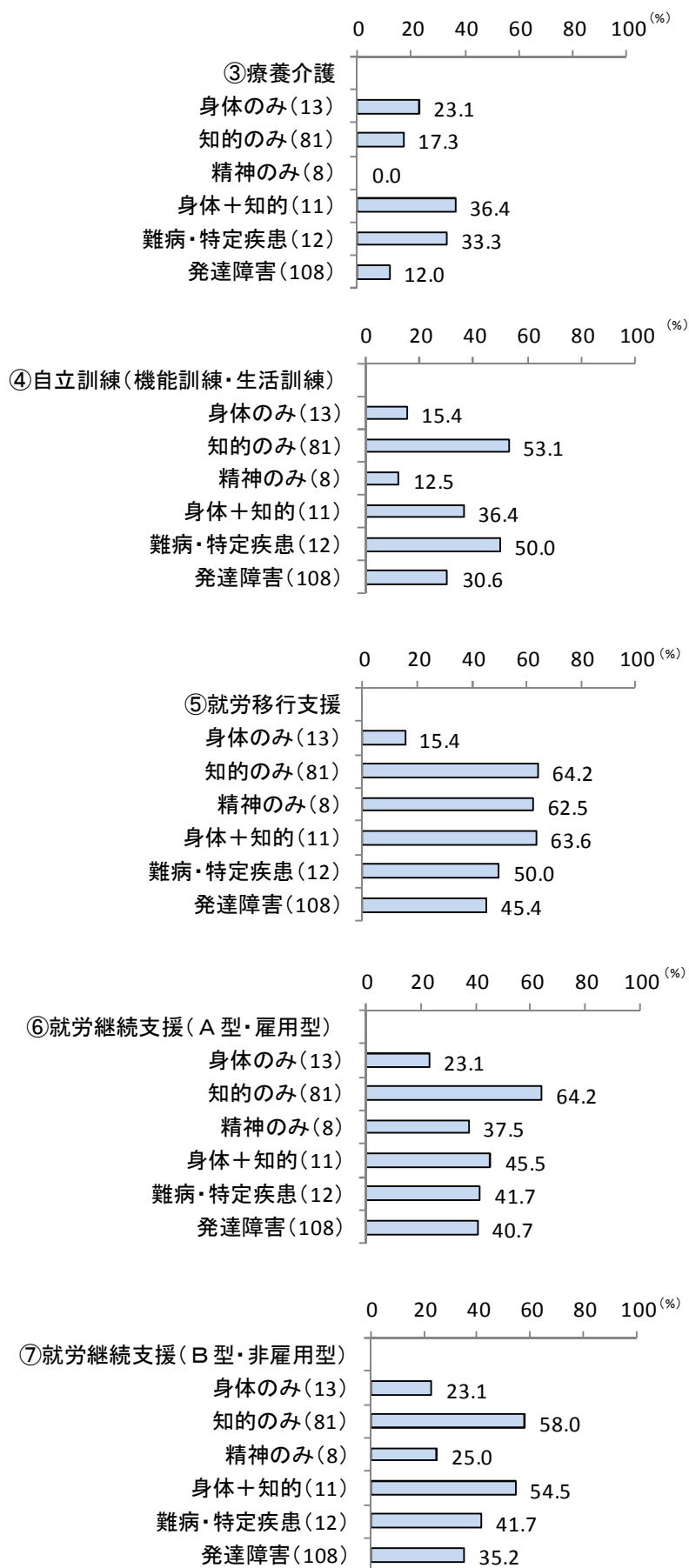


(8) 障害福祉サービス

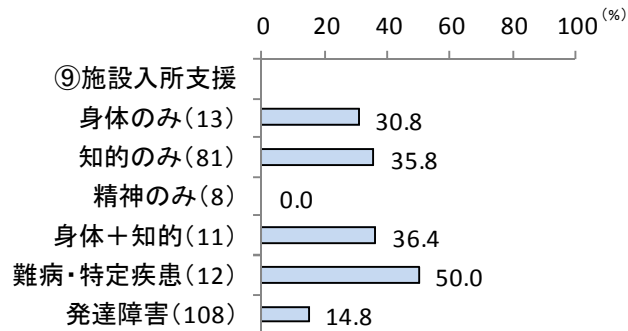
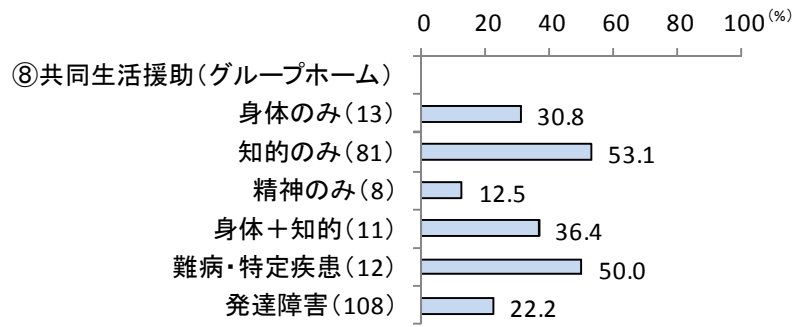
【今後利用したい】



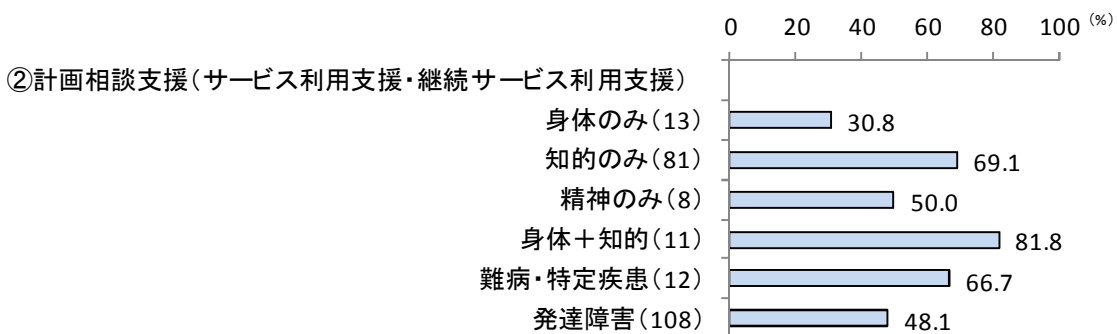
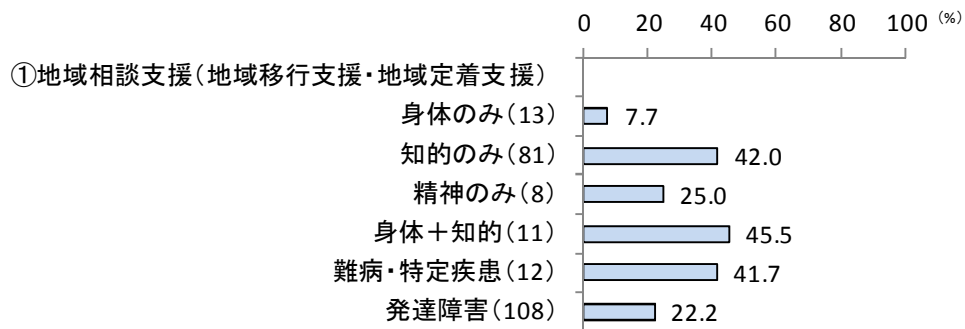
【今後利用したい】



【今後利用したい】

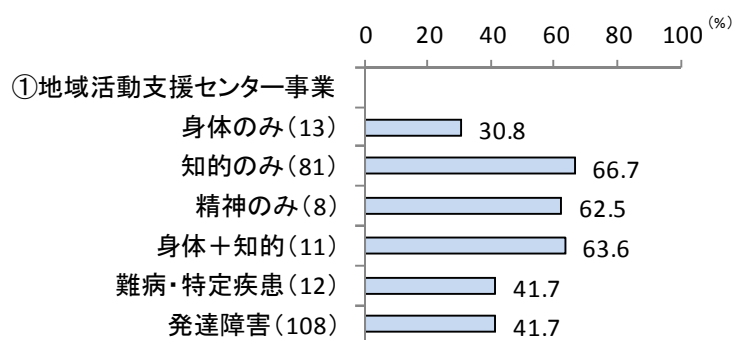


(9) 相談支援

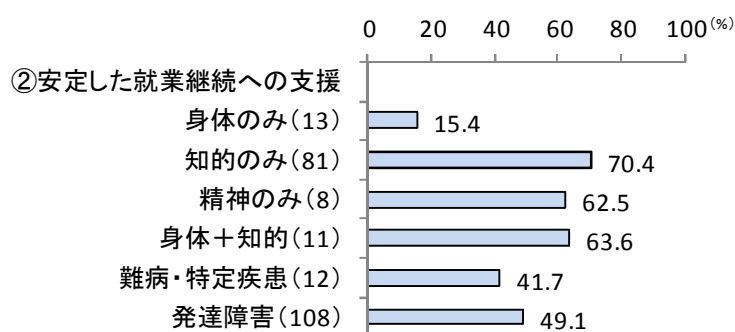
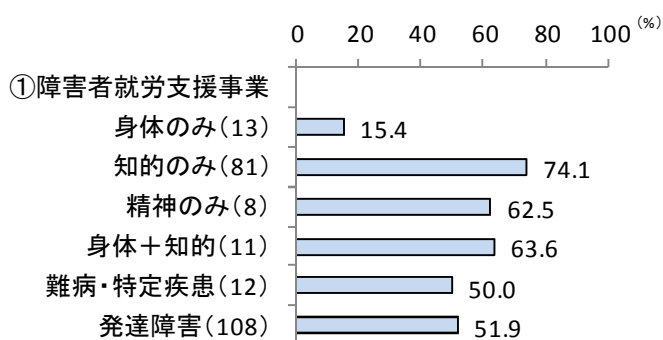


【今後利用したい】

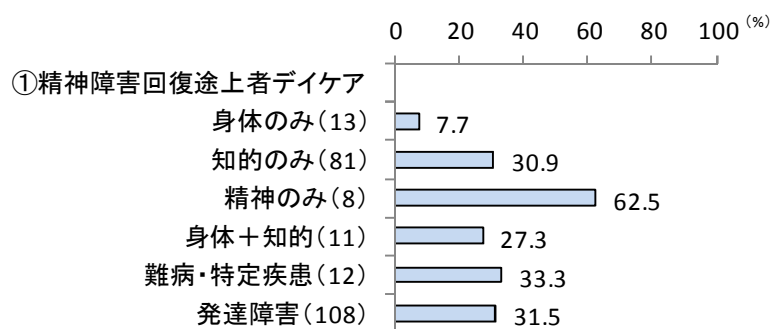
(10) 地域生活支援事業



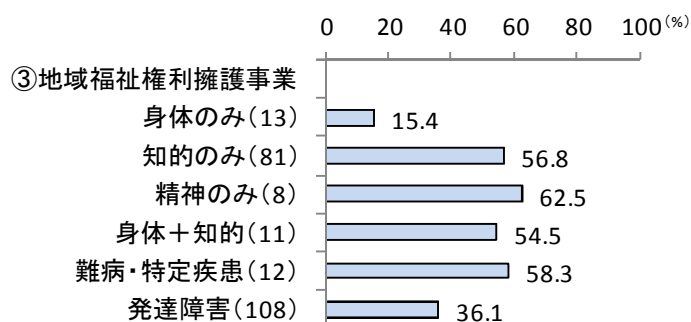
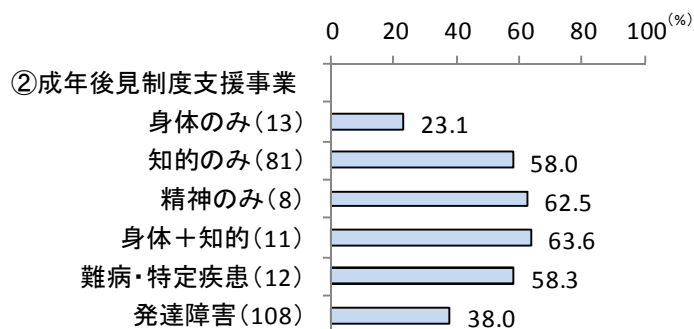
(11) 就労に関する支援



(12) その他



【今後利用したい】

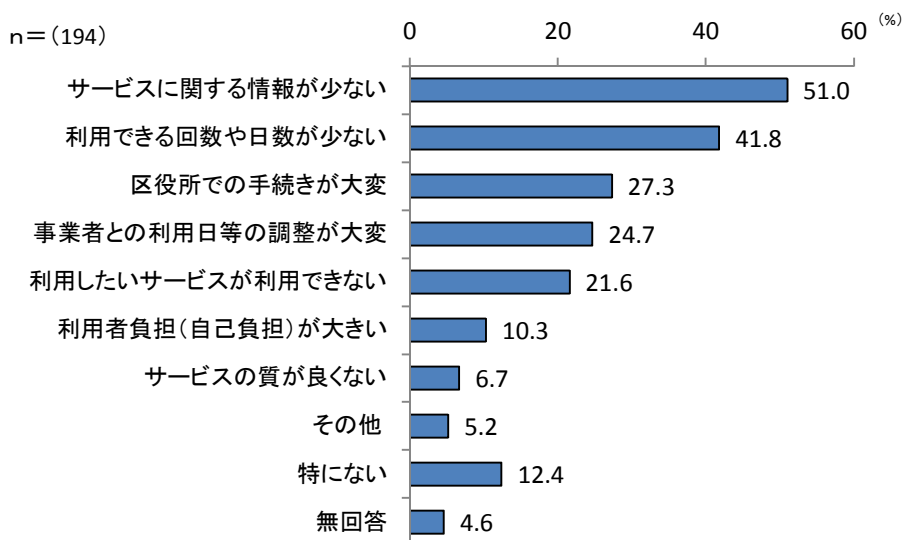


障害の種類別にみると、利用率が高いものとして、「精神のみ」で「放課後等デイサービス」が87.5%、「身体と知的の重複障害」で「移動支援事業（通学・通所支援）」が81.8%となっています。

今後利用したいものとして、「難病・特定疾患」で「障害児相談事業」、「相談支援事業」、「医療費助成」、「自立支援医療」がそれぞれ83.3%、「身体と知的の重複障害」で「計画相談支援（サービス利用支援・継続サービス利用支援）」が81.8%などとなっています。

## (2) サービス利用意向で困っていること

問 27 あなたには、サービス利用に関して困っていることがありますか。  
(〇はいくつでも)



サービスを利用して困っていることについてみると、「サービスに関する情報が少ない」が51.0%で最も多く、次いで「利用できる回数や日数が少ない」が41.8%となっています。

### 《障害の種類別》

	調査数	サービスに関する情報が少ない	区役所での手続きが大変	利用できる回数や日数が少ない	事業者との利用日等の調整が大変	サービスの質が良くない	利用したいサービスが利用できない
身体のみ	13	53.8	15.4	30.8	7.7	7.7	23.1
知的のみ	81	60.5	30.9	51.9	38.3	8.6	22.2
精神のみ	8	75.0	50.0	50.0	25.0	37.5	62.5
身体+知的	11	54.5	18.2	45.5	18.2	-	9.1
難病・特定疾患	12	75.0	33.3	33.3	16.7	-	25.0
発達障害	108	49.1	29.6	37.0	22.2	6.5	25.0

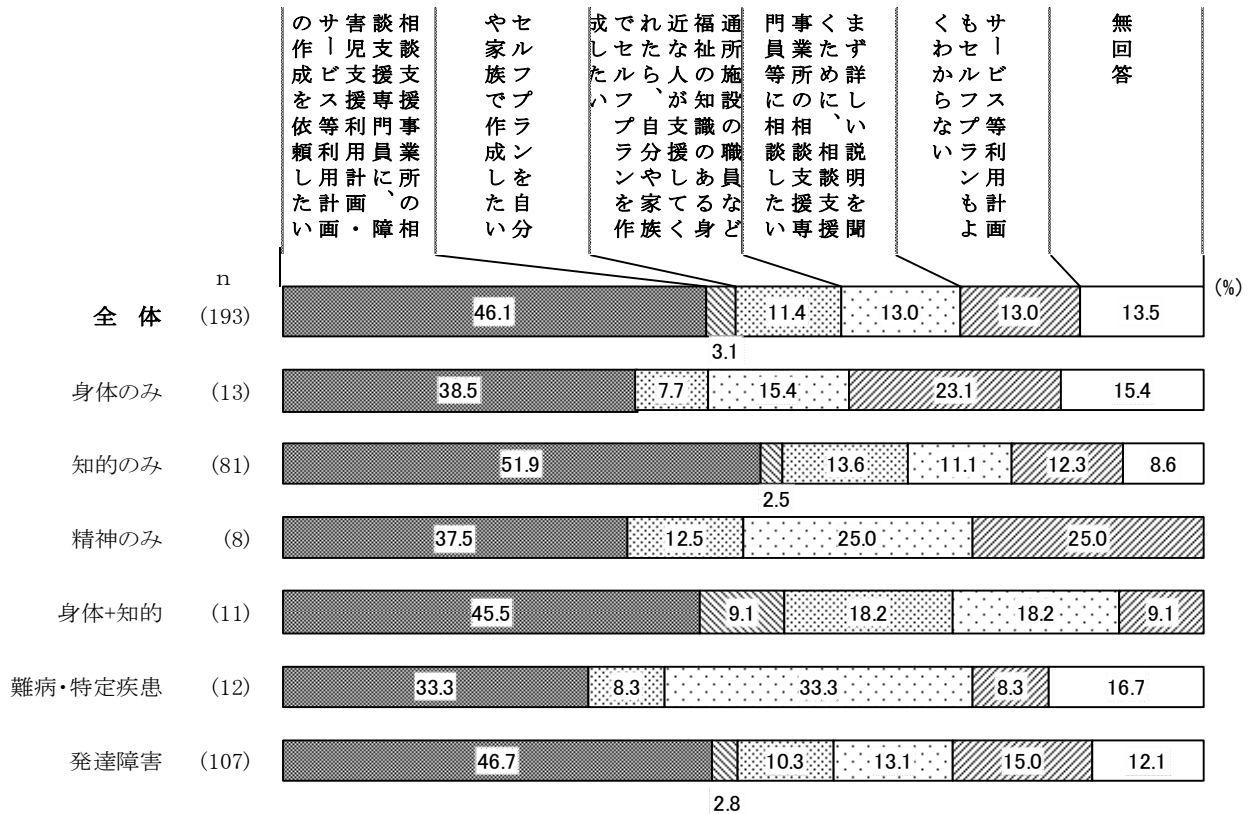
	調査数	利用者負担(自己負担)が大きい	特になし	その他	無回答
身体のみ	13	15.4	7.7	23.1	-
知的のみ	81	12.3	6.2	3.7	2.5
精神のみ	8	25.0	-	-	-
身体+知的	11	9.1	-	9.1	9.1
難病・特定疾患	12	8.3	8.3	16.7	8.3
発達障害	108	8.3	13.9	3.7	4.6

障害の種類別にみると、「身体のみ」では「サービスに関する情報が少ない」が53.8%と最も多く、次いで「利用できる回数や日数が少ない」が30.8%となっています。

一方、「知的のみ」では、「サービスに関する情報が少ない」が60.5%、「利用できる回数や日数が少ない」が51.9%と、いずれも5割を超えて多くなっています。

(3) サービス等利用計画の作成について

問 28 問 26 にある障害福祉サービス・児童福祉法に基づくサービスを利用している方や今後利用したい方にお聞きします。サービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成について、どのように進めていきたいですか。  
(〇はひとつ)



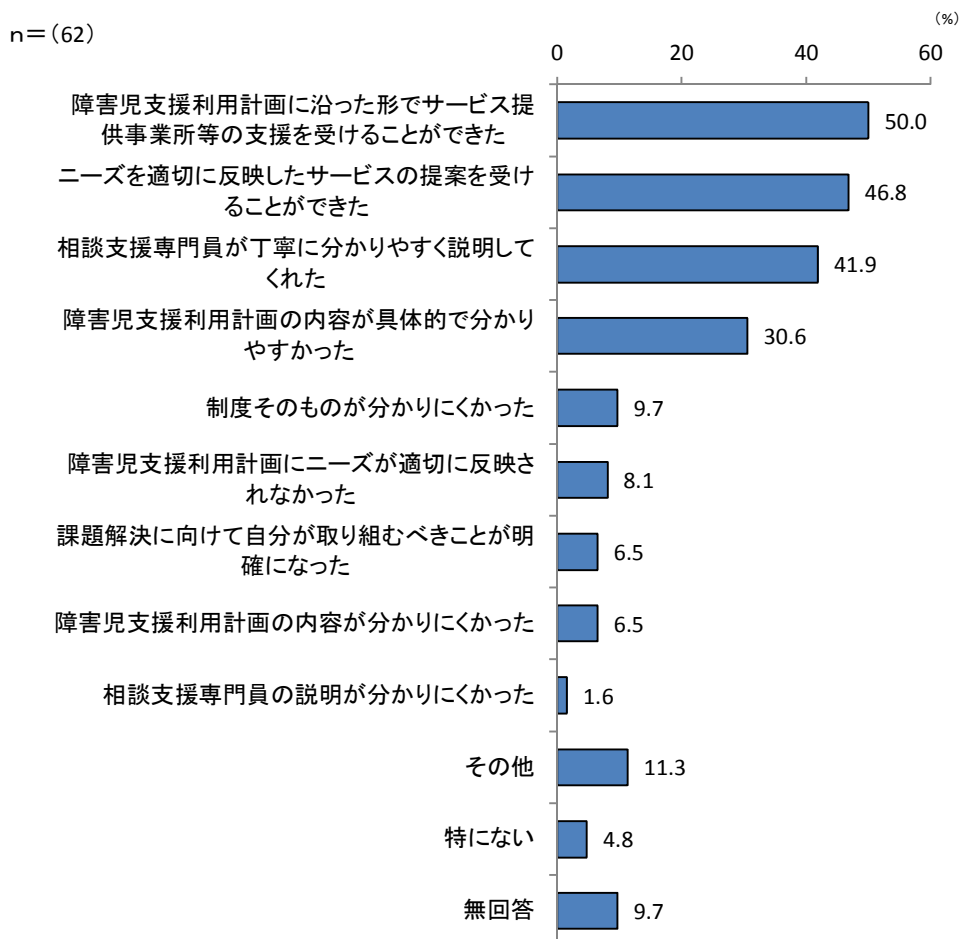
サービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成についてみると、「相談支援事業所の相談支援専門員に、障害児支援利用計画・サービス等利用計画の作成を依頼したい」が、「知的のみ」では51.9%、「発達障害」では46.7%と、いずれの障害でも最も多くなっています。



#### (4) 計画作成の感想

問 29 これまでに障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

障害児支援利用計画を作成して感じたことはありますか。(〇は4つまで)



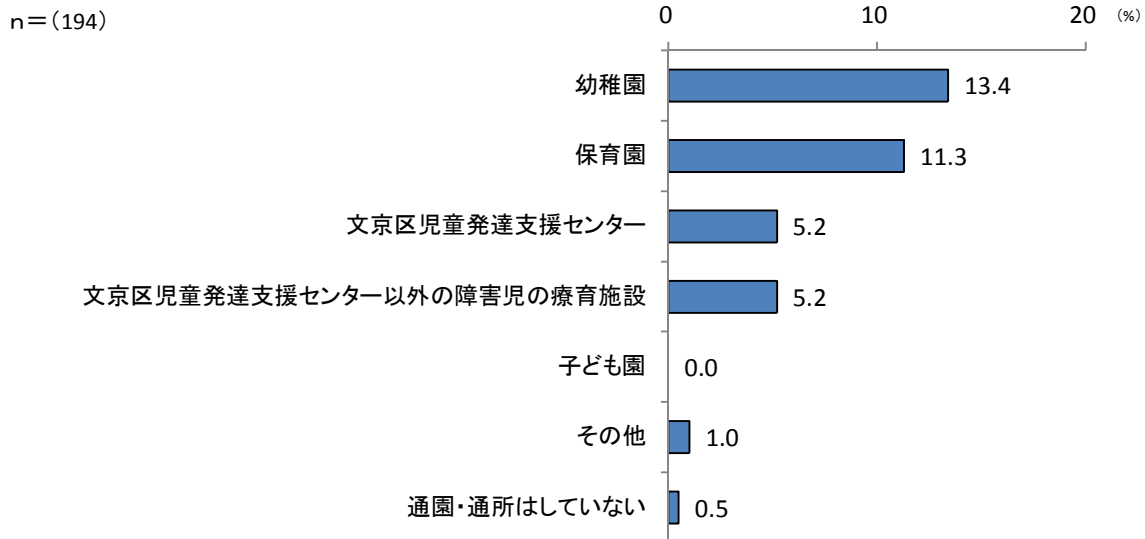
障害児支援利用計画を作成して感じたことについてみると、「障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所等の支援を受けることができた」が50.0%で最も多く、次いで「ニーズを適切に反映したサービスの提案を受けることができた」が46.8%、「相談支援専門員が丁寧に分かり説明してくれた」が41.9%となっています。

## 5. 教育・保育について

### (1) 通園・通学先

問 30 あなたが主に通園・通学などを行っているところをお聞きます。  
(〇はひとつ)

#### A 小学校入学前



小学校入学前では、「幼稚園」13.4%と「保育園」11.3%が1割を超えています。

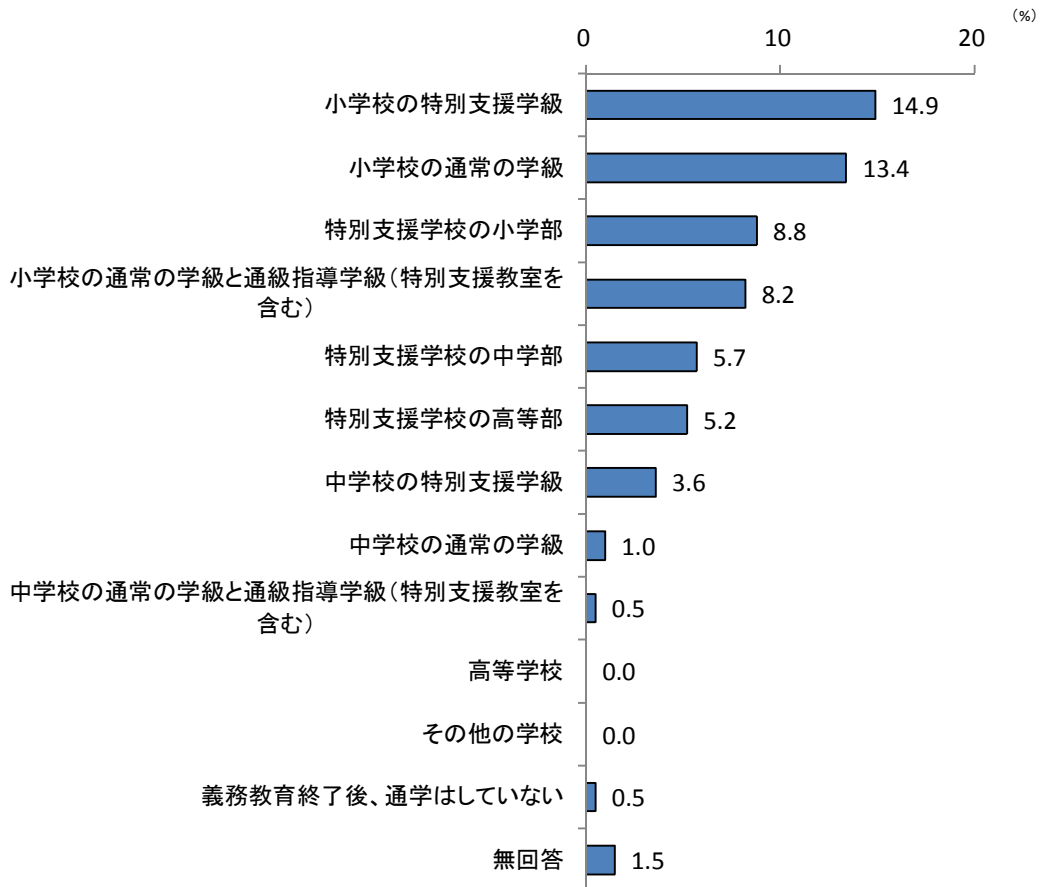
#### 《障害の種類別》

	調査数	保育園	子ども園	幼稚園	文京区児童発達支援センター	文京区児童発達支援センター以外の障害児の療育施設	通園・通所はしていない	その他
身体のみ	13	7.7	-	-	-	7.7	7.7	7.7
知的のみ	81	12.3	-	7.4	4.9	3.7	-	-
精神のみ	8	12.5	-	12.5	-	-	-	-
身体+知的	11	-	-	9.1	9.1	9.1	-	9.1
難病・特定疾患	12	16.7	-	-	16.7	16.7	8.3	8.3
発達障害	108	13.0	-	13.9	4.6	2.8	-	0.9

障害の種類別にみると、「身体のみ」と「難病・特定疾患」では「幼稚園」がなく、「身体と知的の重複障害」では「保育園」が皆無となっています。

## B 学校在学中

n=(194)



学校在学中では、「小学校の特別支援学級」14.9%と「小学校の通常の学級」13.4%が1割台半ばとなっています。

### 《障害の種類別》

	調査数	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級 (特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の通常の学級と通級指導学級 (特別支援教室を含む)	中学校の特別支援学級
身体のみ	13	-	7.7	7.7	<b>38.5</b>	7.7	-	-
知的のみ	81	3.7	1.2	<b>22.2</b>	9.9	-	-	7.4
精神のみ	8	-	25.0	<b>37.5</b>	-	12.5	-	-
身体+知的	11	16.7	11.1	<b>18.5</b>	4.6	0.9	0.9	2.8
難病・特定疾患	12	-	-	9.1	<b>36.4</b>	-	-	9.1
発達障害	108	8.3	-	8.3	8.3	-	-	-

	調査数	特別支援学校の中学部	高等学校	特別支援学校の高等部	その他の学校	義務教育終了後、通学はしていない	無回答
身体のみ	13	-	-	7.7	-	-	-
知的のみ	81	12.3	-	11.1	-	1.2	2.5
精神のみ	8	-	-	-	-	-	-
身体+知的	11	2.8	-	4.6	-	-	1.9
難病・特定疾患	12	9.1	-	-	-	-	-
発達障害	108	-	-	8.3	-	-	-

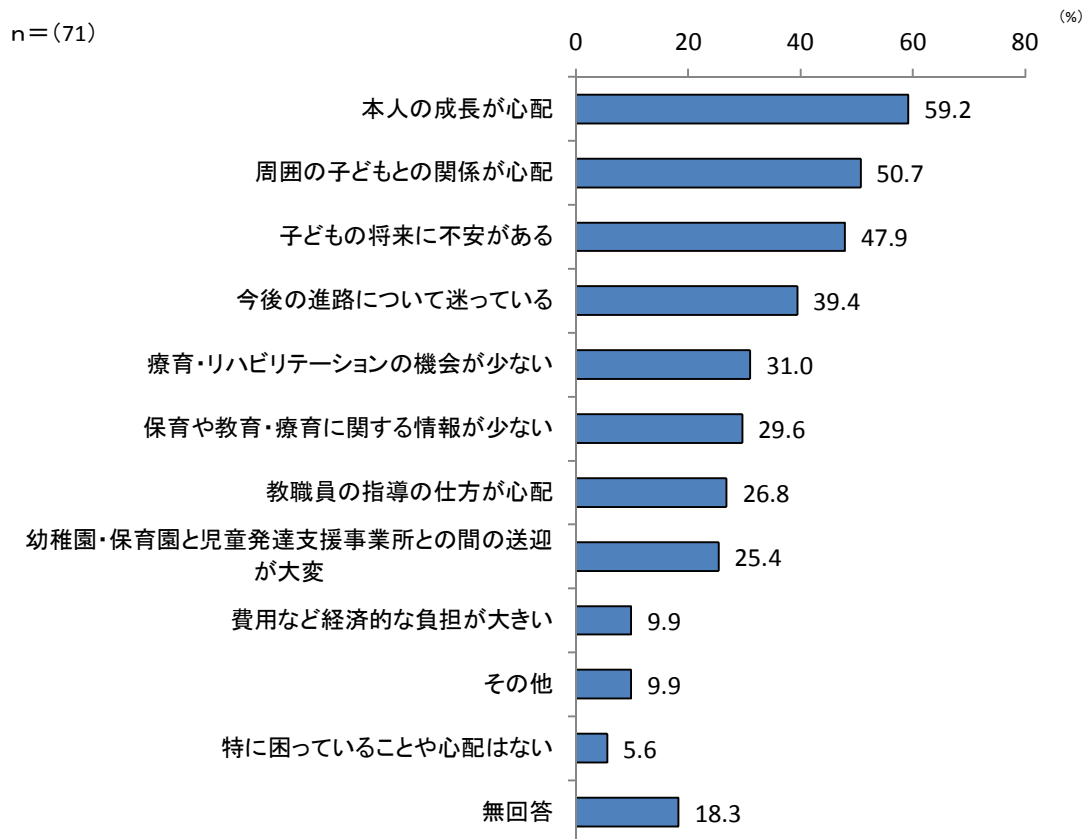
障害の種類別にみると、「身体のみ」と「難病・特定疾患」では「特別支援学校の小学部」が、「知的のみ」、「精神のみ」、「身体と知的の重複障害」では「小学校の特別支援学級」が比較的多くなっています。

### C 義務教育終了後、通学はしていない

義務教区終了後に通学をしていない人で回答があったのは1名で、「児童発達支援事業に通所」となっています。

#### (2) 通園生活等で困っていること

問 31 問 30 で「A 小学校入学前(1~7)」と回答した方のご家族の方にお聞きます。  
通園生活や今後の進路等で困っていることや心配していることはありますか。(〇はいくつでも)



通園生活や今後の進路等で困っていることをみると、「本人の成長が心配」が59.2%で最も多く、次いで「周囲の子どもとの関係が心配」が50.7%、「子どもの将来に不安がある」が47.9%となっています。

《障害の種類別》

	調査数	周囲の子どもとの関係が心配	教職員の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない
身体のみ	4	25.0	-	25.0	-	25.0	50.0
知的のみ	23	56.5	13.0	56.5	65.2	60.9	47.8
精神のみ	2	50.0	-	50.0	-	50.0	50.0
身体+知的	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-
難病・特定疾患	8	25.0	12.5	62.5	62.5	62.5	37.5
発達障害	38	65.8	31.6	73.7	39.5	55.3	31.6

	調査数	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変	特に困っていることや心配はない	その他	無回答
身体のみ	4	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-
知的のみ	23	47.8	8.7	26.1	-	21.7	21.7
精神のみ	2	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0
身体+知的	4	25.0	-	25.0	-	-	50.0
難病・特定疾患	8	37.5	25.0	-	-	50.0	-
発達障害	38	31.6	15.8	28.9	2.6	7.9	18.4

障害の種類別にみると、「知的のみ」では「今後の進路について迷っている」が65.2%、「子どもの将来が不安である」が60.9%と、いずれも6割を超えて多くなっています。

「発達障害」では、「本人の成長が心配」が73.7%で最も多く、次いで「周囲の子どもとの関係が心配」が65.8%となっています。

《年代別》

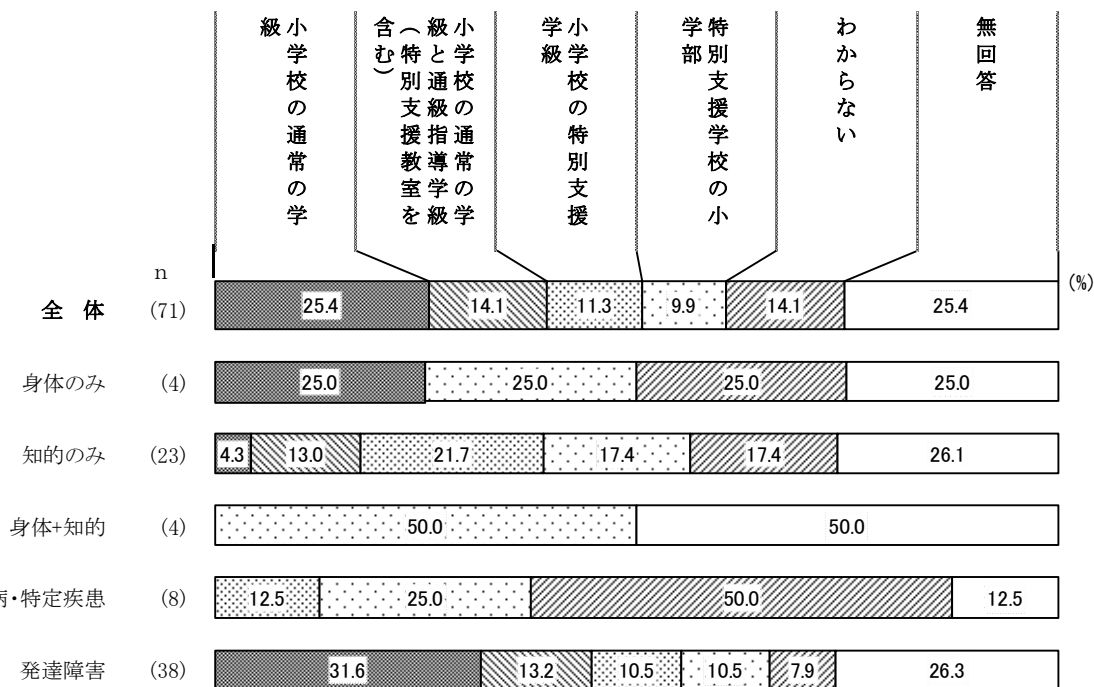
	調査数	周囲の子どもとの関係が心配	教職員の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない
0～2歳	9	44.4	33.3	77.8	33.3	44.4	33.3
3～5歳	37	62.2	27.0	73.0	48.6	59.5	35.1

	調査数	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変	特に困っていることや心配はない	その他	無回答
0～2歳	9	33.3	11.1	11.1	22.2	22.2	-
3～5歳	37	32.4	13.5	29.7	5.4	13.5	-

年代別にみると、「周囲の子どもとの関係が心配」や「子どもの将来が不安である」は、「3～5歳」の方が「0～2歳」よりも多くなっています。

### (3) 希望する初等教育機関

問 32 問 30 で「A 小学校入学前(1～7)」と回答した方のご家族の方にお聞きます。  
 小学校はどの教育機関を希望しますか。(○はひとつ)



※精神障害の児童の方が存在していますが、少数であり分析に適さないためグラフにはお示ししていません。

希望する初等教育機関をみると、「小学校の通常の学級」が25.4%で最も多く、次いで「小学校と通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」が14.1%となっています。

障害の種類別にみると、「知的のみ」では「小学校の特別支援学級」が21.7%で最も多く、「発達障害」では「小学校の通常の学級」が31.6%と多くなっています。

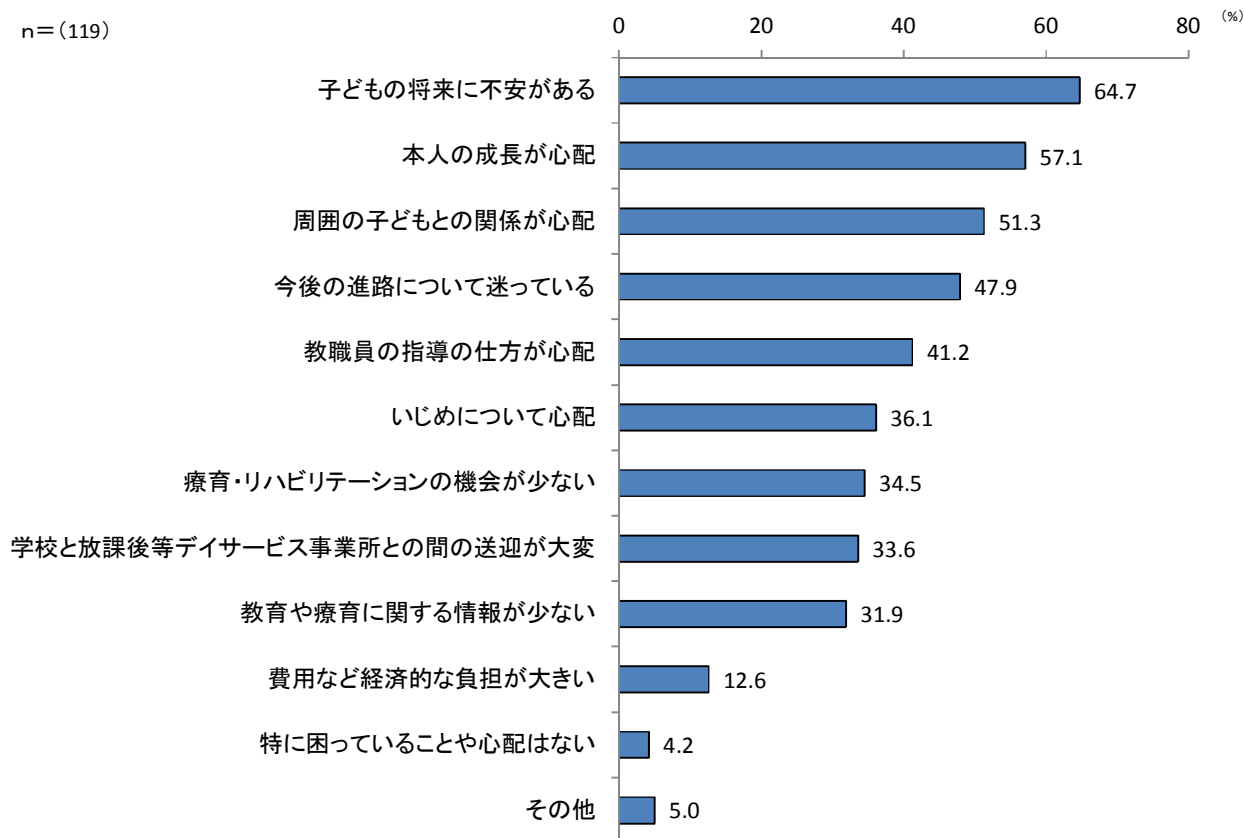
#### 《年代別》

	調査数	小学校の通常の学級	小学校の通常学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	わからない	無回答
0～2歳	9	44.4	11.1	-	-	44.4	-
3～5歳	37	35.1	16.2	13.5	13.5	16.2	5.4

年代別にみると、「0～2歳」、「3～5歳」とともに「小学校の通常の学級」が多くなっています。

#### (4) 通学生活等で困っていること

問 33 問 30 で「B 学校在学中(8~18)」と回答した方のご家族の方にお聞きします。  
通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。  
(〇はいくつでも)



通学生活で困っていることをみると、「子どもの将来に不安がある」が64.7%で最も多く、次いで「本人の成長が心配」が57.1%、「周囲の子どもとの関係が心配」が51.3%となっています。

## 《障害の種類別》

	調査数	周囲の子どもとの関係が心配	いじめについて心配	教職員の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある
身体のみ	9	-	-	22.2	11.1	44.4	55.6
知的のみ	55	36.4	20.0	40.0	58.2	52.7	72.7
精神のみ	6	100.0	83.3	83.3	50.0	83.3	100.0
身体+知的	7	28.6	-	14.3	42.9	28.6	71.4
難病・特定疾患	4	50.0	-	50.0	50.0	50.0	25.0
発達障害	68	66.2	50.0	47.1	64.7	57.4	70.6

	調査数	教育や療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変	特に困っていることや心配はない	その他
身体のみ	9	11.1	22.2	-	11.1	11.1	-
知的のみ	55	27.3	29.1	16.4	36.4	3.6	7.3
精神のみ	6	66.7	66.7	16.7	50	-	-
身体+知的	7	28.6	57.1	-	57.1	-	-
難病・特定疾患	4	25.0	25.0	-	75.0	-	-
発達障害	68	36.8	35.3	14.7	33.8	4.4	5.9

障害の種類別にみると、「知的のみ」では、「子どもの将来に不安がある」が72.7%で最も多く、次いで「本人の成長が心配」が58.2%、「今後の進路について迷っている」が52.7%となっています。

「発達障害」では、「子どもの将来に不安がある」が70.6%で最も多く、次いで「周囲の子どもとの関係が心配」が66.2%、「本人の成長が心配」が64.7%となっています。

## 《年代別》

	調査数	周囲の子どもとの関係が心配	いじめについて心配	教職員の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある
6～8歳	51	66.7	52.9	43.1	62.7	31.4	51.0
9～11歳	28	53.6	39.3	50.0	71.4	67.9	82.1
12～14歳	20	30.0	10.0	30.0	35.0	40.0	65.0
15歳以上	13	15.4	7.7	15.4	53.8	61.5	84.6

	調査数	教育や療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変	特に困っていることや心配はない	その他
6～8歳	51	27.5	31.4	13.7	33.3	3.9	5.9
9～11歳	28	50.0	46.4	17.9	46.4	7.1	3.6
12～14歳	20	25.0	40.0	15.0	30.0	5.0	5.0
15歳以上	13	15.4	7.7	-	15.4	-	7.7

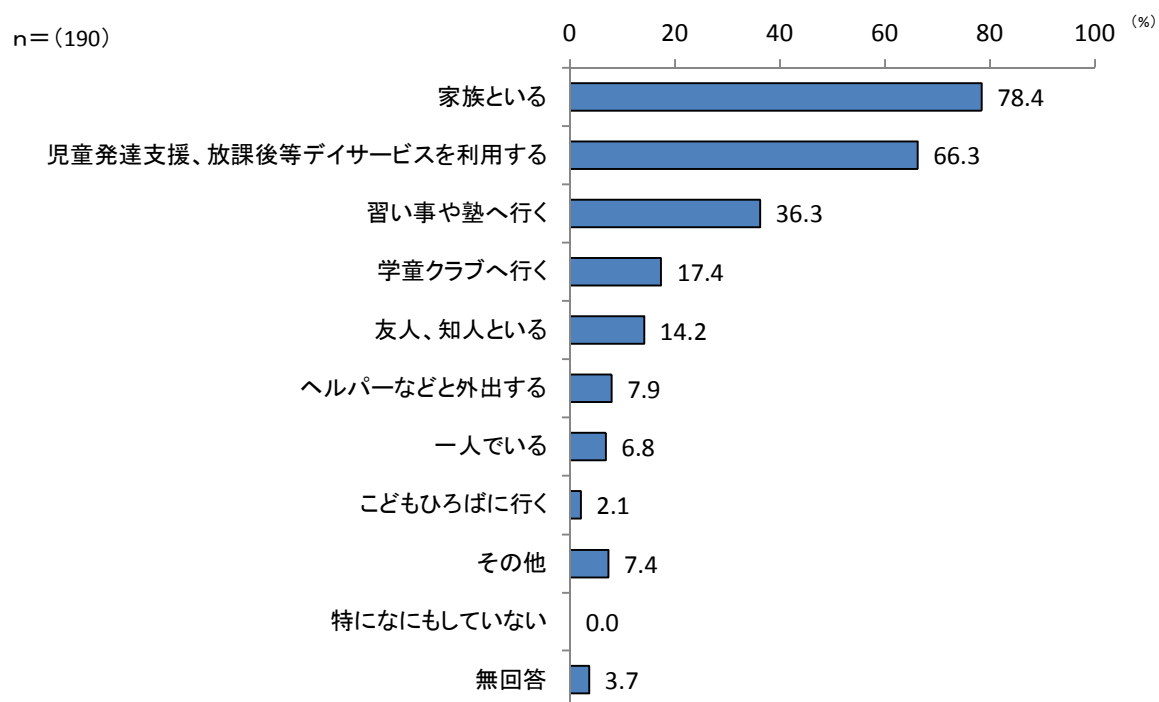
年代別にみると、「6～8歳」では、「周囲の子どもとの関係が心配」が66.7%で最も多く、9歳以上になると「子どもの将来に不安がある」が最も多くなっています。



### (5) 放課後・長期休業中の過ごし方

問 34 問 30 で「A 小学校入学前(1~7)」または「B 学校在学中(8~18)」と回答した方のご家族の方にお聞きします。

放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。(〇はいくつでも)



放課後・長期休業中の過ごし方をみると、「家族といる」が78.4%で最も多く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が66.3%となっています。

## 《障害の種類別》

	調査数	家族といる	友人、知人と いる	一人でいる	ヘルパーな どと外出する	学童クラブへ 行く	こどもひろば に行く
身体のみ	13	53.8	7.7	7.7	7.7	23.1	-
知的のみ	81	76.9	3.8	6.4	11.5	16.7	-
精神のみ	8	75.0	25.0	-	-	25.0	-
身体+知的	11	81.8	9.1	-	36.4	18.2	-
難病・特定疾患	12	83.3	8.3	-	16.7	-	8.3
発達障害	106	80.2	15.1	7.5	3.8	20.8	1.9

	調査数	児童発達支 援、放課後 等デイサー ビスを利用す る	習い事や塾 へ行く	特になにもし ていない	その他	無回答
身体のみ	13	38.5	15.4	-	15.4	15.4
知的のみ	81	74.4	37.2	-	3.8	1.3
精神のみ	8	87.5	12.5	-	25.0	-
身体+知的	11	63.6	-	-	18.2	9.1
難病・特定疾患	12	41.7	16.7	-	16.7	-
発達障害	106	72.6	44.3	-	8.5	1.9

障害の種類別にみると、「身体のみ」では「家族といる」が53.8%で最も多く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が38.5%となっています。

一方、「知的のみ」では「家族といる」が76.9%、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が74.4%と、いずれも7割を超えて多くなっています。

「発達障害」では、「家族といる」が80.2%、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が72.6%といずれも多くなっています。

## 《年代別》

	調査数	家族といる	友人、知人と いる	一人でいる	ヘルパーな どと外出する	学童クラブへ 行く	こどもひろば に行く
0～2歳	9	100	-	-	-	-	11.1
3～5歳	37	83.8	21.6	2.7	2.7	2.7	2.7
6～8歳	65	83.1	16.9	7.7	1.5	27.7	3.1
9～11歳	29	69.0	17.2	10.3	10.3	41.4	-
12～14歳	23	82.6	-	17.4	21.7	4.3	-
15歳以上	17	58.8	5.9	-	17.6	-	-

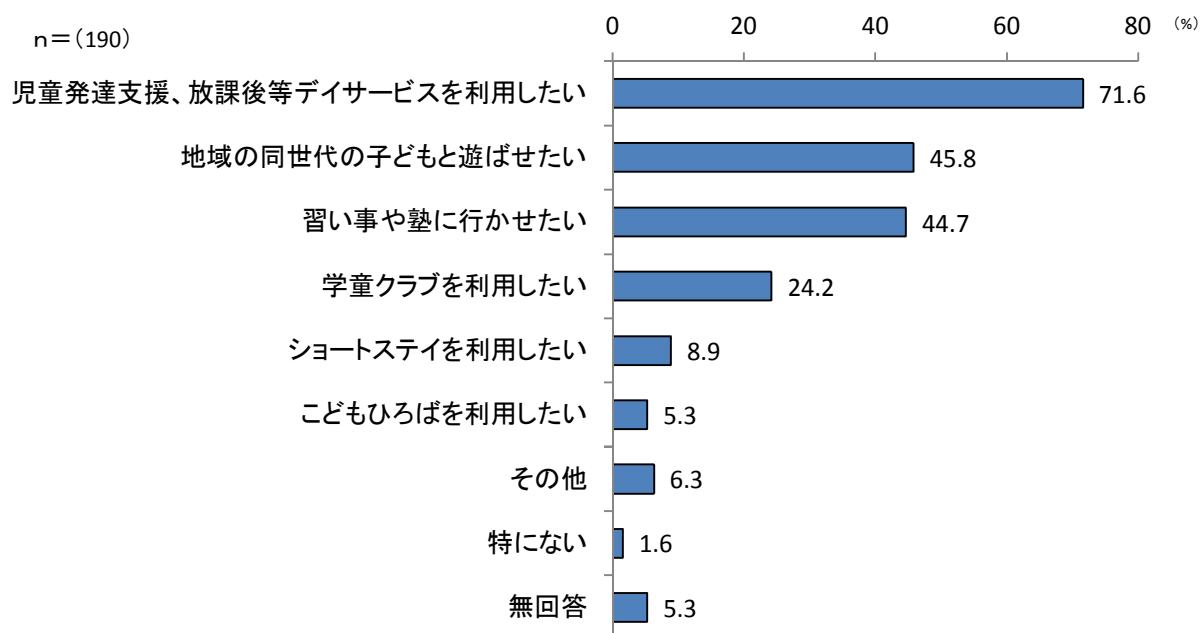
	調査数	児童発達支 援、放課後 等デイサー ビスを利用す る	習い事や塾 へ行く	特になにもし ていない	その他	無回答
0～2歳	9	44.4	-	-	-	-
3～5歳	37	29.7	18.9	-	16.2	5.4
6～8歳	65	72.3	52.3	-	6.2	1.5
9～11歳	29	75.9	51.7	-	13.8	3.4
12～14歳	23	87.0	26.1	-	-	-
15歳以上	17	88.2	17.6	-	-	11.8

年代別にみると、8歳までは「家族といる」が最も多くなっていますが、9歳以上になると「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が最も多くなっています。

(6) 希望する放課後・長期休業中の過ごし方

問 35 問 30 で「A 小学校入学前(1~7)」または「B 学校在学中(8~18)」と回答した方のご家族の方にお聞きます。

放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、どのように過ごすことを希望していますか。(〇は3つまで)



希望する放課後・長期休業中の過ごし方についてみると、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が71.6%と最も多く、次いで「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が45.8%、「習い事や塾に行かせたい」が44.7%となっています。

《障害の種類別》

	調査数	地域の同世代の子どもと遊ばせたい	学童クラブを利用したい	こどもひろばを利用したい	習い事や塾に行かせたい	ショートステイを利用したい	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい
身体のみ	13	38.5	30.8	-	7.7	15.4	<b>53.8</b>
知的のみ	81	34.6	23.1	1.3	44.9	14.1	<b>74.4</b>
精神のみ	8	75.0	25.0	-	75.0	12.5	<b>100.0</b>
身体+知的	11	18.2	9.1	-	18.2	18.2	<b>81.8</b>
難病・特定疾患	12	41.7	16.7	8.3	33.3	8.3	<b>75.0</b>
発達障害	106	50.0	26.4	5.7	51.9	9.4	<b>72.6</b>

	調査数	特にない	その他	無回答
身体のみ	13	-	15.4	7.7
知的のみ	81	2.6	7.7	6.4
精神のみ	8	-	-	-
身体+知的	11	-	-	9.1
難病・特定疾患	12	8.3	16.7	-
発達障害	106	1.9	6.6	5.7

障害の種類別にみると、「身体のみ」では、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が53.8%と最も多く、次いで「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が38.5%、「学童クラブを利用したい」が30.8%となっています。

また、「知的のみ」、「発達障害」でも、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が7割以上%と最も多く、次いで「習い事や塾に行かせたい」となっています。

#### 《年代別》

	調査数	地域の同世代の子どもと遊ばせたい	学童クラブを利用したい	こどもひろばを利用したい	習い事や塾に行かせたい	ショートステイを利用したい	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい
0～2歳	9	33.3	-	22.2	22.2	-	<b>66.7</b>
3～5歳	37	56.8	27.0	10.8	37.8	8.1	<b>67.6</b>
6～8歳	65	52.3	32.3	1.5	47.7	6.2	<b>72.3</b>
9～11歳	29	48.3	41.4	6.9	69.0	10.3	<b>75.9</b>
12～14歳	23	30.4	8.7	4.3	30.4	17.4	<b>78.3</b>
15歳以上	17	5.9	-	-	23.5	17.6	<b>64.7</b>

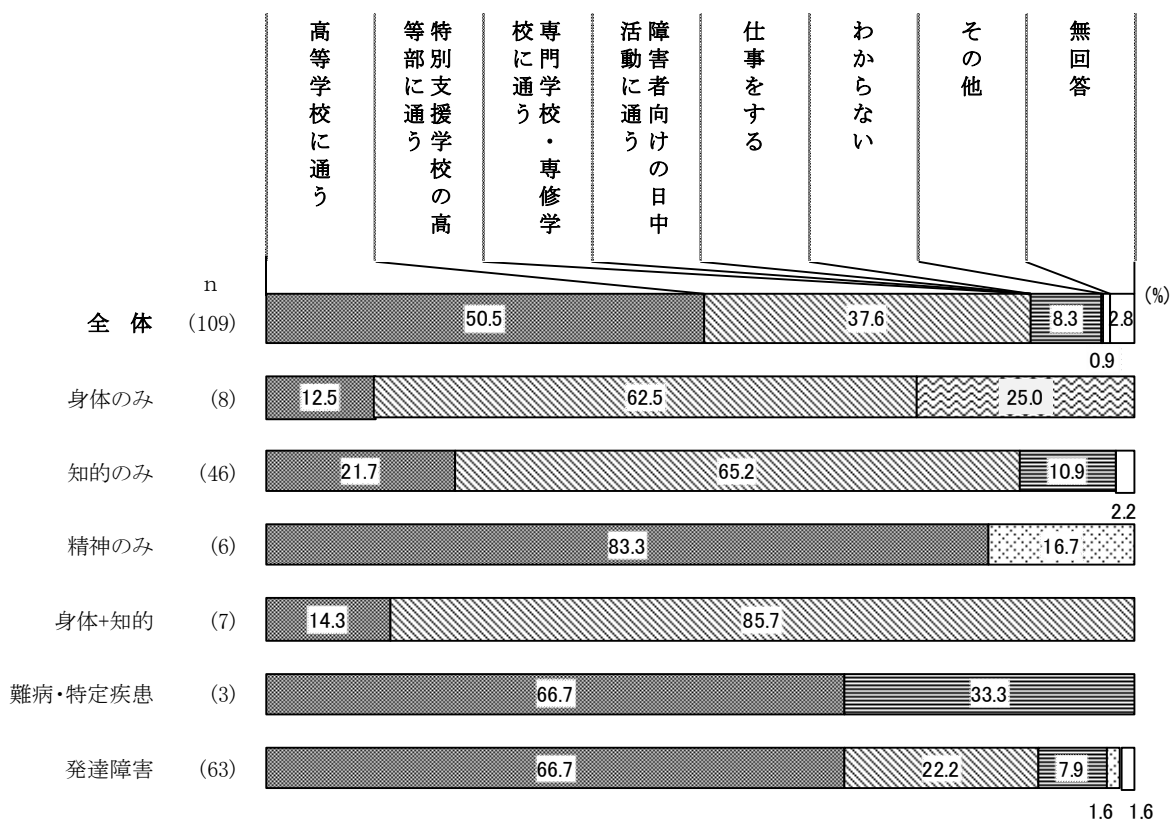
	調査数	特にない	その他	無回答
0～2歳	9	22.2	11.1	-
3～5歳	37	-	5.4	8.1
6～8歳	65	1.5	4.6	3.1
9～11歳	29	-	3.4	3.4
12～14歳	23	-	13.0	-
15歳以上	17	-	5.9	23.5

年代別にみると、いずれの年代も「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が最も高くなっています。「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」は3～8歳で、「習い事や塾に行かせたい」は9～11歳で多くなっています。

## (7) 中学校卒業後に希望する進路

問 36 小学校（小学部）、または中学校（中学部）に通っている方のご家族の方にお聞きします。

中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（○はひとつ）



中学校卒業後に希望する進路をみると、「高等学校に通う」が50.5%、「特別支援学校の高等部に通う」が37.6%となっています。

障害の種類別にみると、「知的のみ」では、「特別支援学校の高等部に通う」が65.2%と最も多く、次いで「高等学校に通う」が21.7%となっています。

一方で、「発達障害」では「高等学校に通う」が66.7%で最も多く、次いで「特別支援学校の高等部に通う」が22.2%となっています。

### 《年代別》

	調査数	高等学校に通う	特別支援学校の高等部に通う	専門学校・専修学校に通う	障害者向けの日中活動に通う	仕事をする	わからない	その他	無回答
6～8歳	51	66.7	19.6	-	-	-	13.7	-	-
9～11歳	28	57.1	35.7	-	-	-	-	3.6	3.6
12～14歳	20	15.0	85.0	-	-	-	-	-	-
15歳以上	3	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-

年代別にみると、11歳までは「高等学校に通う」が最も多く、12歳以上では「特別支援学校の高等部に通う」が最も多くなっています。

## (8) 高校卒業後に希望する進路

問 37 義務教育を終了した方にお聞きします。

以下の選択肢のうち、どのような進路を希望しますか。(○はひとつ)

### 【本人の希望】

回答者は1名で、「地域の身近にある学びの場へ通う」を選んでいました。

### 【保護者の希望】

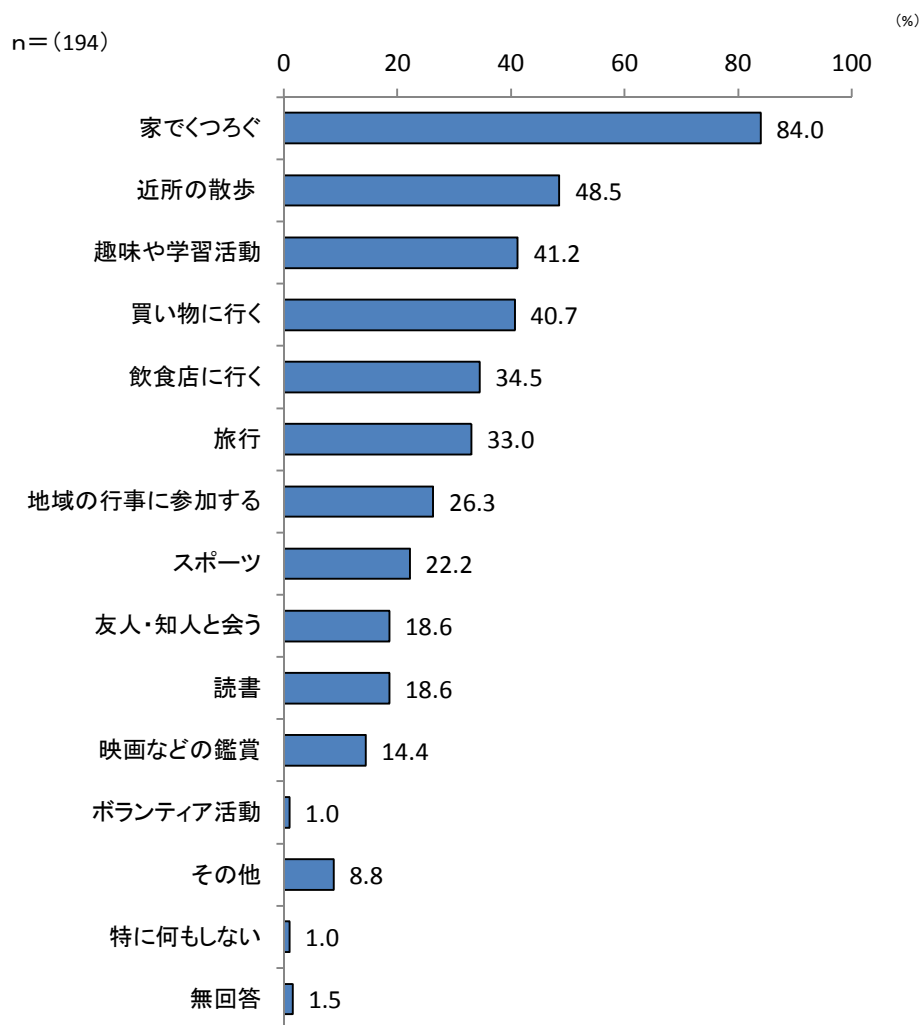
回答者は1名で、「地域の身近にある学びの場へ通う」を選んでいました。

## (9) 休日や余裕があるときの過ごし方

問 38 全ての方にお聞きします。

あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。

(○はいくつでも)



休日や余裕のある時の過ごし方をみると、「家でくつろぐ」が84.0%最も多く、次いで「近所の散歩」が48.5%、「趣味や学習活動」が41.2%となっています。

《障害の種類別》

	調査数	家でくつろぐ	近所の散歩	趣味や学習活動	買い物に行く	飲食店に行く	旅行
身体のみ	13	84.6	46.2	30.8	38.5	15.4	23.1
知的のみ	81	84.0	46.9	37.0	38.3	32.1	30.9
精神のみ	8	87.5	50.0	75.0	62.5	37.5	50.0
身体+知的	11	90.9	45.5	18.2	27.3	36.4	27.3
難病・特定疾患	12	75.0	66.7	16.7	41.7	33.3	33.3
発達障害	108	86.1	50.9	46.3	49.1	41.7	36.1

	調査数	地域の行事に参加する	スポーツ	友人・知人と会う	読書	映画などの鑑賞	ボランティア活動
身体のみ	13	15.4	15.4	15.4	7.7	15.4	-
知的のみ	81	14.8	18.5	3.7	13.6	11.1	-
精神のみ	8	25.0	37.5	62.5	62.5	25.0	-
身体+知的	11	18.2	18.2	9.1	9.1	18.2	-
難病・特定疾患	12	16.7	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0
発達障害	108	31.5	25.9	20.4	24.1	16.7	0.9

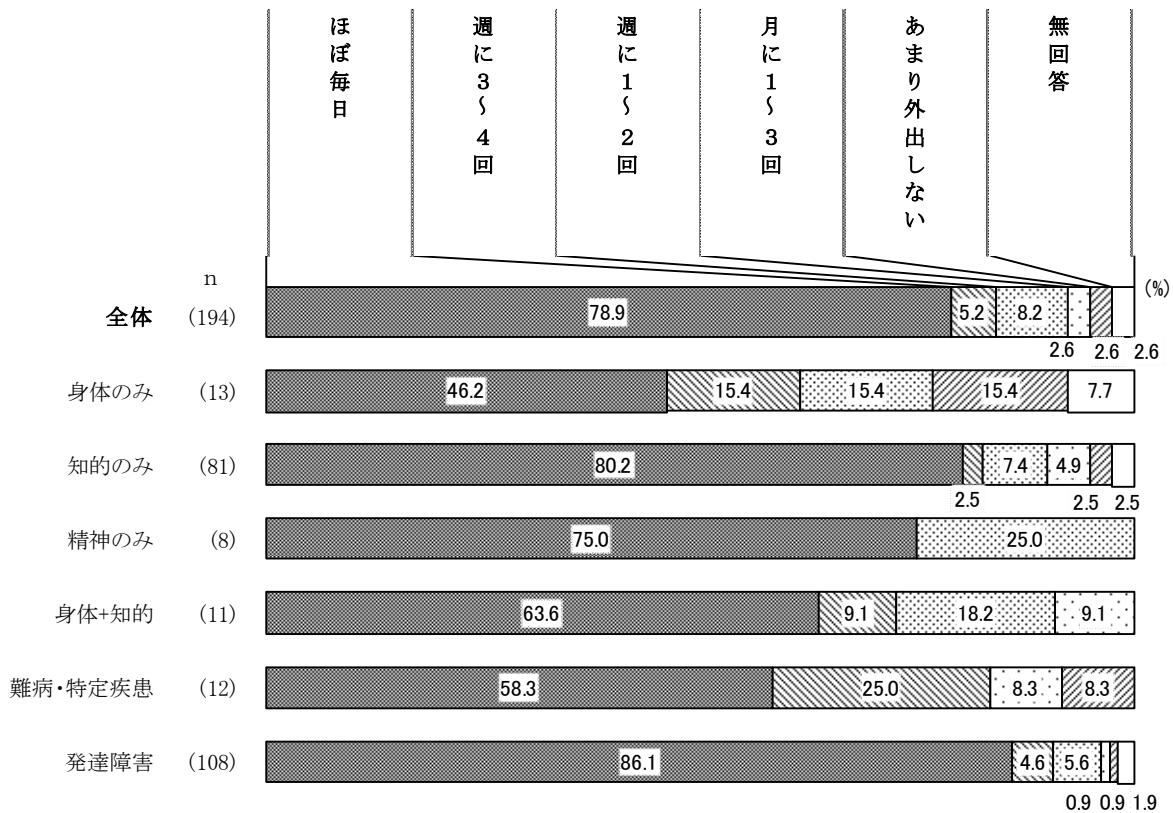
	調査数	特に何もしない	その他	無回答
身体のみ	13	7.7	-	-
知的のみ	81	1.2	7.4	1.2
精神のみ	8	-	12.5	-
身体+知的	11	-	9.1	-
難病・特定疾患	12	8.3	16.7	0.0
発達障害	108	0.0	12.0	1.9

障害の種類別にみると、いずれの障害でも「家でくつろぐ」が最も多く、次いで「近所の散歩」や「買い物に行く」等が多くなっています。

## 6. 外出や住まいについて

### (1) 外出の頻度

問 39 あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)



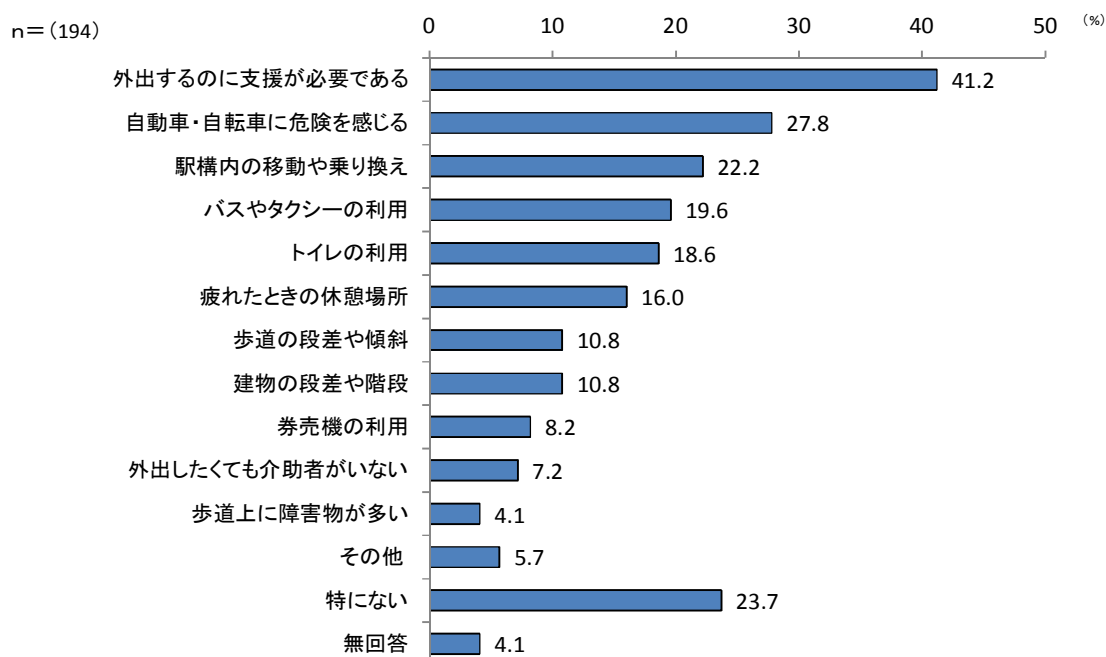
外出の頻度をみると、「ほぼ毎日」が78.9%を占めています。

障害の種類別にみると、「ほぼ毎日」が「知的のみ」で80.2%、「発達障害」で86.1%を占めるのに対して、「身体のみ」では46.2%となっています。



## (2) 外出時に困っていること

問 40 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。  
(〇はいくつでも)



外出時に困っていることについてみると、「外出するのに支援が必要である」が41.2%で最も多く、「自動車・自転車に危険を感じる」が27.8%でこれに次いでいます。

### 《障害の種類別》

	調査数	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用	歩道上に障害物が多い
身体のみ	13	53.8	53.8	23.1	61.5	7.7	30.8	7.7
知的のみ	81	11.1	12.3	21.0	22.2	12.3	22.2	3.7
精神のみ	8	-	-	62.5	50.0	25.0	12.5	-
身体+知的	11	18.2	18.2	27.3	36.4	9.1	54.5	18.2
難病・特定疾患	12	25.0	41.7	33.3	25.0	8.3	33.3	-
発達障害	108	3.7	2.8	15.7	13.9	6.5	10.2	3.7

	調査数	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない	特にない	その他	無回答
身体のみ	13	7.7	15.4	30.8	-	7.7	30.8	-
知的のみ	81	18.5	25.9	64.2	13.6	13.6	3.7	1.2
精神のみ	8	37.5	62.5	25.0	12.5	12.5	-	-
身体+知的	11	27.3	36.4	90.9	18.2	-	9.1	9.1
難病・特定疾患	12	8.3	25.0	41.7	-	-	16.7	8.3
発達障害	108	15.7	31.5	38.9	5.6	29.6	5.6	2.8

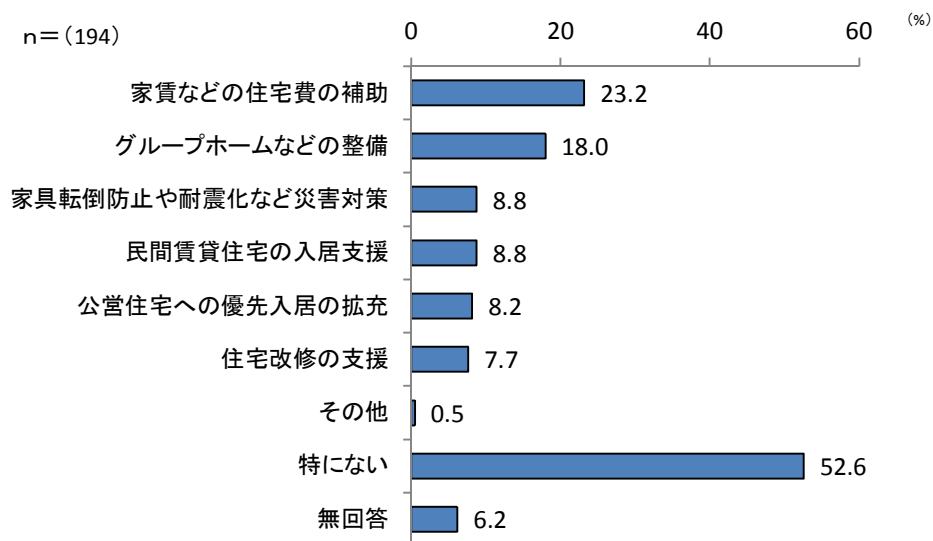
障害の種類別にみると、「知的のみ」では、「外出するのに支援が必要である」が64.2%と最も多くなっています。

また、「身体と知的の重複障害」でも「外出するのに支援が必要である」が90.9%と最も多くなっています。

一方、「発達障害」では「外出するのに支援が必要である」が38.9%、「自動車・自転車に危険を感じる」が31.5%と3割を超えています。

### (3) 住まいに必要な支援

問41 住まいに関してどのような支援を必要としていますか。  
(〇は3つまで)



住まいに必要な支援をみると、「特にない」が52.6%と過半数を占めていますが、必要な支援の中では、「家賃など住宅費の補助」が23.2%で最も多くなっています。

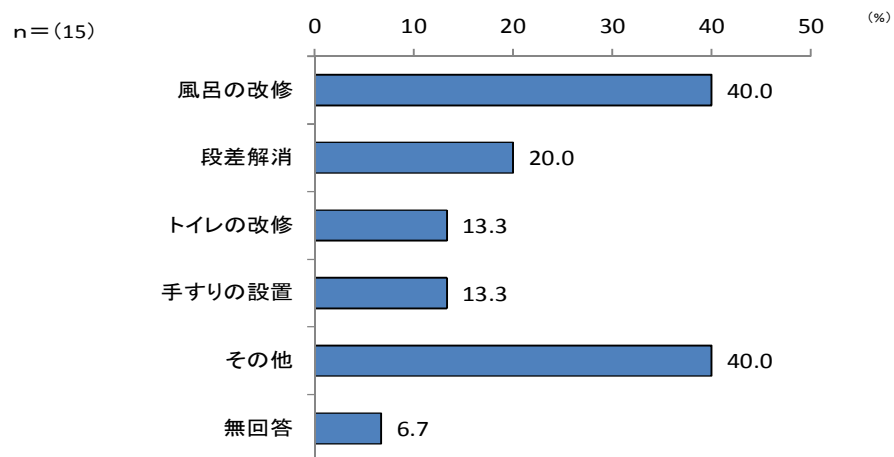
#### 《障害の種類別》

	調査数	住宅改修の支援	家具転倒防止や耐震化など災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅の入居支援	家賃などの住宅費の補助	グループホームなどの整備
身体のみ	13	15.4	15.4	7.7	7.7	<b>30.8</b>	15.4
知的のみ	81	9.9	4.9	4.9	7.4	24.7	<b>34.6</b>
精神のみ	8	12.5	<b>50.0</b>	37.5	37.5	<b>62.5</b>	12.5
身体+知的	11	27.3	-	18.2	18.2	27.3	<b>36.4</b>
難病・特定疾患	12	-	8.3	16.7	16.7	<b>41.7</b>	16.7
発達障害	108	8.3	7.4	8.3	7.4	<b>18.5</b>	14.8

	調査数	特にない	その他	無回答
身体のみ	13	<b>38.5</b>	-	15.4
知的のみ	81	<b>46.9</b>	1.2	2.5
精神のみ	8	12.5	-	-
身体+知的	11	27.3	-	-
難病・特定疾患	12	<b>50.0</b>	-	-
発達障害	108	<b>58.3</b>	0.9	4.6

障害の種類別にみると、いずれの障害でも「家賃など住宅費の補助」が比較的多くなっています。また、「知的のみ」、「身体と知的の重複障害」では、「グループホームなどの整備」が3割を超えており、他の障害より多くなっています。

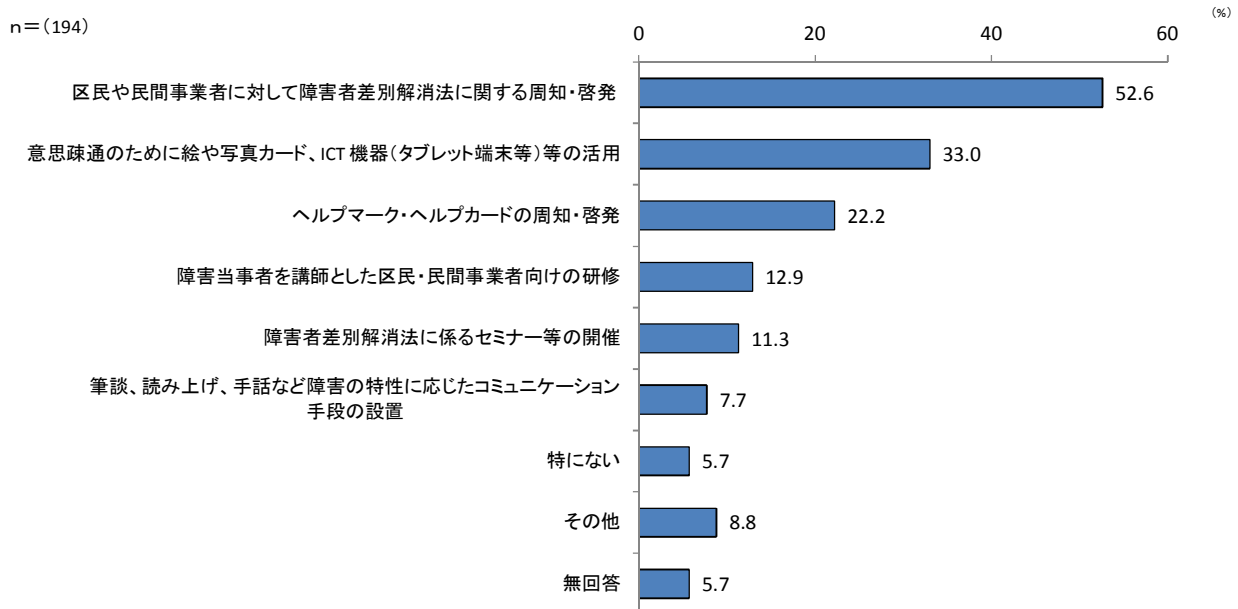
《住宅改修の具体的内容》



## 7. 差別解消について

### (1) 社会的障壁除去のための合理的配慮で必要なこと

問 42 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことは何だと思われますか。(〇は2つまで)



社会的障壁除去のための合理的配慮で必要なことをみると、「区民や民間事業者に対して障害者差別解消法に関する周知・啓発」が52.6%と最も多く、「意思疎通のために絵や写真カード、ICT機器(タブレット端末等)等の活用」が33.0%でこれに次いでいます。

《障害の種類別》

	調査数	区民や民間事業者に対して障害者差別解消法に関する周知・啓発	意思疎通のために絵や写真カード、ICT 機器(タブレット端末等)等の活用	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	障害当事者を講師とした区民・民間事業者向けの研修	障害者差別解消法に係るセミナー等の開催	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション手段の設置
身体のみ	13	38.5	23.1	15.4	23.1	7.7	7.7
知的のみ	81	61.7	37.0	22.2	11.1	18.5	6.2
精神のみ	8	75.0	12.5	37.5	25.0	25.0	12.5
身体+知的	11	36.4	9.1	18.2	9.1	27.3	63.6
難病・特定疾患	12	50.0	50.0	41.7	0.0	8.3	16.7
発達障害	108	50.9	37.0	20.4	13.0	12.0	7.4

	調査数	特にない	その他	無回答
身体のみ	13	7.7	15.4	23.1
知的のみ	81	2.5	8.6	2.5
精神のみ	8	-	-	-
身体+知的	11	-	9.1	-
難病・特定疾患	12	0.0	8.3	0.0
発達障害	108	7.4	9.3	2.8

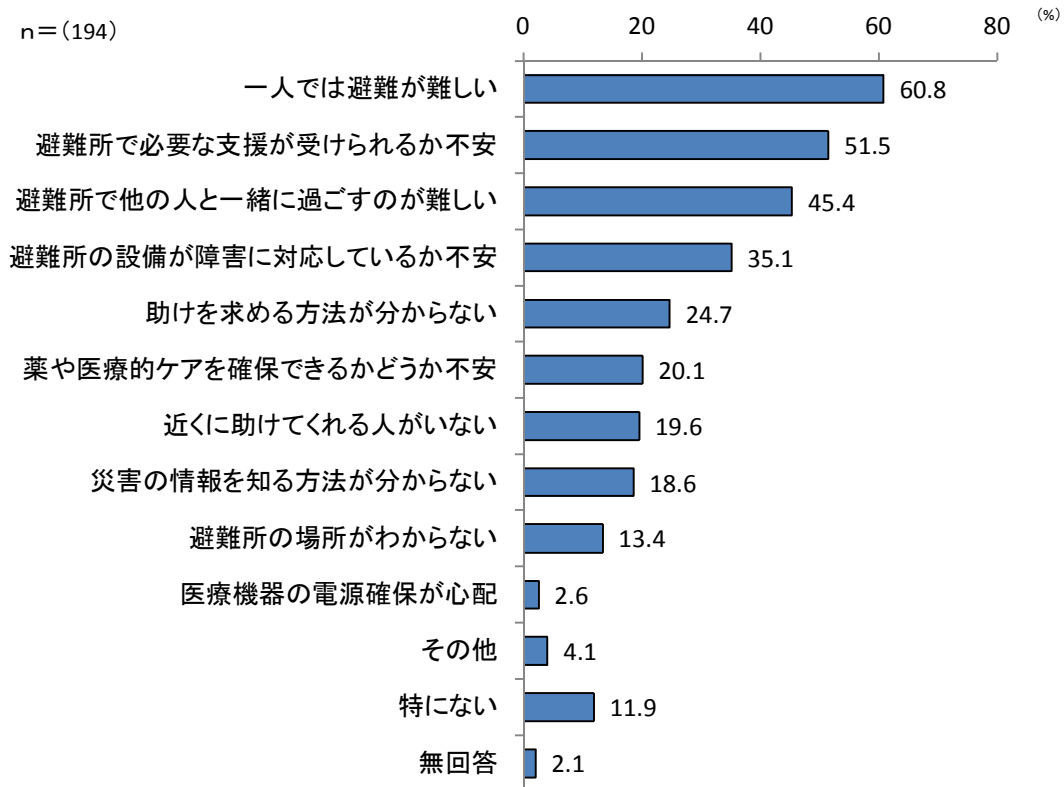
障害の種類別にみると、「区民や民間事業者に対して障害者差別解消法に関する周知・啓発」が「身体のみ」で38.5%、「知的のみ」で61.7%、「発達障害」で50.9%と最も多くなっています。

また、「難病・特定疾患」では、「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が41.7%と、他の障害よりも多くなっています。

## 8. 災害対策について

### (1) 災害発生時に困ること

問 43 あなたやご家族の方が、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。(〇はいくつでも)



災害発生時に困ることをみると、「1人では避難が難しい」が60.8%で最も多く、以下、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が51.5%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が45.4%と続いています。

《障害の種類別》

	調査数	災害の情報を知る方法が分からない	助けを求める方法が分からない	避難所の場所がわからない	近くに助けてくれる人がいない	一人では避難が難しい	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安
身体のみ	13	15.4	23.1	7.7	38.5	<b>69.2</b>	<b>69.2</b>	53.8
知的のみ	81	22.2	29.6	17.3	16.0	<b>75.3</b>	39.5	<b>61.7</b>
精神のみ	8	50.0	37.5	37.5	62.5	75.0	<b>87.5</b>	<b>87.5</b>
身体+知的	11	45.5	63.6	27.3	36.4	<b>90.9</b>	63.6	<b>100.0</b>
難病・特定疾患	12	25.0	33.3	8.3	16.7	<b>66.7</b>	41.7	<b>66.7</b>
発達障害	108	22.2	26.9	15.7	21.3	<b>57.4</b>	37.0	<b>54.6</b>

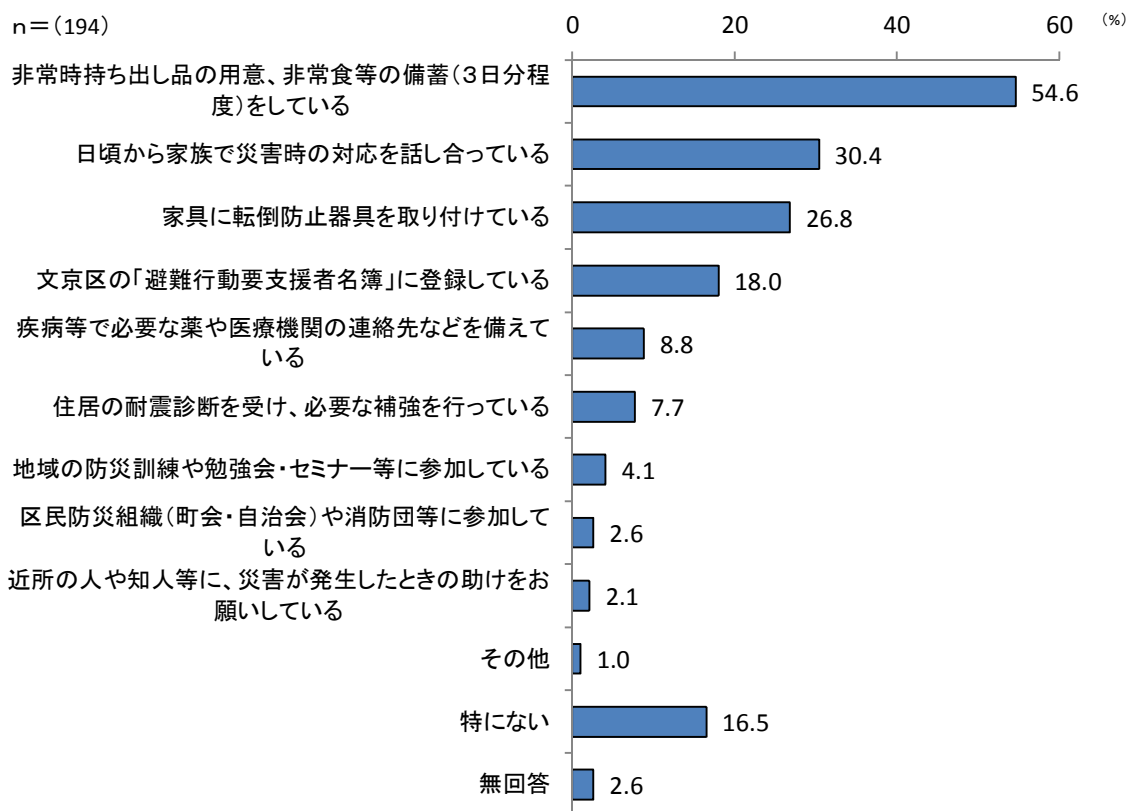
	調査数	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	医療機器の電源確保が心配	特になし	その他	無回答
身体のみ	13	46.2	46.2	15.4	7.7	15.4	-
知的のみ	81	53.1	17.3	-	2.5	4.9	-
精神のみ	8	75.0	12.5	-	12.5	-	-
身体+知的	11	36.4	54.5	18.2	-	-	-
難病・特定疾患	12	41.7	58.3	8.3	-	8.3	-
発達障害	108	52.8	17.6	-	10.2	4.6	2.8

障害の種類別にみると、「身体のみ」では「1人では避難が難しい」と「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が69.2%と多く、「知的のみ」でも「1人では避難が難しい」が75.3%と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が61.7%となっています。

「発達障害」でも「1人では避難が難しい」が57.4%、と「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が54.6%と5割を超えています。

## (2) 災害に対する備え

問 44 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。  
(〇はいくつでも)



災害に対する備えをみると、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている」が54.6%で最も多く、次いで「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が30.4%、「家具に転倒防止器具を取り付けている」が26.8%となっています。



《障害の種類別》

	調査数	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
身体のみ	13	30.8	<b>53.8</b>	15.4	-	<b>46.2</b>	23.1
知的のみ	81	24.7	<b>55.6</b>	9.9	-	<b>29.6</b>	23.5
精神のみ	8	25.0	<b>50.0</b>	-	-	12.5	<b>25.0</b>
身体+知的	11	18.2	<b>45.5</b>	27.3	9.1	<b>36.4</b>	<b>36.4</b>
難病・特定疾患	12	16.7	<b>50.0</b>	16.7	-	<b>33.3</b>	16.7
発達障害	108	<b>31.5</b>	<b>53.7</b>	9.3	3.7	13.9	28.7

	調査数	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している	特にない	その他	無回答
身体のみ	13	7.7	-	7.7	-	-	7.7
知的のみ	81	9.9	3.7	1.2	14.8	2.5	2.5
精神のみ	8	12.5	12.5	-	12.5	-	-
身体+知的	11	-	9.1	18.2	27.3	-	-
難病・特定疾患	12	-	-	-	8.3	-	8.3

障害の種類別にみると、すべての障害で「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている」が最も多くなっています。次いで、「身体のみ」、「知的のみ」、「身体と知的の重複障害」、「難病・特定疾患」では「文京区の『避難行動要支援者の名簿』に登録している」となっていますが、「発達障害」では「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が2番目となっています。

## 9. 自由意見

問 45 区の障害児（者）施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は98件ありました。「福祉」についての意見が34.7%と最も多く、次いで「教育・療育」が25.5%、「行政」が10.2%となっています。

主な意見は下記のとおりです。

(%)

	総数	福祉	教育・療育	行政	障害理解	アンケート	将来	保健・医療	情報・相談	雇用・就労	生活環境	その他
自由意見	98	34.7	25.5	10.2	9.2	7.1	4.1	3.1	2.0	2.0	1.0	1.0

### ●主な意見（内容は要約・省略しています）

#### 1. 福祉（34件）

- ・学齢期の子どもの通学支援利用回数10回/月をもっと増やしてほしい。放課後等デイサービスの送迎や1人通学の練習など回数が全く足りず、保護者の負担が大きい。
- ・通学支援の回数の上限が10回では、両親ともに就労している場合少な過ぎます。20～22日/月の往復で少なくとも40回の利用が必要です。
- ・私の子供は医療的ケアが必要なので自分自身病気や急な用事が出来た時に預けられる施設がない。ショートステイも利用したいが医療的ケアを必要とするので利用出来ない。この様に障害者に対するサポートは薄いと感じています。看護資格を持つ人の確保や、その他、色々な事由が有ると思うので、この様な所の予算を増やして医療的ケアを行わなければいけない子供の事も考えて頂きたいです。
- ・中学生・高校生向けの放課後等デイサービスの充実（保護者の就労に対応出来るように）を希望します。小学6年生までは育成室（学童クラブ）があり、学校からの送迎もしてくれますが、小学校卒業後は通うことが出来ず、放課後や長期休み中に過せる場所がないと、保護者が就労し続けることが困難になります。
- ・文京区内にある放課後等デイサービスについて、重度の障害を持つ子供を安心して預けられる事業所が少ない（ほとんどない）。希望しているところは待機人数が多く、北区のデイサービスを利用している状況です。
- ・発達障害児は大変増えており、親も気付いていない場合もあります。成長の早い段階で気づき、それに対してケアを行える体制を強化して欲しいと思います。
- ・グループホームを民間の力も活用して整備し、希望者は入居できるようにしてほしい。
- ・福祉就労先について、「空いているところに入るしかない」あるいは「定員を超過して採用」という状態が慢性化していると感じます。子どもたちの実態と希望が沿うような就労対策をしていただけるよう施設を充実させてほしいです。
- ・重症心身障害児者の在宅レスパイト事業を文京区でも実現していただきたい。
- ・今は放課後等デイサービスを利用しているが、18歳以降はデイサービスがなくなり、移動支援のみとなるので不安である。将来、グループホームなどで自立させたいと思っているが、実際少なく、又、反対運動など区民の意識の変化も必要と思う。

## 2. 教育・療育 (25 件)

- ・子どもは現在小学生で、普通級に通学しています。親の目が届きにくく、担当の先生とも細やかなお話は出来ません。小さなトラブル（忘れ物等）が続くと相談する感じです。もう少し学校生活で困っていないか、の情報も欲しいし、現在利用している教育センターに連絡帳等で相談しますが、もう少し子供の特性が分っている方が身近でいて、相談し易い環境ならいいのにな、と感じる事が多いです。
- ・区内の全小中学校に特別支援学級の設置を求めたい。進学のために家から通える学校を選択する事ができなく通学をどのようにしようかと頭を悩ませます。
- ・私の子どもは小学生ですが、各支援が保育園（幼稚園）→小学校とつながっていない印象でした。保育園の5年間はとても支援に対して安心感や信頼があったのですが、就学でぷつりと切れる（終わる）感じがします。保（幼）→小→中→高の各つなぎ目がスムーズだといいなと思えました。
- ・療育をうけられる機会を増やしてほしい。療育と保育園等の連携を強化して併用もできるようにしてほしい。
- ・小学校入学後は、発達障害児が個別または少人数で、各自の障害にあわせて受けられる公的療育サービスが全くありません。現在、家庭でソーシャルスキルや識字に関するトレーニングを行っていますが、やはり不十分ですし、専門性に欠ける為不安も感じます。就学後も発達障害児が受ける事の出来る療育サービスの充実をお願いします。
- ・障害児スポーツについて、文京区では小学校まで保護者支援でのスイミングがあるだけなのですが、区の児童スポーツ全体の枠が少なすぎるし、中学生まで、保護者ではなくて介助者支援を付けて、区立中・小学校などを利用させてほしい。
- ・公立中学に情緒特別支援学級を設置してもらいたい。小学校で情緒固定級にいる子どもたちの進学先が無い状況。もともと小規模の中学などに設置して下さると、全ての教員の方の目が届きやすいので、子どもの思春期対応が善くなると思っている。

## 3. 行政 (10 件)

- ・就園、就学について、それぞれの幼稚園や学校で受け入れ体制等ホームページ上などに明示して欲しい。また、区が園や学校ととり持ってくれたら精神的負担が軽くなると思う。子供の進路で悩む上に、個々に問い合わせしなければならない現状、受け入れてもらえない時の心のダメージはとても大きい。
- ・近年発達障害児の数が増えているためか、重度の重複障害児に対する自治体や国のリソース（施設、療育機会、介護者等）が十分でないように思う。発達障害児の対応は公立学校（の支援学級）をメインにするなど、メリハリのついたリソース配分を考えられないか。また、「老人介護」「障害者福祉」などを縦割りにせず、介護施設等のリソースを柔軟に融通できないか（例、年老いた親と障害のある子供が一緒に暮らせるような介護施設等）。
- ・障害児の参加できるイベント（スポーツ等）を増やして欲しい。例えば体操教室など。現在、発達支援センターに通園しているが、その他に出かけられる所がないので、そういう場（ホール・教室の開放）を提供して頂きたい。公共の遊び場では、社会のルールが理解できずに、保護者が安心して遊ばせることが出来ずにいる。又、保護者同士、コミュニケーションを取れる場があったら嬉しいと思います。
- ・障害児の育児と仕事の両立が精神的にも肉体的にも時間的にもとても辛く、毎日疲れ果て、子どもにきつくあたってしまい自己嫌悪になる。保護者から障害児への虐待を未然に防ぐためにも、区の施策（教育や保育園、幼稚園、育成室、教育センターなども）において障害児家庭の様々な負担軽減をはかってほしい。保護者の心の余裕こそが障害児の幸福に直結していると思う。

#### 4. 障害理解（9件）

- ・子どもは発達障害のボーダーですが、ボーダーだから言わなければ気付かれないかも…と思うこともあります。ですが、確かに困難さがあるって、一見普通に問題なくやれているのは、本人と家庭や支援センター等での、並々ならぬ努力があつてのことで、それをずっと継続していく根気は定型の人の何十倍も必要だということは周りに分かってもらいたいです。
- ・一見してわからない障がいなので、学校や幼稚園で発達障がいの子についての具体的な説明（よくみるADHD、アスペルガーなどのアニメのY o u T u b eの動画等を用いて）を全体に向けてやってもらえると助かる。
- ・文京区は小中をインクルーシブな環境になっていない事を強く感じます。誰でも活き活きと暮らすために、子供の頃から周りにあたり前に障害を持つ人がいる環境づくりを促進頂きたいです。
- ・地域で暮らしていくことを考え、周囲の理解や、利用できるサービスを十分に知るための機会が不可欠。地域の人と仲良くやっていきたいので特別なセミナー等に参加しない方でも障害児（者）と、どのように関われば良いのかを知ってもらえるような活動をしてください。
- ・どうすれば共に住みやすい、くらしやすい社会になるのかはわかりませんが、いつも行く店の店員で働いている、学校や公共施設に行くと必ず職員の中にいる、障がいを持った人々が町の中にあたり前のように見うけられるような環境になればより理解出来るのではないかと。

#### 5. アンケート（7件）

- ・このアンケートの冊紙に対して封筒（返信用）が小さすぎる。
- ・区の皆様には日頃からお世話になっております。ただ、今回の調査票はポスト投函のため、誤配の可能性もあります。「障害児」と表書きに書かれていることに疑問を感じます。細やかな配慮を希望します。
- ・今回のアンケート、かなり無理があるように思う。児童発達支援の利用者の中でも、その状況は様々で、身体の障害がない場合には回答できないものもあったし、年齢によって回答不可能なものもあった。

#### 6. 将来（4件）

- ・障害児も障害者になります。手を借りても自立しなければなりません。手を借りなければ自立はできません。その手を貸してほしいです。たとえ親がいなくても（いなくなっても）不安なく暮らしていけるように。
- ・中学生の親です。先の事は正直不安な事だらけです。就職などできるのか、親が元気なうちはいいが、親がいなくなったらどうしたらいいか、兄弟に負担がいかないか、いずれ結婚などできるのだろうか。でもまず近いところで高校の通学。スクールバスが出なくなるので1人通学本当にさせられるのだろうか、何かあって1人で通学するのに対応できるのか心配だらけです。高校もバスがあると安心です。
- ・将来の就労や生活についての不安が大きいです。高校を卒業した後の生活の方が長いので、社会にうまく適応できるか？グループホームに入れるか？にとっても不安があります。家でいつまでも親とすごすのではなく、グループホームで自立して過ごしてほしいと願っていますが、都内にはとても少なく、入れるかどうか心配です。また就労しても継続できるのか？心配は多々あります。生きがいをもって幸せにくらしてほしいと切に願っております。また、障害児（者）に対して差別の目がなくなるよう願っています。

## 7. 保健・医療（3件）

- ・区と医療機関と訓練の橋わたしをして下さると助かります。どこで診察をしたらいいのか、ちょうど合うところが見つからず、あちこちかかってみています。障害の状態が理解されにくく、医師が知識をあまり持っていなかったり、新しい治療の更新や学習に意欲がない場合が多いので、具体的なアドバイスが得られていないです。区や訓練の係の方は、よく勉強されている的確なアドバイスをいただけるので、それはありがたく思っているのですが、連携してもらえたら助かります。

## 8. 情報・相談（2件）

- ・民間のサービスの紹介も積極的に行っていただけると嬉しいです。シビックセンターでの障害者歯科など、区のサービスを活用させていただいておりますが、かかりつけ医や友人からの情報で知ったものが多くあります。ためしに、いちから検索してみましたが、該当サービスにたどり着くにはかなり苦労しました。区役所トップページから調べやすいように、区役所ホームページのバリアフリー化も期待しています。

## 9. 雇用・就労（2件）

- ・文京区内で、障害者の一般就労を受け入れる企業、職場が少ない。ぜひ、増やしてほしい。

## 10. 生活環境（1件）

- ・障害児が安全に偏見の眼がない場所で遊ぶ場所がない。突然道路に飛び出す事があったり、大声で騒ぐ事があるため公園等で遊ばせる事ができず家にひきこもっています。（下の子もいるので1人で2人は見られません）遊具がある、安全な場所で障害児が楽しめる施設を週に何日かでも作っていただきたいです。

## 11. その他（1件）

- ・どの機関の方々も、ていねいに対応して下さいととてもありがたいです。

